



令和6年度
公立大学法人 福岡県立大学
アニュアルレポート

令和7年4月
公立大学法人 福岡県立大学

内容

理事長・学長メッセージ	1
Ⅰ. 大学基本情報	2
1. 大学憲章、教育研究上の目的	2
2. キャンパス所在地	5
3. 組織図	6
4. 役員等一覧（令和6年4月1日現在）	7
5. 教員役職者の任期一覧（令和6年4月1日現在）	8
6. 学部等紹介	8
Ⅱ. 教職員	18
1. 教員	18
（1）教員組織	18
（2）教員の性別構成	18
（3）教員の年齢構成	18
（4）学部	19
（5）研究科	20
2. 事務職員	21
（1）事務職員数（組織、補職）	21
（2）事務職員の採用区分	21
（3）事務職員の性別構成	21
（4）事務職員の年齢構成	21
Ⅲ. 学生	22
1. 学生数	22
（1）学生定数、学年定員、在籍学生数（県内県外、男女比）	22
（2）学部卒業生数（4年間で卒業した学生）	23
（3）大学院修了生数（2年間又は3年間（長期履修）で卒業した学生）	23
2. 学生の異動（退学・除籍・休学・留年）	24
（1）休学・退学・除籍数	24
（2）留年数	26
Ⅳ. 教育	27
1. 学部	27
（1）ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	27
（2）開設科目及び単位数	33
（3）卒業必要科目及び単位数	44
（4）全学横断型科目	45
（5）講義・演習・実習の開講科目数	45
2. 大学院	46
（1）ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	46
（2）教育課程及び履修基準	51
（3）講義・演習・実習の開講科目数	56
3. 学生の単位修得状況	57
（1）成績評価及び単位認定（学部・研究科）	57
（2）学部単位修得状況（学科ごとの成績評価とGPA平均値）	58
（3）大学院単位修得状況（成績評価）	58
（4）学修証明書取得者数	59
4. 教員免許状取得数（高校公民・中学社会・幼稚園教諭・養護教諭）	59
5. 保育士資格取得者数	59
6. スクールソーシャルワーカー教育課程修了者数	59
7. 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験合格者数	59
8. 看護師・保健師・助産師 国家試験合格者数	60
9. 社会調査士資格取得者数	61
10. 上級情報処理士資格取得者	61
11. 認定心理士資格取得者数	61
12. 臨床心理士資格取得者数	61

13. 臨床心理士資格取得者数学位プログラムD P レビュー	61
V. 教育の質の向上及び改善の取組	68
1. FD 活動（学部・研究科）	68
2. 教員個人業績評価結果	68
(1) 趣旨	68
(2) 評価の対象分野・ウエイト等	68
(3) 教員個人業績評価	68
3. 授業評価アンケート	69
4. 卒業時学修到達度調査	71
VI. 入試	74
1. 学部別入学者受入方針 アドミッション・ポリシー	74
2. 研究科別入学者受入方針 アドミッション・ポリシー	76
3. 入学者選抜方法	78
(1) 学部別入学試験種別と試験科目	78
(2) 研究科別入試選抜試験種別と試験科目	81
4. 入試実績	82
(1) 2025（令和7）年度 学部入学試験状況	82
(2) 2025（令和7）年度 学部出身地別入学者数	83
(3) 2025（令和7）年度 大学院入学試験状況	83
5. 入試広報	83
VII. 学生支援	84
1. 学生に対する経済面の援助	84
(1) 奨学金受給実績	84
(2) 授業料減免実績	84
(3) 授業料分割納付実績	84
(4) 学生寮の整備状況及び利用実績	84
2. 学生に対する生活支援（生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等）	85
(1) 保健室利用実績	85
(2) 学生相談室利用実績	85
(3) GPA に基づいた学習支援対象者数	85
(4) 課外・サークル活動概要	85
(5) キャリア相談室利用人数実績	88
(6) プレ・インターンシップ	88
(7) インターンシップ参加者数及び派遣企業・団体数	89
(8) 支援を必要とする学生数	89
(9) 留学生ビジット状況	89
(10) 留学生支援事業実施状況	89
(11) 社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験の受験対策実施状況	89
(12) 看護師・保健師国家試験の受験対策実施状況	90
(13) 公務員講座実施状況	90
(14) 就職対策講座実施状況	90
VIII. 施設・設備	91
1. 講義室等の設置状況	91
2. 施設・設備のバリアフリー化状況	91
3. 自主的な学習活動が可能な施設	91
4. 自習室（1号館1階）の利用状況	91
5. ICT 環境（情報処理センター）	92
(1) 情報処理学習施設	92
(2) 無線 LAN アクセスポイント	92
6. 図書館	93
(1) 施設・職員、開館時間	93
(2) 貸出条件	93
(3) 蔵書数	94
(4) 入館者状況	94

(5)貸出状況（学内・学外者）	94
7. 学生団体が課外活動に利用する施設の整備状況	94
IX. 就職	95
1. 卒業後の状況	95
(1)学科別就職率及び進学、就職希望者の就職率	95
(2)学科別所在地別就職先一覧	95
(3)学科別産業別就職先一覧	96
(4)大学院課程修了生専攻別就職率及び進学、就職希望者の就職率	96
(5)大学院課程修了生専攻別産業別就職先一覧	96
X. 研究	97
1. 研究成果の発信	97
(1)紀要等	97
(2)附属研究所業務実績報告書等	97
(3)その他	97
2. 研究奨励交付金決定一覧	98
3. 外部資金等の獲得実績（令和6年度受託研究等事業名）一覧	98
4. 科学研究費補助金応募・獲得状況及び外部研究費受入額（各学部）	99
5. 査読付学術書掲載論文数及び学会発表等（各学部）	100
6. 学術賞・論文等の受賞状況	100
7. 国際学会招待研究等一覧	100
8. 特許出願状況	100
XI. 国際交流	101
1. 学部・学年別・国籍別留学生数	101
2. 留学生の受入・派遣	101
(1)交換留学（受入・派遣）	101
(2)語学研修実績	101
(3)短期派遣	101
(4)留学における単位認定	101
3. 学術交流協定等締結校一覧	101
XII. 社会貢献	102
1. 公開講座等の実施状況	102
(1)公開講座実施状況	102
(2)科目等履修生、聴講生、研究生の受入状況	102
(3)出前講義の実施状況	102
2. 地域貢献活動	103
(1)不登校・ひきこもりサポートセンター活動概要	103
(2)社会貢献・ボランティア支援センター活動概要	104
(3)看護実践教育センター活動概要	104
(4)心理教育相談室実績	104
3. 学外講義・講演	105
4. 審議会・委員会等への参画状況	105
XIII. 財務	106
1. 資産と負債の状況	106
2. 土地と建物の状況	106
3. 自己収入の状況	106
4. 外部研究資金の獲得状況	107
5. 収支状況	107
6. 教育研究経費の状況	107
<付録>	108
1. 令和5年度における主な取組	108
2. 沿革	109
3. 歴代学長及び名誉教授一覧	112
4. 学年暦	114
5. 授業時間割（学部）	116

理事長・学長メッセージ



公立大学法人 福岡県立大学
理事長・学長 柴田 洋三郎

本学では平成 18 年の公立大学法人化以降、年度ごとに業務実績報告書を作成し、県評価委員会の法人評価を受け、教育研究業務運営の改善、改革を進めてきました。

また、学校教育法に定める機関別認証評価について、本学では 6 年に 1 度受審することとしており、令和 4 年度には、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、同年に受審した 19 大学のうち、本学は唯一「改善を要する事項」がなく、「法令適合性」「教育研究の水準」「特色ある教育研究」のすべての基準に関してこれまでの取り組みが非常に高く評価されました。

本学においては、令和 5 年度をもって第 3 期中期計画を終了し、新たに令和 6 年度から令和 11 年度における第 4 期中期計画を策定いたしました。第 4 期中期計画期間においては、「学生ファースト」の公立大学として、本学の大学憲章を踏まえ、DEIA (Diversity, Equity, Inclusion, Accessibility) の理念に基づき、個々の学生が自分らしく学び成長できるような教育環境の整備や学生支援に取り組んでまいります。

さらに、「データ駆動型アプローチ」による地域共生社会や高度福祉社会の実現に寄与する研究の推進や地域の幅広い世代や多様な人々が学べる「全世代型キャンパス」の推進を通して、地域文化の発展に寄与することを目指します。

地方独立行政法人法の改正により令和 6 年から、毎年度の法人評価に代わり、評価指標による自己点検評価が行われます。

この「アニュアルレポート」は、各種の内部質保証のために必要となる各種基礎データを取りまとめたものであり、平成 25 年度から毎年刊行しており、従来にも増して、その役割は重要となります。

今後とも、「学生ファーストの大学」という理念を現実の教育に落とし込みつつ、大小の変革を常に行っていくことにより激動する困難な環境を乗り越えていくことが求められますが、その基盤となるのはまず内部質保証サイクルです。大学組織レベルから教職員個々人のレベルまであらゆるレベルで積極的関与がなされるよう引き続き取り組みを推進するとともに、本レポートが「内部質保証システム」の運用に利活用され、本学の教育・研究・社会貢献活動の更なる質向上に資するとともに、「なくてはならない」大学として今後も社会から評価されていくことを願っています。

I. 大学基本情報

1. 大学憲章、教育研究上の目的

福岡県立大学憲章

福岡県立大学は、地域に根ざし、地域とともに発展する公立大学です。福岡県立大学は、文化の向上、保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与する、真理探究の精神と豊かな創造性を身につけた人材の育成にかかわる高等教育を推進するため、その構成員である学生、教員、職員が一体となって目指す行動の指針をここに定めます。

(人間性の原則)

福岡県立大学は、人間性に対する深い理解とたゆまぬ向上を志向する人材を育成するため、個人の尊重を中核とした基本的人権の確保、個人の人格および能力の全人的な発達の促進、社会を構築する市民として必要な教養及び倫理の涵養に努めます。また福岡県立大学は、主体的な学びを促進するとともに、そのために必要な環境を提供します。

(地域性の原則)

福岡県立大学は、地域性に対する深い理解を有する人材を育成するため、地域の方々との連携、地域社会における問題の解決及び地域の発展を図る活動に取り組みます。このような活動を行うことで、地域の方々との連携によりその成果を地域に還元する「知の拠点」としての機能を果たします。また福岡県立大学は、構成員の地域活動に対する自発的な参加を促進します。

(専門性の原則)

福岡県立大学は、専門性に対する深い理解を有する人材を育成するため、専門教育の基盤となる研究活動を積極的にを行います。教育及び研究においては、学問の自由および自律性を尊重するとともに、新たな知の発展に向けられた自由な創造性・独創性への挑戦を支援します。また福岡県立大学は、専門的職業人として必要な知識、技能及び職業倫理の涵養に努めます。

(多様性の原則)

福岡県立大学は、多様性に対する深い理解を有する人材を育成するため、思想・信条・人種・性別・国籍・民族を含むあらゆる個人および集団の多様性を尊重します。また福岡県立大学は、国際社会における個人及び集団間の理解及び寛容の精神を促進し、持続可能な社会の実現に寄与します。

(一体性の原則)

福岡県立大学は、構成員が一体となって、人間性の原則、地域性の原則、専門性の原則、多様性の原則の実現を図ります。この実現を図るため、福岡県立大学は、構成員の地位及び教育研究組織の自律性を尊重するとともに、教育研究環境の整備に努めます。

教育研究上の目的

【学部】

福岡県立大学は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、広く知識を授け、実践を重視した専門の学芸を教育研究して、真理探究の精神と豊かな創造性を身につけた人材を育成し、もって文化の向上、保健・福祉の増進及び地域の発展に寄与することを目的とする。

学 部	目 的	
人間社会学部	人間と社会に関する諸科学を学ぶことによって、人間と社会とを総合的に理解し、他の専門職と協働して問題解決に取り組むことのできる心豊かな人材を養成することを目的とする。	
	学 科	目 的
	公共社会学科	現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材育成を図ることを目的とする。
	社会福祉学科	複雑・多様化している生活問題（福祉問題）を解決するための科学的知識及び実践力を有する社会福祉の人材を養成することを目的とする。
	人間形成学科	人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行い、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的とする。
看護学部	看護学科	幅広い教養と豊かな人間性を備え、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を身につけ、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成することを目的とする。

【大学院】

福岡県立大学大学院は、広い視野に立って専攻分野に関する専門的学術を教育研究し、学術文化の進展に寄与するとともに、社会的な場でその高度な専門的知識を活用し得る指導的人材を養成することを目的とする。

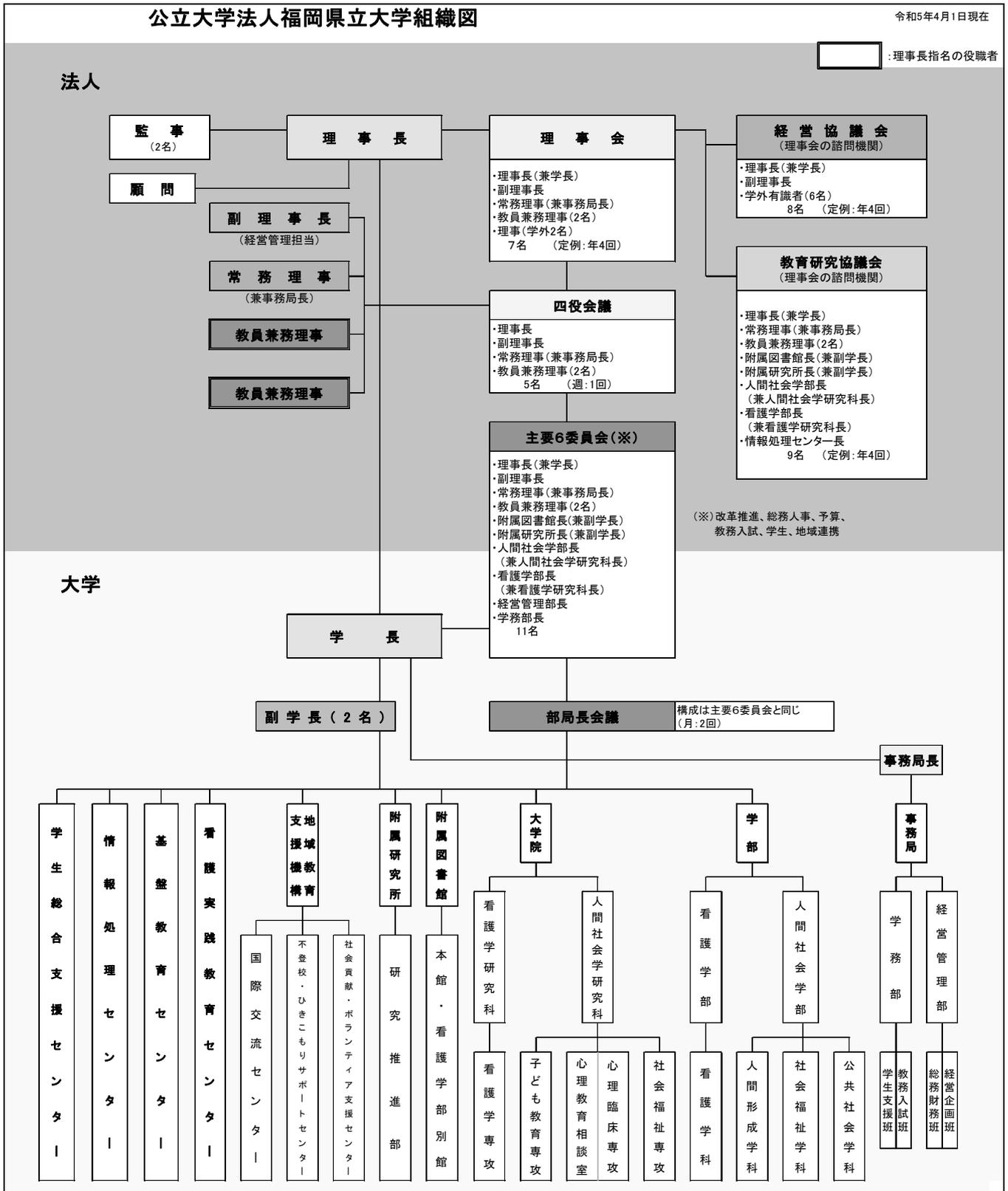
研究科名	目 的	
人間社会学研究科	21 世紀における少子・高齢化、地方分権及び自己実現要求の高まりを踏まえ、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うとともに、職業人のリカレント教育（学習）の要求に応えることを目的とする。	
	専攻名	目 的
	社会福祉専攻	児童と家族、障がい者及び高齢者等の援助を必要とする人びとの生活課題について、個人や家族、集団、地域等における人間関係やサービス利用状況等を含めて全体的に把握することで当事者の育成や保護、介護、社会参加及び自立支援等の在り方を研究することを目的とする。
	心理臨床専攻	心理学全般の領域を関連づけながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに、他職種とも協働する能力をもつ高度な専門職業人を養成すること、並びに心理分野について主体的に研究する能力を育成することを目的とする。
	子ども教育専攻	子ども教育分野における人間形成の営みとその諸問題を、保育学・教育学・児童福祉学及び関係諸科学から研究し、子ども教育分野の高度な専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。
看護学研究科	看護学専攻	地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的担い手である高度専門職業人としての看護職者や、看護学の創造と発展に貢献できる研究者・教育者を育成することを目的とする。

2. キャンパス所在地



〒825-8585 福岡県田川市大字伊田 4395 番地

3. 組織図



4. 役員等一覧（令和6年4月1日現在）

○理事会

理事任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

監事任期 令和4年9月1日～令和7年度の財務諸表承認日

役職名	氏名	所属団体・役職名
理事長	柴田洋三郎	福岡県立大学 学長兼務
副理事長	奥園秀史	
常務理事	野上明倫	福岡県立大学 事務局長兼務
理事（教員兼務理事）	上野行良	福岡県立大学人間社会学部 教授
理事（教員兼務理事）	松浦賢長	福岡県立大学看護学部 教授
理事	馬場貞仁	福岡県人事委員会委員
理事	古野金廣	学校法人福岡雙葉学園 副理事長
監事	井上道夫	井上法律事務所
監事	大谷晃士	大谷公認会計士事務所

○経営協議会

任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

役職名	氏名	所属団体・役職名
理事長	柴田洋三郎	福岡県立大学 学長兼務
副理事長	奥園秀史	福岡県立大学
委員	秋吉一明	福岡県立大学と共に歩む会 顧問
委員	亀川寿	田川商工会議所 会頭
委員	齋藤明	元 独立行政法人大学入試センター 監事
委員	豊福成史	福岡県立田川高等学校 校長
委員	野口久美子	福岡県立大学同窓会 会長
委員	村上卓哉	田川市長

○教育研究協議会

任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

役職名	氏名	役職名
学長	柴田洋三郎	福岡県立大学 理事長
委員	野上明倫	常務理事兼事務局長
委員	池田孝博	教員兼務理事
委員	松浦賢長	教員兼務理事
委員	石崎龍二	副学長兼附属図書館長兼情報処理センター長
委員	尾形由起子	副学長兼附属研究所長
委員	上野行良	人間社会学部長
委員	石田智恵美	看護学部長

5. 教員役職者の任期一覧（令和6年4月1日現在）

役職名	氏名	任期	任期の期間
学長	柴田洋三郎	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
副学長 兼附属図書館長	石田智恵美	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
副学長 兼附属研究所長	石崎龍二	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
人間社会学部長 兼人間社会学研究科長	池田孝博	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
看護学部長 兼看護学研究科長	江上千代美	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
不登校・ひきこもりサポートセンター長	小嶋秀幹	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
社会貢献・ボランティア支援センター長	原田直樹	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
看護実践教育センター長	尾形由起子	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
情報処理センター長	石田智恵美	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
学生総合支援センター長	森脇敦史	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日
基盤教育センター長	上野行良	2年	令和4年4月1日～令和6年3月31日

6. 学部等紹介

【人間社会学部】

〈公共社会学科〉

多様性を持った人々が、その多様性を保ちつつ、ともに安心して生活できる社会が高度福祉社会です。豊かな高度福祉社会の形成は、日本の各地域においても国際社会においても、重要な課題となっています。公共社会学科は、公共社会学の考え方を地域社会と国際共生の現場にできる限り近づけ、より現実に密着して具体的な課題解決力を高めることを目標としています。

公共社会学科で重視しているのは以下の4点です。

- ①公共性、地域社会、国際共生の視点を備える。
- ②コミュニケーション能力、リサーチ能力、ITスキルを習得する。
- ③社会のニーズを的確に把握する分析力をつける。
- ④問題解決への企画・提案力や調整力の基礎を培う。

これらの能力を基礎に、高度福祉社会を構築する実践的なプランナーとしてリーダーシップをとれる人材の育成を目指します。卒業後は次のような分野などで活躍が期待されます。

- ・地域資源（人、モノ、文化、自然）をコーディネートし、地域づくりや地域活性化にかかわる。
- ・国際関係を踏まえた共生のあり方を学び、国際協力に積極的に貢献する。
- ・社会的企業（ビジネスモデルを活用した社会事業団体）で活躍する。
- ・国内外に展開している民間企業で活躍する。

〈社会福祉学科〉

社会福祉学とは、さまざまな生活上の困難をかかえる人々を支援し、その問題解決のために必要な制度・政策、そして具体的援助方法を学ぶ学問です。

今日の急激な社会変化のなかで人々が直面する生活問題は複雑多様化しています。こうした状況に対応するため社会福祉が対象とする領域はますます幅広くなると同時に社会福祉学への社会的な期待も一層高まっているのが現状です。従って社会福祉を学ぶためには、

1. 人間と社会への深い関心と理解を持つ。
2. 人びとの生活の実態に触れ、その生活上のニーズを正確に把握する。
3. 社会福祉の制度・政策やその仕組みについて理解する。
4. 社会福祉施設・機関の援助活動や個別の問題解決を目指す社会福祉実践の内容や方法を具体的に理解する。

などが必要です。

さらに、社会福祉の援助サービスは人と人との関係を通して展開されるため、援助者には何よりも豊かな人間的資質と生活問題に対する客観的・科学的理解が求められます。

<人間形成学科>

人間形成学科は、人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行う学科です。本学科は、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することを目的としています。本学科を卒業した学生には、学士（教育学）の学位が与えられます。

そのため、人間形成学科では、すべての学生が教育学に関する基本的な知識を修めます。その上で、自分の学びたい内容、専門性を深めていけるように、学科独自の「心理コース」と「こどもコース」を設定し、コースごとに教育カリキュラムを編成しています。また、両コースの学生が自分の興味に応じて2つのコースの学びに関連する授業科目を自由に選択することも可能です。

[心理コース]

心理コースでは、生涯にわたるこころのあり方とその援助について理解し、こころとその援助に関する現代的課題について考察していきます。そのために、心理学の基礎や心理学研究に必要な方法論についていろいろな側面から学んでいきます。その側面とは、①心のしくみ、②心を支える、③人と関わる、④心理学の基礎です。このコースは、卒業後に公務員・企業・病院などで相談業務に就くことや大学院に進んで心理臨床活動や心理学研究することを目指す人のコースです。また、公認心理師となるために必要な科目を配置しています。

[こどもコース]

こどもコースは、保育士および幼稚園教諭を養成することを主たる目的としています。このコースでは、人間形成学科のコース共通カリキュラムである基幹科目を学んだ上で、保育士資格や幼稚園教諭免許の取得に必要なコース展開科目を履修していきます。また、学修者の目的や興味に応じて、社会教育に関わる関連科目を自由に選択することで、教育学に関する幅広い知識を身につけることができます。

[総合人間社会コース]

総合人間社会コースは、福祉社会において幅広く役に立つ知識やスキルを身につけることにフォーカスした授業で構成される「プログラム」に沿って教育を行うコースです。総合人間社会コースを選択した学生の所属学科や、卒業に必要な単位数等は変わりません。総合人間社会コース

で卒業論文まで執筆することができるよう編成されたプログラムとして、「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」が開設されています。

【看護学部】

<看護学科>

幅広い知識と豊かな人間性を備え、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を身につけ、他の専門職と協働し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成することを目的として教育を行っています。教育方針として、①生命・人の尊厳を理解し、人の存在を尊重できる人材を育成する。②地域社会に生活する人として、包括的な視点で人を理解できる人材を育成する。③専門職者としての自律性を備え、他職種と協働できる人材を育成する。④健康現象の多様性を理解し、看護実践への活用と発展に寄与できる人材を育成する。⑤自己研鑽する姿勢を持ち、専門的な知識・技術を基に課題解決できる人材を育成する。という5つの柱を立てています。これらを実現するために、本学部のカリキュラムでは、将来にわたって人々の健康で幸福な生活の実現に貢献する使命を果たすためのプロフェッショナリズムの視点をもてるように組み立てています。

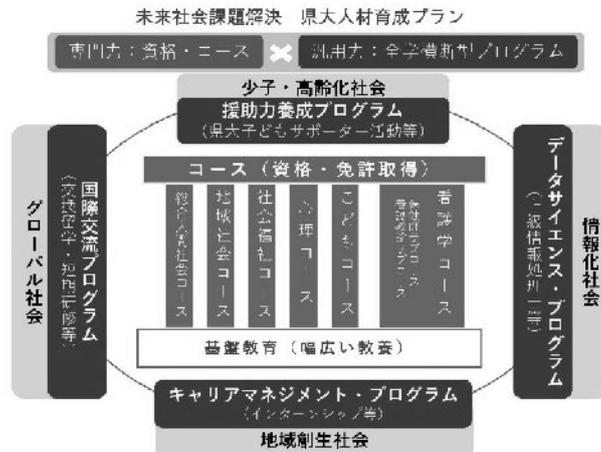
特に、「看護倫理」、「医療安全」、「チーム医療論」、「災害看護学」では、これらの科目を通して、倫理観を兼ね備え、医療機関や施設における看護場面だけでなく、災害においても力を発揮できるようメンバーシップやリーダーシップがとれるよう構成しています。また、さまざま場面で、看護を実践するために、対象となる人々の理解と解決のための思考や看護技術を段階的に演習科目と実習科目を修得していきます。

看護学科で取得できる資格と免許は、4年間で、1) 看護師国家試験の受験資格、2) 保健師国家試験の受験資格、また、3) 養護教諭一種免許を取得する教育科目もあります。看護師の受験資格は全学生が対象です。保健師コースは2年生後期に選抜制で15名程度、養護教諭は2年生前期に選択制で希望する者が対象となります。これらの資格を取得し、卒業生が胸を張って社会にでていける教育を目指しています。

また、人間社会学部との「全学横断型教育プログラム」があり、これらも含めて看護の対象の人間を理解するための学術的な幅広い知識を学ぶことができます。

全学横断型教育プログラム

本学では、未来社会で活躍するリーダーとなる人材の育成を目指して、全学横断型教育プログラムを提供しています。このプログラムは、主専攻となる国家資格取得などを旨とする2学部4学科の「専門コース」に対して、副専攻として位置づけられています。



現在、以下の4つのプログラムを設置しており、学修段階に応じて選択的に履修することができます。

- ① データサイエンス・プログラム：情報化社会に適応する能力を養成します。
- ② 援助力養成プログラム：少子・高齢化社会に対応できる対人援助力を養成します。こどもサポーター活動などを通じて、不登校・ひきこもりサポートセンターと連携しています。
- ③ 国際交流プログラム：留学などを通じて、国際的な共存社会に対応する力を養成します。
- ④ キャリアマネジメント・プログラム：プレ・インターンシップなどを通じて、就業力を向上させるためのプログラムです。

データサイエンスとキャリアマネジメントのプログラム修了者には学修証明書が授与されます。また、これらのプログラムについては人間社会学部では総合人間社会コースを設置し、専門的な学びを深めるための主専攻とすることができるようにしています。

【人間社会学研究科】

21世紀に入り、少子・高齢化、地方分権化、自己実現要求の高まりに伴い、福祉政策、教育、対人援助に関わる高度な専門的知識・技術を持ち、地域社会で高度福祉社会の実現に貢献できる職業人の養成が求められています。そこで、人間社会学部を基礎とし、さらに専門性を持つ人材の養成と、職業人のリカレント教育に応えるため、平成9年に大学院修士課程「人間社会学研究科」が設置されました。

人間社会学研究科は、社会福祉専攻、心理臨床専攻、子ども教育専攻の3つの専攻から構成されています。

〈社会福祉専攻〉

社会福祉専攻は、社会福祉の問題を客観的に把握し、生活上の課題に応じた支援方法を提案できる人材の養成を目指します。

1. 「社会福祉研究A」と「ソーシャルワーク研究A」を必修科目とし、基盤となる価値や知識、技術を習得します。
2. 修士論文の作成支援として「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を設置し、学術的な研究方法を学ぶため「社会福祉研究法」「量的研究法」「質的研究法」など、研究方法科目を設けています。

3. 実践的スキルを高めるため「フィールドワーク」を実習科目として設置しています。
4. 児童、障がい者、高齢者など、さまざまな支援対象に関する幅広い専門知識を学ぶため、多様な専門科目を設置しています。

〈心理臨床専攻〉

心理臨床専攻では、生涯にわたって心理的支援が必要な人々の心理的側面を支えられる高度な専門職業人を養成します。心理学の基礎から実践に至るまでの知識と技能を総合的に学びます。本専攻は、日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院であり、公認心理師取得に必要な科目も配置しています。

1. 教育、医療、福祉領域で活躍できる高度な専門職業人を養成し、他分野の専門職と協働できるスキルを育成するため、関連分野の科目を設けています。
2. 実践的なスキルに加えて研究能力も育成するため、1年次から特別研究を課し、幅広い心理学分野の基礎と応用を学べる科目を設置しています。
3. 学内の心理教育相談室や外部の医療、福祉、教育機関での2年間にわたる実習を通じ、心理療法や心理査定の基本的なスキルを体系的に習得します。

〈子ども教育専攻〉

子ども教育専攻では、保育・幼児教育及び小学校教育を中心とする分野の高度な専門的職業人及び研究者を養成します。

1. 保育・幼児教育、小学校教育、子どもの心理学、児童福祉学、社会学分野に関する専門科目を設置しています。
2. 「教育課題研究A・B」は、異なる専門をもつ教員がオムニバス形式で展開し、各分野における知識と研究方法を学びます。
3. 「地域教育課題演習」と「子ども教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」を通じて、理論と実践を往還しながら、質の高い指導力を修得します。
4. 「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を通じて、研究者や高度な職業人に求められる課題解決能力を養成します。

以上の構成により、人間社会学研究科は、多様な分野で活躍できる高度な専門職業人を養成しています。

【看護学研究科】

(1) 設置の趣旨

少子高齢社会を背景にし、看護の活動領域と内容においてますます広がりを見せ、多種多様化してきています。これからの看護職(保健師、助産師、看護師)は、それぞれの専門性を生かし、地域内外、施設内外において他の職種と連携をとりつつ、地域住民の健康課題を解決する必要があります。看護職に求められている的確な状況判断と効果的なケアの実施のために、エビデンスのある適切なケアを即座に検討できる力を備えることが重要です。従来以上に主体性や創造力を発揮し、高い倫理観をもった専門職となり、対象とする人々に対する深い理解に裏打ちされた質の高い看護実践能力とあわせてマネジメント能力も必要とされるようになってきています。

本学では看護学部と人間社会学部が併設されている点を最大限活かし、地域の保健・医療・福祉分野の施策展開を推進する中核的な担い手である高度職業人としての看護職や、研究者・教育者を養成することを目指し、大学院修士課程看護学研究科を設置しました。

(2) 看護学専攻の構成と特色

看護学専攻は、研究コース、助産コースの2つのコースから成り立っています。研究コースは、基礎看護学、看護心理学、看護教育学、実験看護学、地域看護学、思春期ヘルスプロモーション、在宅看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、助産学の12の領域、助産コースは助産学領域で教育を行っています。

〈研究コース〉

研究コースでは臨床看護や看護教育を、根拠をもって行うことにつながる基礎的な研究や、看護学や看護教育学の発展につながる研究を行う能力を培い、医療機関等や教育機関あるいは行政機関で、組織の管理者や教育者として看護の質の向上や看護教育の質の向上に寄与しうる人材の育成を目指しています。

〈助産コース〉

助産コースは、周産期の様々な課題に対応するため高度で自律した助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指すコースであり、助産師国家試験受験資格を取得することができます。また規定の科目を習得することで、受胎調節実地指導員申請資格・新生児蘇生法「専門」コース認定申請資格も取得することができます。

〈専門看護師コース〉

専門看護師コースは、精神看護と老年看護で構成されています。老年看護では、認知症看護と終末期看護の2つのサブスペシャリティを、精神看護では、地域精神看護（精神障害者の地域移行・地域定着看護）とリエゾン精神看護（一般身体疾患を持つ人の精神的な問題に対する看護）のいずれかを修得できます。学生の皆さんが自己の専門看護師としての将来像を描きやすいように、在学中・修了後を通して多くのエキスパートの専門看護師と出会う機会を提供していることも当コースの大きな魅力の一つです。

〈助産実践形成コース〉

助産実践形成コースは、周産期の様々な課題に対応するため高度で自律した助産実践能力を身につけた助産師の育成を目指すコースであり、助産師国家試験受験資格を取得することができます。

す。また規定の科目を習得することで、受胎調節実地指導員申請資格・新生児蘇生法「専門」コース認定申請資格も取得することができます。

【附属図書館】

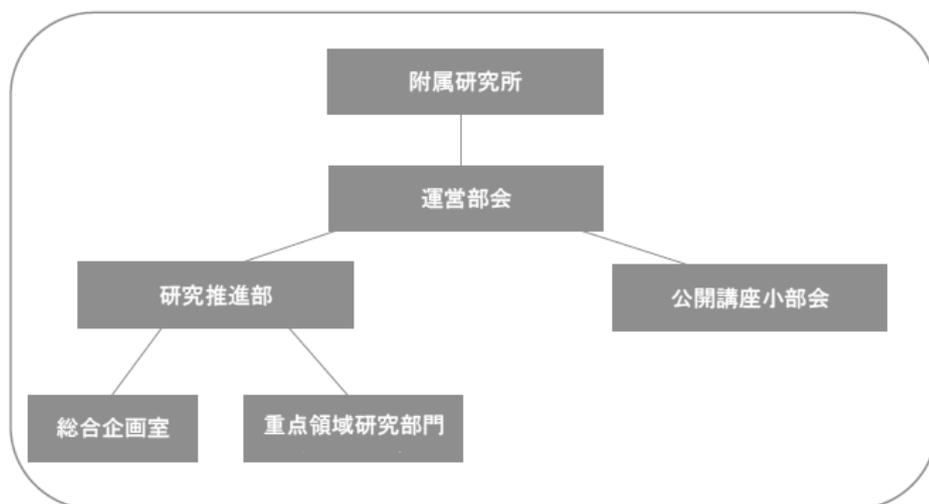
本学の図書館は、学生の学習支援・教員の教育及び研究支援・地域の図書利用者に対する支援などを主な目的として本館と分館が設置されており、本館・分館あわせて図書約16万冊、学術雑誌約12万冊を所蔵しています。本館の学習スペースおよび分館のラーニングコモンズにおいては、学生の「学び」の創造と自律的学修が促進されるよう環境づくりに取り組んでいます。

また、学生が学習や研究に文献を活用できるよう、文献検索演習を企画・運営しています。このように、図書館を多様な学習の場として認識し、身近な存在としてより多くの学生が利用できるような図書館づくりを行っています。

【附属研究所】

附属研究所は、学内外の諸機関との連携を図りつつ、保健福祉、生涯発達、社会に関する実践的な研究・教育並びに地域支援活動を推進し、本学の学術研究水準の向上と高度福祉社会の創出に寄与することを目的として設置されています。

総合的な研究・調査の企画及び実施、学外からの受託研究、共同研究、学術資料等の収集整理及び情報発信も行っています。学内外の研究に関する相談事業の企画及び実施、地域開放講座、研究会、研修会等の企画及び実施、産学官連携事業などにも取り組んでいます。



令和3年度より、附属研究所の円滑な運営のために「運営部会」を設置し、組織を再編成しました。このうち、「研究推進部」は、附属研究所の研究機能の強化を図る目的で設置している組織で、主として統合的な研究・調査の企画を担当する「総合企画室」及び専ら統合的な研究・調査を実施する「重点領域研究部門」から構成されています。本学の保健・医療・福祉分野における強みを生かし、「研究推進部」が企画、実施する統合的な研究・調査を充実させ、十分な成果を挙げていくことができるよう取り組んでいます。

【不登校・ひきこもりサポートセンター】

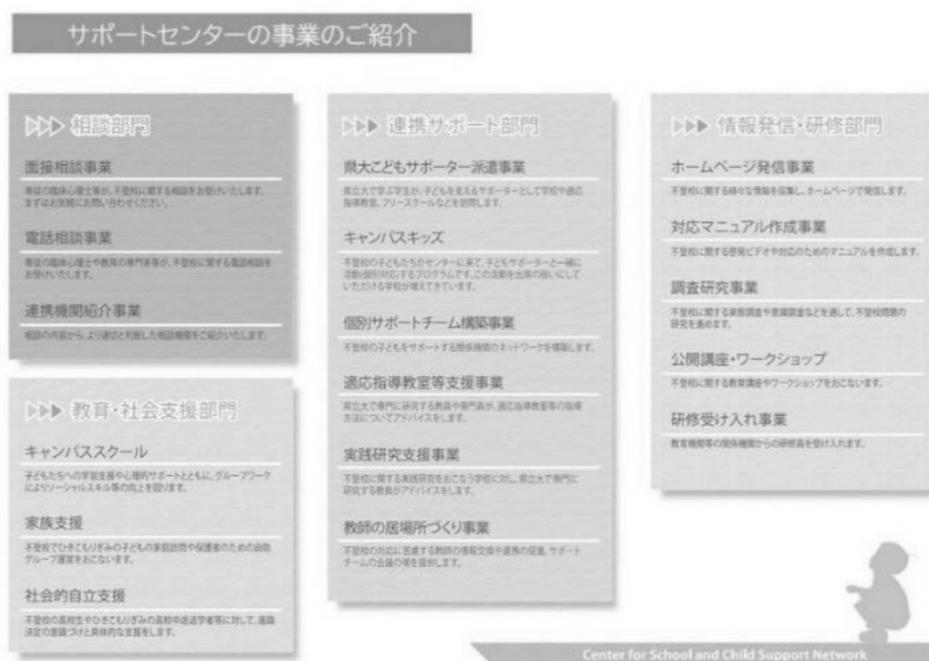
福岡県立大学「不登校・ひきこもりサポートセンター」は、不登校やひきこもりに悩む子どもたちの将来の社会的自立を目標にした、専門的な支援をおこなう機関です。

子どもの状態に応じた個別や集団による直接的な支援とともに、保護者や家庭への支援、学校や教育支援センター（適応指導教室）への支援、他の専門支援機関との地域連携ネットワークの強化など、子どもと子どもを取り巻く環境の双方に必要な支援をします。

福岡県立大学には、福祉・保健・心理・教育などの分野から、不登校・ひきこもりの支援を研究する専門的教員が多くいます。これら専門教員と県立大で学ぶ大学生、大学院生、そしてサポートセンターの専門職員が一体となり、「相談部門」「連携サポート部門」「情報発信・研修部門」「教育・社会支援部門」の各部門を連動させ、総合的な支援をおこないます。

また、新たな教育研究拠点として発展させるため、平成31年度より附属研究所から独立しました。

＜事業内容＞



【社会貢献・ボランティア支援センター】

社会貢献・ボランティア支援センターは、ボランティア活動を中心とした本学の学生の様々な社会貢献活動を支援する取り組みを進めています。

具体的には、ボランティア活動を希望する学生に様々な情報を提供し、ボランティア活動を募集・依頼したい地域の団体・機関と学生をつなぐ役割を果たします。また、活動を行う学生の様々な相談に応じながら、活動が学生にとっての貴重な「学びの場」となるよう支援していきます。さらに、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の企画・実施などにも取り組んでいます。

＜事業内容＞

1. 学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施
 - ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供
 - ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施
2. 社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援
 - ・学生グループの活動の場の提供

- ・学内の学生ボランティアサークルの課題を把握、支援
- ・外部団体等の社会貢献活動に参加・協力する学生グループに対し、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援

3. 学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上

- ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等を企画・実施

【看護実践教育センター】

福岡県立看護実践教育センターは、人が「生活者」として生きていくその生き方を支える看護のあり方を追求し、地域社会との連携のもとに、多面的な視野に立って人間と健康に関わる問題を解決できる、看護実践の中核的な役割を果たす看護職が育つ教育を目指しています。

平成21年度から11年間、糖尿病看護認定看護師の養成を中心とした看護実践教育を実施してまいりました。研修を修了した研修生達は、糖尿病のある人々やその周囲の人々に対し、高度な看護実践を臨地で展開しています。

また、令和3年4月から、国において改正された保健師助産師看護師法に則り、更なる在宅医療等の推進のための看護師特定行為研修を開講いたしました。これまでの認定看護師育成で培ったノウハウを活かし、臨地で勤務する現役看護師のリカレント教育の一環として看護師特定行為研修を実施し、看護を深めております。少子高齢化の進展により医療・介護ニーズが増大し、この社会の変遷に対応するために、医療・介護の提供体制の改革が進められ、様々な医療ニーズをもつ人々を支え、医療機関等施設や地域医療に貢献できる看護職の人材育成を行っています。大学近隣施設の医師や多職種との協力を得ながら、経験豊富な学内講師及び学外講師陣により学べる体制を整えています。

【基盤教育センター】

基盤教育センターは、人間社会学部と看護学部の両学部の専任教員がセンター員として任命され、基盤教育科目（教養科目、基礎科目）と全学横断型教育の充実と改善に力を入れています。

教養科目では、各学科における専門教育に必要な科目と、専門的職業人・社会人として求められている教養を身につけることを目的とした科目を設置し、その充実と改善を図っています。生物学や心理学や統計学など、保健福祉の専門教育に不可欠な教育を充実させるとともに、社会や法律、人権や情報科学、アート論や文学など、専門的職業人に求められる深い教養や豊かな人間性を養うための幅広い教養科目を用意しています。

基礎科目では新入学生が大学での教育に速やかに移行できるための導入教育、大学での学習や社会人・職業人として欠かせない情報処理、国際化時代に対応するための英語に加え、アジアを中心とした言語の語学教育などを提供しています。

特に導入教育には力を入れており、少人数ゼミナール形式の「教養演習」を行っています。この「教養演習」では、本学の学生ニーズに対応した独自のテキストを出版し使用し、レポート作成の指導や添削を行うなど、きめ細かな教育に努めています。

【情報処理センター】

情報処理センターは、下の3つの役割に寄与することを目的として設置されています。

- * 学内情報ネットワークシステム（学内LAN：Local Area Network）の管理
- * 情報処理および統計処理スキル向上の支援
- * 学生の情報処理教育の向上

情報処理センターでは、インターネットを通じて学内外の情報を収集したり発信したりするために、学内 LAN を構築し、その管理運営を行っています。また、学内の全学生、教職員のメールアドレスや大学公式 Web サイトの管理を行っています。学内 LAN には、図書館を含むキャンパス内のほぼ全てのコンピュータが接続されていて、その役割は年々重要なものになってきています。このため、学内 LAN の利便性とともなセキュリティの向上は重要な課題です。そのための、定期的な学内 LAN の再構築と点検・整備を行っています。

平成 22 年度から導入した e ラーニングシステムは、現在ではオンラインコミュニケーションツールやビデオコンテンツ配信プラットフォームを活用することで、遠隔授業や対面授業とのハイブリッド授業を支援するツールとして進化しています。その結果、学生一人ひとりの学習スタイルに柔軟に対応できる環境が整い、学生の主体的な学びを促進しています。

【学生支援センター】

学生総合支援センターは、学生の学修・学生生活支援に従事する教職員が連携協働し、必要な支援の強化を図ることを目的として、令和 2 年度に開設されました。

本センターでは、就学上の配慮を必要とする障がいのある学生からの申請を受けて、支援案の作成と決定を行っています。またセンターは、支援計画案の策定及び決定後の具体的支援を実施する学部・研究科等との連携調整を行っています。

Ⅱ. 教職員

1. 教員

(1) 教員組織

(令和6年5月1日現在)

組織		人数	
		うち大学院と兼務	
大学	人間社会学部	46	27
	看護学部	55	24
大学院	人間社会学研究科	27	
	看護学研究科	24	
附属研究所		0	
看護実践教育センター		2	
合計		103	

(2) 教員の性別構成

(令和6年5月1日現在)

職位	男		女		合計
	人数	合計に占める割合	人数	合計に占める割合	
教授	15	55.6%	12	44.4%	27
准教授	15	50.0%	15	50.0%	30
講師	6	30.0%	14	70.0%	20
助教	1	4.8%	20	95.2%	21
助手	1	20.0%	4	80.0%	5
合計	38	36.9%	65	63.1%	103

(3) 教員の年齢構成

(令和6年5月1日現在)

職位 年齢	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	全体に占める割合 (%)
25～29					1	1	1.0%
30～34			2	1		3	2.9%
35～39			3	5	2	10	9.7%
40～44		5	3	3		11	10.7%
45～49	4	6	6	4	1	21	20.4%
50～59	13	16	6	6		41	39.8%
60～64	10	3		2	1	16	15.5%
65～						0	0.0%
合計	27	30	20	21	5	103	
平均年齢	56.69	50.94	45.09	46	39.80	49.39	

(4) 学部

① 学部別専任教員（助教以上）の現員

(令和6年5月1日現在)

学部	学科	現 員				計
		教授	准教授	講師	助教	
人間社会学部	公共社会学科	7	8	3	0	18
	社会福祉学科	6	4	3	1	14
	人間形成学科	6	5	4	2	17
看護学部	看護学科	10	14	13	17	54
合計		29	31	23	20	103

② 採用実績

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
R 1 年度	2	1	2	1	1	7
R 2 年度	0	0	1	0	2	3
R 3 年度	1	0	2	1	1	5
R 4 年度	2	0	2	1	4	9
R 5 年度	1	3	2	6	1	13
R 6 年度	0	0	0	0	1	1
合計	6	4	9	9	10	38

③ 専門科目における主要科目（必修科目）の専任教員担当状況

学部	学科	主要科目数	主要科目の専任教員担当の科目数	主要科目で非常勤対応の科目数
人間社会学部	公共社会学科	13	13	0
	社会福祉学科	6	6	0
	人間形成学科	5	5	0
看護学部	看護学科	68	66	2

④ 学部別教育補助者（助手・TA）配置数

(令和6年5月1日現在)

学部	現員
人間社会学部	8
看護学部	1

※ T A : 3 名 (人間社会学研究科大学院生)

⑤ 非常勤講師の人数と時間数

学部	人数	時間
人間社会学部	65	3,030
看護学部	5	146
両学部共通	23	2,112
合計	93	5,288

(5) 研究科

① 専攻別指導教員数

(令和6年5月1日現在)

研究科	専攻	現員
人間社会学研究科	社会福祉専攻	5
	心理臨床専攻	5
	子ども教育専攻	3
看護学研究科	看護学専攻	7

② 研究指導補助教員数

(令和6年5月1日現在)

研究科	専攻	現員
人間社会学研究科	社会福祉専攻	7
	心理臨床専攻	5
	子ども教育専攻	3
看護学研究科	看護学専攻	10

③ 専門科目における主要科目（必修科目）の専任教員担当状況

研究科	主要科目数	主要科目の専任教員 担当の科目数	主要科目で非常勤対応 の科目数
人間社会学研究科	19	19	0
看護学研究科	3	2	1

④ 非常勤講師の人数と時間数

研究科	人数	時間
人間社会学研究科	10	390
看護学研究科	3	60
合計	13	450

2. 事務職員

(1) 事務職員数（組織、補職）

（令和6年5月1日現在）

本務職員			非常勤職員	人材派遣会社からの派遣職員	業務委託による従事者
設置団体の職員	法人採用の職員	定員			
11	11	22	24	0	17

(2) 事務職員の採用区分

採用年度	プロパー職員
R 1 年度	0 名
R 2 年度	0 名
R 3 年度	0 名
R 4 年度	1 名
R 5 年度	3 名
R 6 年度	0 名

(3) 事務職員の性別構成

（令和6年5月1日現在）

性別	男	女
人数	12 名	12 名

※本統計は事務局本務職員のための統計。

(4) 事務職員の年齢構成

（令和6年5月1日現在）

年齢	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～	合計	平均
人数	0	3	8	3	0	3	4	2	23	37.7

※本統計は事務局本務職員のための統計。

Ⅲ. 学生

1. 学生数

(1) 学生定数、学年定員、在籍学生数（県内県外、男女比）

（学部）

（令和6年5月1日現在）

学部	定数	在籍者数							
		男			女				
		県内	県外	県内	県外				
R3 年度 入学者 4 年生	公共社会学科	50	56	24	13	11	32	13	19
	社会福祉学科	50	54	10	3	7	44	19	25
	人間形成学科	50	52	9	2	7	43	13	30
	看護学科	90	94	4	3	1	90	58	32
	小計	240	256	47	21	26	209	103	106
R4 年度 入学者 3 年生	公共社会学科	50	56	21	11	10	35	23	12
	社会福祉学科	50	53	10	5	5	43	29	14
	人間形成学科	50	58	11	4	7	47	21	26
	看護学科	90	96	7	4	3	89	57	32
	小計	240	263	49	24	25	214	130	84
R5 年度 入学者 2 年生	公共社会学科	50	52	16	5	11	36	13	23
	社会福祉学科	50	53	15	4	11	38	17	21
	人間形成学科	50	55	11	5	6	44	13	31
	看護学科	90	103	6	0	6	89	57	32
	小計	240	263	48	14	34	207	100	107
R6 年度 入学者 1 年生	公共社会学科	50	56	20	7	13	36	11	25
	社会福祉学科	50	53	8	4	4	45	19	26
	人間形成学科	50	61	8	7	1	53	26	27
	看護学科	90	91	2	2	0	88	54	34
	小計	240	261	38	20	18	222	110	112
公共社会学科	200	220	81	36	45	139	60	79	
社会福祉学科	200	213	43	16	27	170	84	86	
人間形成学科	200	226	39	18	21	187	73	114	
看護学科	360	384	19	9	10	356	226	130	
合計	960	1,043	182	79	103	852	443	409	

(研究科)

(令和6年5月1日現在)

研究科	定数	在籍者数							
		男			女				
		県内	県外	県内	県外				
R5年度以前入学者 2年生	社会福祉専攻	6	13	0	0	0	13	11	2
	心理臨床専攻	6	8	0	0	0	8	5	3
	子ども教育専攻	3	3	0	0	0	3	3	0
	看護学専攻	12	6	0	0	0	6	6	0
	小計	27	30	0	0	0	30	25	5
R6年度入学者 1年生	社会福祉専攻	6	7	4	4	0	3	2	1
	心理臨床専攻	6	6	2	2	0	4	4	0
	子ども教育専攻	3	2	0	0	0	2	2	0
	看護学専攻	12	11	2	2	0	9	8	1
	小計	27	26	8	8	0	18	16	2
社会福祉専攻		12	20	4	4	0	16	13	3
心理臨床専攻		12	14	2	2	0	12	9	3
子ども教育専攻		6	5	0	0	0	5	5	0
看護学専攻		24	17	2	2	0	15	14	1
合計		54	56	8	8	0	48	41	7

(2) 学部卒業生数（4年間で卒業した学生）

入学年度 (学部)	公共社会学科		社会福祉学科		人間形成学科		看護学科		合計		4年間で卒業した 学生の割合 (%)
	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	
H27年度	55	54	52	49	58	55	95	85	260	243	93.5%
H28年度	53	51	59	56	57	55	98	89	267	251	94.0%
H29年度	57	51	56	53	54	52	93	90	260	246	94.6%
H30年度	54	50	53	48	58	57	101	91	266	246	92.5%
H31年度	55	52	54	50	57	51	96	84	262	237	90.5%
R2年度	52	47	55	46	54	48	90	89	251	230	91.6%
R3年度	56	53	53	50	52	50	95	91	256	244	95.3%

※編入学生を除く

(3) 大学院修了生数（2年間又は3年間（長期履修）で卒業した学生）

入学年度 (研究科)	人間社会学研究科				看護学研究科				合計				2年間で卒業した 学生の割合 (%)	3年間で卒業した 学生の割合 (%)
	2年間		長期履修		2年間		長期履修		2年間		長期履修			
	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業	入学	卒業		
H29年度	11	11	3	0	6	4	3	1	17	15	6	1	88.2%	16.7%
H30年度	15	13	4	3	12	9	4	3	27	22	8	6	81.5%	75.0%
H31年度	5	5	5	2	6	6	7	7	11	11	12	9	100.0%	75.0%
R2年度	8	8	3	0	6	6	2	0	14	14	5	0	100.0%	0.0%
R3年度	7	6	3	2	7	7	2	1	14	13	5	3	92.9%	60.0%
R4年度	10	7	2	0	7	7	1	0	17	14	3	0	82.4%	0.0%
R5年度	10	9	6	-	4	4	0	-	14	13	6	-	92.9%	-

2. 学生の異動（退学・除籍・休学・留年）

(1) 休学・退学・除籍数

（学部）

学部		入学者数	休学者数	休学率 （%）	退学者数	退学率 （%）	除籍者数	除籍率 （%）	
R3 年度 入学者	4 年生	公共社会学科	56	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	53	3	5.7%	0	0.0%	1	1.9%	
	人間形成学科	52	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	看護学科	91	4	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	
	小計	252	8	3.2%	0	0.0%	1	0.4%	
R4 年度 入学者	3 年生	公共社会学科	56	5	8.9%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	55	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	
	人間形成学科	59	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	
	看護学科	92	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	
	小計	262	7	2.7%	2	0.8%	0	0.0%	
R5 年度 入学者	2 年生	公共社会学科	52	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%
	社会福祉学科	53	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	人間形成学科	55	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	
	看護学科	96	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	小計	256	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	
R6 年度 入学者	1 年生	公共社会学科	56	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	社会福祉学科	54	0	0.0%	1	1.9%	0	0.0%	
	人間形成学科	61	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	
	看護学科	91	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	小計	262	1	0.4%	1	0.4%	0	0.0%	
公共社会学科	220	6	2.7%	1	0.5%	0	0.0%		
社会福祉学科	215	3	1.4%	3	1.4%	1	0.5%		
人間形成学科	227	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%		
看護学科	370	5	1.4%	0	0.0%	0	0.0%		
合計	1,032	17	1.6%	4	0.4%	1	0.1%		

※編入学生を除く

(研究科)

研究科		入学者数	休学者数	休学率 (%)	退学者数	退学率 (%)	除籍者数	除籍率 (%)
R4年度 以前入学者	3年生							
	社会福祉専攻	4	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
	心理臨床専攻	7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	子ども教育専攻	1	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%
	看護学専攻	8	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	20	4	20.0%	1	5.0%	0	0.0%
R5年度 以前入学者	2年生							
	社会福祉専攻	7	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
	心理臨床専攻	8	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	子ども教育専攻	1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学専攻	4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	20	1	5.0%	0	0.0%	0	0.0%
R6年度 入学者	1年生							
	社会福祉専攻	7	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	心理臨床専攻	6	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	子ども教育専攻	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	看護学専攻	11	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	小計	26	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会福祉専攻		18	3	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
心理臨床専攻		21	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
子ども教育専攻		4	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%
看護学専攻		23	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
合計		66	5	7.6%	1	1.5%	0	0.0%

(2) 留年数

(学部)

学部		在籍者数	留年者数
H 30 年度	公共社会学科	223	6
	社会福祉学科	228	5
	人間形成学科	231	0
	看護学科	390	4
	小計	1,072	15
H 31 年度	公共社会学科	218	2
	社会福祉学科	227	4
	人間形成学科	230	2
	看護学科	395	9
	小計	1,070	17
R 2 年度	公共社会学科	217	2
	社会福祉学科	220	3
	人間形成学科	227	2
	看護学科	388	10
	小計	1,052	17
R 3 年度	公共社会学科	221	5
	社会福祉学科	212	2
	人間形成学科	224	4
	看護学科	382	3
	小計	1,039	14
R 4 年度	公共社会学科	221	4
	社会福祉学科	214	3
	人間形成学科	219	1
	看護学科	376	10
	小計	1,030	18
R 5 年度	公共社会学科	218	1
	社会福祉学科	216	3
	人間形成学科	221	4
	看護学科	379	11
	小計	1,034	19
R 6 年度	公共社会学科	224	4
	社会福祉学科	214	1
	人間形成学科	230	4
	看護学科	384	4
	小計	1,052	13

※在籍者：その年度の在籍する全学生数

※留年者数：その年度の4年を超えて在籍している者

(研究科)

研究科		在籍者数	留年者数
H 29 年度	人間社会学研究科	25	1
	看護学研究科	25	4
	小計	50	5
H 30 年度	人間社会学研究科	28	0
	看護学研究科	23	4
	小計	51	4
H 31 年度	人間社会学研究科	34	1
	看護学研究科	20	0
	小計	54	1
R 2 年度	人間社会学研究科	28	0
	看護学研究科	25	0
	小計	53	0
R 3 年度	人間社会学研究科	28	1
	看護学研究科	25	0
	小計	53	1
R 4 年度	人間社会学研究科	28	1
	看護学研究科	19	0
	小計	47	1
R 5 年度	人間社会学研究科	35	1
	看護学研究科	14	0
	小計	49	1
R 6 年度	人間社会学研究科	39	2
	看護学研究科	16	0
	小計	55	2

※在籍者：その年度の在籍する全学生数

※留年者数：その年度の2年を超えて在籍している者（長期履修者を除く）

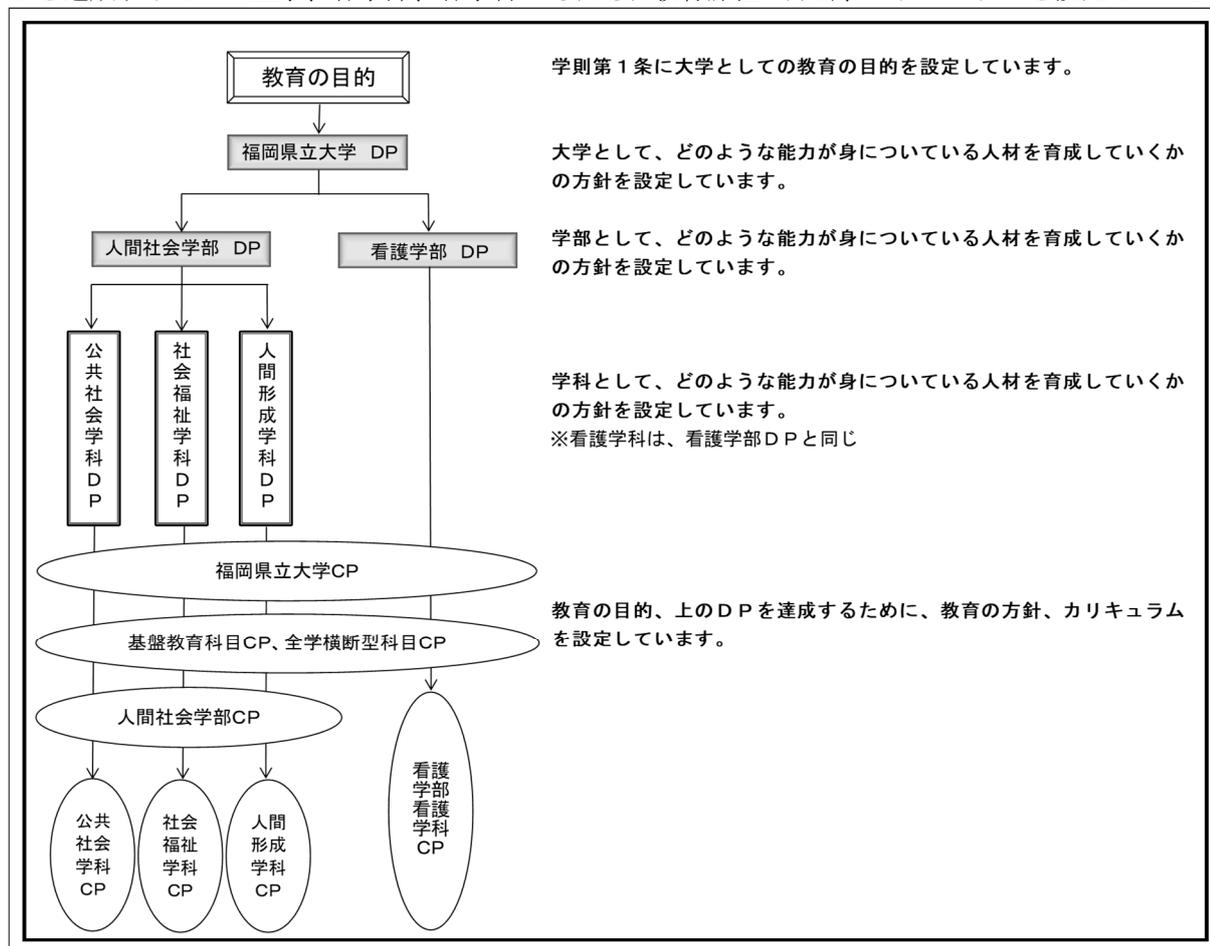
IV. 教育

1. 学部

(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、卒業認定・学位授与に関する基本的な方針のことを言い、本学を卒業することでどのような能力が身についているかを保証するものです。

また、カリキュラム・ポリシー（CP）とは教育課程編成・実施方針のことを言い、教育の目的、先述のDPを達成するために全学、各学部、各学科がそれぞれ教育課程の方針、カリキュラムを設定しています。



第I. 福岡県立大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP 1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 専門分野に関する基礎的な知識を有している。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 専門分野に必要な技能や先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析する技能を身につけている。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 専門分野に関する諸問題について、論理的に思考し、判断することができる。 <input type="checkbox"/> 専門分野に関する諸問題について、自らの考えを適切に表現することができる。
主体性・多様性・協働性	DP 4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 専門分野に関する諸問題について、主体的に取り組む力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 専門分野に関する諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働する力を身につけている。

第Ⅱ. 人間社会学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する基礎的な知識を有している。
	DP2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する諸科学に必要な技能や先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析する技能を身につけている。
思考・判断・表現	DP3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する諸問題について、論理的に思考し、判断することができる。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する諸問題について、自らの考えを適切に表現することができる。
主体性・多様性・協働性	DP4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する諸問題について、主体的に取り組む力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間と社会に関する諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働する力を身につけている。

第Ⅲ. 看護学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 人間を理解するための学術的な幅広い知識を有している。 <input type="checkbox"/> 看護の専門知識および専門領域に隣接する諸科学の知識を有している。
	DP2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 看護を提供するための基礎的な技能を有している。 <input type="checkbox"/> 最適な看護を展開するための専門的な技能を有している。
思考・判断・表現	DP3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 看護に関する課題について、情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 高い倫理観をもち、対象が抱えている健康問題の本質を多角的視点から論理的に思考・判断できる。 <input type="checkbox"/> 他者の意見を受け入れる柔軟な思考をもち、自らの意見を適切に表現することができる。
主体性・多様性・協働性	DP4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 健康・医療に関する諸問題に主体的に取り組む力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人々の健康の維持増進、生活の質向上のために、多職種と連携する基礎的な力を身につけている。

第Ⅳ. 人間社会学部公共社会学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 社会学を中心とする社会科学の専門知識をもとに、社会的事象の歴史的背景や多元性、異なる文化や価値観を理解できる。
	DP2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 先行研究や各種の資料を適切に収集する技能、社会的事象を適切に観察、調査、分析する技能を身につけている。
思考・判断・表現	DP3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題について、根拠に基づいて公共性の観点から論理的に整理することができる。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題について、自らの考えを適切に説明することができる。
主体性・多様性・協働性	DP4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題への深い関心のもと、問題解決に向け、主体的に学習を続ける力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 人間・社会の諸問題について多様性を尊重し、多様な人々と協働することができる。

第V. 人間社会学部社会福祉学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP 1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 社会福祉、ソーシャルワークおよび隣接諸科学に関する専門知識を有している。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 専門的な価値と知識に基づくソーシャルワークの技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題を根拠に基づいて論理的に考察し、自分なりの結論を導き出すことができる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題を探求し、その成果を適切に表現することができる。
主体性・多様性・協働性	DP 4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題について主体的に検討し、課題解決に取り組む力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉に関わる人々の多様性を尊重し、実際に多様な人々と協働することができる。

第VI. 人間社会学部人間形成学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP 1	<input type="checkbox"/> 現代において求められる幅広い基礎的教養を有している。 <input type="checkbox"/> 保育・幼児教育または心理学及び心理的援助、隣接諸科学に関わる基礎的知識を有している。
	DP 2	<input type="checkbox"/> 現代において求められる汎用的技能を身につけている。 <input type="checkbox"/> 保育・幼児教育または心理的援助に必要な基礎的スキルを身につけている。 <input type="checkbox"/> 教育および心身に関する諸問題を検討するための基本的な科学的手法を身につけている。
思考・判断・表現	DP 3	<input type="checkbox"/> 現代における諸問題について、幅広い分野の知識をもとに、必要な情報を収集、分析し、表現することができる。 <input type="checkbox"/> 教育または心身に関する諸問題について論理的に思考し、判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教育または心身に関する諸問題について、自らの考えを適切に表現することができる。
主体性・多様性・協働性	DP 4	<input type="checkbox"/> 異なる文化や価値観を理解し、これらを尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけている。 <input type="checkbox"/> 教育または心身に関する諸問題に対して主体的に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

● 福岡県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

福岡県立大学は、教育の目的及び学位授与方針を達成し、学生に必要な学力の3要素及び学士力を身につけさせるために、基盤教育科目、全学横断型科目、専門教育科目（看護学部にあつては専門基礎科目及び専門科目）、その他必要とする科目を体系的に編成する。

基盤教育科目は、専門教育の基礎の修得、並びに専門的職業人及び社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」及び「基礎科目」を配置する。全学横断型科目は、地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる科目を配置する。専門教育科目（看護学部にあつては専門基礎科目及び専門科目）は、各学部・学科で求められる専門性を体系的に修得できるように科目を配置する。

● 基盤教育科目 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

基盤教育科目は、専門教育の基礎の修得、および専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」および「基礎科目」を設置する。

1. 教養科目

①学部における専門教育の基礎となる科目および②福祉社会の担い手となる専門的職業人として、また現代を生きる社会人として求められる教養を身につけることを目的とした科目群であり、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」および「複合領域」に関する科目を開設する。

2. 基礎科目

①新入学生が大学での学習に速やかに移行するための導入教育、②現代の情報社会に対応するための情報リテラシー教育、③国際化社会に対応するための語学教育および④生涯を通じた健康の維持・増進のための知識と技術を身につける健康教育に関する科目群で構成され、「必須外国語」、「選択外国語」、「情報処理」、「健康科学」、「基礎ゼミ」および「発展ゼミ」を開設する。

● 全学横断型科目 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、両学部で学べる全学横断型科目を配置する。

● 人間社会学部 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学部は、学部の教育の目的及び学位授与の方針を達成し、学生に必要な学力の3要素及び学士力を身につけさせるために、基盤教育科目、全学横断型科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を体系的に編成する。

基盤教育科目は、専門教育の基礎の修得、並びに専門的職業人および社会人として求められる教養を身につけることを目的とした「教養科目」及び「基礎科目」を配置する。全学横断型科目は、地域における保健・医療・福祉の諸課題に、主体性をもって多様な人々と協働して課題を解決できる実践的能力の向上を目的として、他学部とともに学べる科目を配置する。専門教育科目は、学部・学科で求められる専門性を体系的に修得できるように科目を配置する。

● 総合人間社会コース 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

総合人間社会コースは、問題解決のための汎用的な知識やスキルを修得し、高度福祉社会においてその知識やスキルを活かすことのできる人材を育成することができるよう、科目を編成している。コース内の履修プログラムとして、「データサイエンス・プログラム」と「キャリアマネジメント・プログラム」の2つのプログラムを設置している。

1. データサイエンス・プログラム

保健福祉分野の専門家として、調査・研究を行う際に、必要不可欠となる統計的手法や高度な情報技術を習得し、保健福祉の各専門分野で課題解決ができる人材となれるよう、科目を配置している。

2. キャリアマネジメント・プログラム

社会の変化や個人の人生設計を「キャリア」の観点から理解することで、大きな社会変化への対応に必要な汎用的な知識やスキルを修得し、学生が自らのキャリアを主体的に考えることで、創造的なマネジメント能力をもって高度福祉社会の実現に貢献できる専門的職業人となれるよう、科目を配置している。

● 公共社会学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

公共社会学科のカリキュラムは、地域社会や国際共生に関わる諸現象について深く理解し、社会のニーズを的確に把握する調査力・分析力、課題解決への企画力・調整力を有する人材を養成することができるように編成している。

1. 現代において求められる幅広い基礎的教養や汎用的技能、基礎的教養をもとに思考・判断し表現する力、異なる文化や価値観を理解した上で共に生きていく姿勢を身につけるために、「基盤教育科目」と「全学横断型科目」を配置する。

2. 社会学の基礎的・専門的な知識、公共性に関する知識を身につけるために、また公共社会学科における学びの集大成として、専門知識、論理的思考・判断力、表現力、社会貢献力、専門分野のスキルを身につけるために、「基幹科目」を配置する。

3. 激しい社会変動を常とする現代社会の課題を解明するための専門的な知識、社会保障や労働、国内外の経済に関する知識を身につけるために、《現代社会課題》領域の科目を配置する。
4. 地域社会の現状分析と自立・協働・持続可能な地域社会運営に関する専門的な知識や分析力、表現力、挑戦力を身につけるために、《地域社会ネットワーク》領域の科目を配置する。
5. アジアを始めとする世界の社会や文化を学び、国際協力や多文化共生に関する課題解決のための専門的な知識や判断力、表現力、協働する力を身につけるために、《アジア国際共生》領域の科目を配置する。
6. 社会調査や情報処理の知識・技能、思考力・判断力・表現力を身につけるために、《社会調査・情報処理》領域の科目を配置する。
7. 公共性の視点に関連する哲学、歴史、法律、教育の知識を学習し、福祉社会において様々な現場で役立つ専門的な知識やスキルを身につけるために、《関連科目》を配置する。

公共社会学の専門的な知識・スキルの効果的な習得を目指すため、学生参加型の少人数グループワークや社会調査を活用した授業を展開する。また、具体的な課題解決力を身につけるために地域社会・国際共生現場における実習やその前後での個別あるいは小グループでの指導をきめ細かく行うとともに、主体的かつ実践的な経験を積み重ねることを推進・支援する。

● 社会福祉学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

社会福祉学科のカリキュラムは、複雑・多様化している生活問題（福祉問題）を解決するための専門的な価値観、科学的知識及び実践力を有する社会福祉の人材を養成することができるように編成している。

1. 現代において求められる幅広い基礎的教養や汎用的技能、基礎的教養をもとに思考・判断し表現する力、異なる文化や価値観を理解した上で共に生きていく姿勢を身につけるために、《基盤教育科目》と《全学横断型科目》を配置する。
2. 社会福祉学の基盤となる概念、歴史・思想、法制度、ソーシャルワークの理論と方法等の専門的な知識と技能を学習するとともに、先行研究や各種資料の適切な収集と分析に基づく社会福祉に関する問題の論理的な考察とその成果の表現、さらには課題解決に取り組む主体性や、人々の多様性を理解し協働する姿勢を身につけるために、《基幹科目》を配置する。
3. 社会福祉とソーシャルワークの専門的な価値や知識、技能に加え、社会福祉に関する問題の論理的な考察とその成果の表現、課題解決に取り組む主体性、人々の多様性を理解し協働する姿勢を身につけるとともに、隣接諸科学に関する知識を学ぶために、《社会福祉専門科目》を配置する。
4. 社会福祉、ソーシャルワーク及び隣接諸科学を基盤として、精神保健福祉援助および学校ソーシャルワークに関する専門的な価値や知識、技能に加え、社会福祉に関する問題の論理的な考察とその成果の表現、課題解決に取り組む主体性、人々の多様性を理解し協働する姿勢を身につけるために、《精神保健福祉専門科目》と《学校ソーシャルワーク専門科目》を配置する。
5. 社会学や心理学等、社会福祉学を学ぶ上で重要となる隣接諸科学の専門的な知識と技能を身につけるために、《関連科目》を配置する。

社会福祉とソーシャルワークの専門的な価値・知識・技能の効果的な習得を目指すため、学生参加型の少人数グループワークや視聴覚教材・メディアを活用した授業を展開する。また、より高度な実践力を身につけるために社会福祉現場における実習やその前後での個別あるいは小グループでの指導をきめ細かく行うとともに、ボランティア活動等の主体的な実践経験の積み重ねを推進・支援する。

● 人間形成学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間形成学科のカリキュラムは、人間の心身の形成過程と教育およびその諸問題に関する総合的な研究・教育を行い、保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床などに携わる専門的な人材を育成することができるように編成している。

1. 現代において求められる幅広い基礎的教養や汎用的技能、基礎的教養をもとに思考・判断し表現する力、異なる文化や価値観を理解した上で共に生きていく姿勢を身につけるために、《基盤教育科目》と《全学横断型科目》を配置する。

- 人間形成学科の各コースに共通する教育学、心理学および保健学に関わる基礎的・基本的な知識と技能を身につけるために、《専門教育科目（基幹科目）》を配置する。
- 保育・幼児教育に関する専門的な知識及び技能、教育に関する諸問題を論理的に考察する力とその成果を表現する力を身につけるために《専門教育科目（展開科目こどもコース）》を配置する。
- 人間のこころの理解および心理的援助に関わる専門的な知識及び技能、心身に関する諸問題を論理的に考察する力とその成果を表現する力を身につけるために《専門教育科目（展開科目心理コース）》を配置する。
- 人間形成学科各コースに共通して学ぶことが望ましいと思われる、社会教育および隣接諸科学の専門的な知識を身につけるために、《関連科目》を配置する。
- 人間形成学科における学びの集大成として、専門知識・技能、論理的思考・判断・表現力、主体性・多様性・協働性を身につけるために、自分が探求したいテーマに基づいて専門性を深め、その成果として論文を作成する《演習、卒業論文》を配置する。

教育学、心理学および保健学及び隣接諸科学に関する専門的な知識とスキルの効果的な習得を目指すため、少人数でのグループワークなど学生参加型の授業を展開している。また、課題解決に取り組む主体性や人々の多様性を理解し協働する姿勢を身につけるために、現場における実習やその前後での個別あるいは小グループでの指導をきめ細かく行うとともに、実践的な経験を積み重ねることを推進・支援する。

● 看護学部看護学科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

看護学部のカリキュラムは、幅広い教養と豊かな人間性を備え、看護の専門職としての確かな判断力と実践能力を身につけ、多職種と連携し、健康上の課題に主体的・創造的に対応できる人材を育成することを目的として編成している。

- 現代において求められる幅広い基礎的教養や汎用的技能、基礎的教養をもとに思考・判断し表現する力、異なる文化や価値観を理解した上で共に生きていく姿勢を身につけるために、《基盤教育科目》と《全学横断型科目》を配置する。
- 人間を看護学の観点から理解し、基礎的・専門的な知識を身につけ、看護の専門職としての論理的思考・判断力を育むために《専門基礎科目》《専門科目》を配置する。
- 看護の対象者の課題解決のために、看護専門職者としての視点を持ち、良好な対人関係を構築できる力を養うとともに、チーム医療における看護の役割と、多職種と連携・協働する姿勢を学び、隣接諸科学に関する知識として《専門基礎科目》《専門科目》を配置する。
- 人権尊重の重要性について学習するとともに、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的技術、看護の展開方法等を学習し、最適な看護技術を適用する方法の基礎を身につけるために《専門科目》を配置する。
- 看護の質の向上のために、看護に関する課題について主体的に取り組み、先行研究や各種の資料をもとに検索・情報収集・分析するための専門的な知識と技能を学習するとともに、その成果を他者に表現する力を身につけるために《専門科目》を配置する。

1年次早期より専門科目を配置し、講義・演習・実習を連動させ、看護学の専門的な知識と技術の効果的な習得につながる有機的なカリキュラム構成としている。

看護の課題解決に取り組む主体性、高い倫理観と看護実践力、多職種と協働する姿勢を身につけるために、アクティブ・ラーニング、少人数によるグループ学習、シミュレーション教育等の学生参加型の授業や実践的な経験の積み重ねを推進する授業展開を行い、きめ細かな支援を行う。

(2) 開設科目及び単位数

授業科目「基盤教育科目（教養科目）」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件		
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部	
教養科目	人文科学	哲学		2	講義	2				人文科学、社会科学、自然科学、複合領域から各4単位以上を修得し、かつ合計28単位以上	選択6単位以上
		論理学		2	講義		2				
		宗教学		2	講義		2				
		心理学概論		2	講義	2					
		日本近現代史		2	講義	2					
		アート論		2	講義	2					
		文学		2	講義	2					
		哲学的人間学		2	講義	2					
	社会科学	社会学A		2	講義	2					
		社会学B		2	講義	2					
		法学		2	講義	2					
		* 憲法		2	講義	2					
		政治学		2	講義	2					
		経済学		2	講義	2					
		国際関係論		2	講義		2				
		社会思想史		2	講義		2				
	自然科学	科学史		2	講義		2				
		生物学		2	講義	2					
		化学		2	講義	2					
		物理学		2	講義	2					
		統計学		2	講義	2					
		情報科学		2	講義	2					
		環境科学		2	講義	2					
		数学概論		2	講義	2					
	複合領域	* 人権論		2	講義	2					
		* ジェンダー論		2	講義			2			
現代社会と嗜癖			2	講義	2						
性教育学			2	講義			2				
グローバル社会論			2	講義		2					
入門・数字で見る日本社会			2	講義	2						
ライフキャリア論			2	講義	2						

注1：全学科の学生は、「基盤教育科目」の「教養科目」の中で、人権教育に関する科目として「憲法」「人権論」「ジェンダー論」の3科目のうちから必ず1科目2単位以上を修得しなければならない。

2：「社会学A」「社会学B」は、公共社会学科の必修指定科目である。

3：教員免許状（高校教諭一種（公民、情報）、中学校教諭一種（社会）、養護教諭一種、養護教諭二種、幼稚園教諭一種）取得希望者は、「憲法」を必ず履修しなければならない。

授業科目「基盤教育科目（教養科目）」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件	
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部
必須外国語	リーディング・ライティング初級(1)	1		演習	1				必修6単位 ※履修クラス(初級・中級・上級)は別途指示する。	
	リーディング・ライティング中級(1)									
	リーディング・ライティング上級(1)									
	リーディング・ライティング初級(2)	1		演習	1					
	リーディング・ライティング中級(2)									
	リーディング・ライティング上級(2)									
	スピーキング・リスニング初級(1)	1		演習	1					
	スピーキング・リスニング中級(1)									
	スピーキング・リスニング上級(1)									
	スピーキング・リスニング初級(2)	1		演習	1					
	スピーキング・リスニング中級(2)									
	スピーキング・リスニング上級(2)									
	総合英語初級(1)	1		演習		1				
	総合英語中級(1)									
	総合英語上級(1)									
総合英語初級(2)	1		演習		1					
総合英語中級(2)										
総合英語上級(2)										
基礎科目 選択外国語	英語講読Ⅰ		1	演習			※1	※2	海外語学実習、海外語学実習事前指導を除いた科目の中から選択して6単位以上 ※入学後2年間は選択外国語を変更することはできない。なお履修パターンは別途指示する。	英語講読Ⅱ、コリア語Ⅲ-(1)、コリア語Ⅲ-(2)、中国語Ⅲ-(1)、中国語Ⅲ-(2)、海外語学実習、海外語学実習事前指導を除いた科目の中から選択して2単位以上
	英語講読Ⅱ		1	演習			1			
	コリア語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
	コリア語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
	コリア語Ⅱ-(1)		1	演習		1				
	コリア語Ⅱ-(2)		1	演習		1				
	コリア語Ⅲ-(1)		1	演習			1			
	コリア語Ⅲ-(2)		1	演習			1			
	中国語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
	中国語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
	中国語Ⅱ-(1)		1	演習		1				
	中国語Ⅱ-(2)		1	演習		1				
	中国語Ⅲ-(1)		1	演習			1			
	中国語Ⅲ-(2)		1	演習			1			
	仏語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
	仏語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
	仏語Ⅱ-(1)		1	演習		1				
	仏語Ⅱ-(2)		1	演習		1				
	独語Ⅰ-(1)		1	演習	1					
	独語Ⅰ-(2)		1	演習	1					
独語Ⅱ-(1)		1	演習		1					
独語Ⅱ-(2)		1	演習		1					
海外語学実習事前指導		1	演習			1				
海外語学実習		1	演習			1				
情報処理	情報処理の基礎と演習	2		演習	2				必修2単位	
	情報処理応用演習		1	演習	1				自由選択単位	
	情報処理演習Ⅰ	1		演習	1					必修1単位
	情報処理演習Ⅱ		1	演習	1					
健康科学	保健理論		2	講義	2				選択必修2単位	
	健康スポーツ論		2	講義	2					
	健康科学実習Ⅰ	1		☆実習	1				必修2単位	
	健康科学実習Ⅱ	1		☆実習	1					
基礎ゼミ	教養演習	1		演習	1				必修1単位	必修1単位
	Introduction to studying in English		1	演習	1				各学科とも自由選択の12単位に含めることができる	自由選択の8単位に含めることができる
発展ゼミ	社会人基礎力演習		1	演習		1			各学科とも自由選択の12単位に含めることができる	自由選択の8単位に含めることができる
	Advanced English Achievement		1	演習			1			

注1：選択外国語のうち、※1は人間社会学部、※2は看護学部の標準履修年次である。また、英語講読Ⅱは人間社会学部学生が履修する科目である。

2：英語を除く外国語のうち、コリア語Ⅲ-(1)、Ⅲ-(2)、中国語Ⅲ-(1)、Ⅲ-(2)は、人間社会学部学生が履修する授業である。

3：海外語学実習、海外語学実習指導は選択外国語の単位数には含まれないが、自由選択の単位となる。

4：情報処理の基礎と演習、情報処理応用演習、保健理論、健康スポーツ論、健康科学実習Ⅰ、健康科学実習Ⅱは人間社会学部学生が履修し、情報処理演習Ⅰ、情報処理演習Ⅱは看護学部学生が履修する授業である。

5：授業方法欄の「☆実習」は、毎週1回(90分)で半期、原則として15回の授業となる。

公共社会学科「専門教育科目」

授業科目の区分と科目名		単位		授業 方法	開設時期（標準履修年次）				備 考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
基 幹 科 目	社会学概論	2		講義	2				
	社会学史Ⅰ	2		講義		2			
	社会学史Ⅱ	2		講義		2			
	公共性の社会学	2		講義	2				
	社会心理学		2	講義	2				
	人格心理学		2	講義	2				
	社会学の分析法A		2	講義		2			
	社会学の分析法B		2	講義			2		
	集合行動論		2	講義			2		
	C S R（企業の社会的責任）論		2	講義			2		
	N P O論		2	講義			2		*2
	公共社会学研究Ⅰ	1		演習			1		
	公共社会学研究Ⅱ	1		演習			1		
	卒業論文	6		演習				6	
現 代 社 会 課 題	現代社会論A（ジェンダー・世代）		2	講義		2			
	現代社会論B（情報社会論）		2	講義		2			*5
	現代社会論C（情報社会と法）		2	講義		2			*5
	家族社会学A		2	講義		2			*1
	家族社会学B		2	講義		2			
	福祉社会学		2	講義			2		*2
	社会病理学		2	講義		2			*1
	社会変動と社会問題		2	講義			2		*2
	社会政策論		2	講義	2				
	仕事の経済学		2	講義		2			
	暮らしの経済学		2	講義		2			*1
	公共経済学		2	講義			2		
地 域 社 会 ネ ッ ト ワ ー ク	地域社会学		2	講義	2				*1
	コミュニティ論		2	講義		2			
	都市社会学		2	講義		2			
	環境と災害の社会学		2	講義			2		
	地域社会分析法A		2	講義			2		*2
	地域社会分析法B		2	講義			2		
	地域社会分析法C		2	講義			2		*2
	公共社会学特講A		2	講義			2		
	公共社会学特講B		2	講義			2		
	地理学		2	講義	2				
	地理学概論		2	講義		2			*1
	地方自治論		2	講義		2			*1
	地域計画論		2	講義			2		
ア ジ ア 国 際 共 生	国際社会学A		2	講義		2			*1
	国際社会学B		2	講義		2			
	国際政治学		2	講義	2				*1
	多文化社会論		2	講義		2			*1
	世界地理		2	講義	2				
	東アジア関係史		2	講義		2			
	韓国の社会と文化		2	講義	2				
	中国の社会と文化		2	講義	2				
	イスラム社会論		2	講義		2			
	文化人類学A		2	講義			2		
	文化人類学B		2	講義			2		
	国際教育文化交流論		2	講義			2		
	国際協力論		2	講義	2				
	アジア経済論		2	講義			2		*2

授業科目の区分と科目名		単位		授業 方法	開設時期（標準履修年次）				備 考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
社会調査・ 情報処理	社会調査法	2		講義	2				*5
	社会調査の設計		2	講義		2			*5
	データ分析の基礎	2		講義	2				*5
	社会統計学Ⅰ	2		講義		2			*5
	社会統計学Ⅱ		2	講義		2			*5
	質的調査法		2	講義		2			
	データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習			1		*2 *3 *5
	データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		*2 *3 *5
	社会調査実習Ⅰ		2	実習		2			半期2時限連続開講
	社会調査実習Ⅱ		2	実習		2			半期2時限連続開講
	情報数学		2	講義		2			*3 *5
	プログラミング概論	2		講義		2			*3 *5
	情報ネットワーク演習		1	演習		1			*4 *5
	マルチメディア論		2	講義		2			*4 *5
	地理情報システム論		2	講義			2		*4 *5
関 連 科 目	哲学要論		2	講義			2		
	倫理学		2	講義			2		
	日本史概論		2	講義		2			
	西洋史概論		2	講義		2			
	法律学概論Ⅰ		2	講義			2		
	法律学概論Ⅱ		2	講義			2		
	教育社会学		2	講義			2		
	社会福祉学概論Ⅰ		2	講義	2				
	地域福祉論Ⅰ		2	講義		2			
	地域福祉論Ⅱ		2	講義			2		
	教育学概論B		2	講義	2				
	生涯教育論		2	講義		2			
	社会教育論		2	講義		2			
	対人心理学		2	講義	2				
	Webデザイン演習		1	演習		1			*4 *5
	情報ネットワーク論		2	講義		2			*4 *5
	データベース論		2	講義		2			*4 *5
	プログラミング演習		1	演習			1		*4 *5
	情報検索システム論		2	講義			2		*4 *5
	問題解決演習		1	演習		1			*4
人的資源管理論		2	講義		2			*4	
キャリア論		2	講義			2		*4	
組織マネジメント		2	講義			2		*4	
ビジネス倫理		2	講義			2		*4	
個人情報法制		2	講義			2		*4 *5	

注1：「*1」の選択必修科目の内、「現代社会課題」「地域社会ネットワーク」「アジア国際共生」の全ての領域の科目を選択した上で、8単位以上を履修すること。

2：「*2」の選択必修科目の内、4単位以上を履修すること。

3：「*3」は地域社会コース・総合人間社会コースの専門教育科目。

4：「*4」は総合人間社会コースの専門教育科目。

5：「*5」は高等学校一種教諭免許状＜情報＞取得に係る専門教育科目。

社会福祉学科「専門教育科目」

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
基幹科目	社会福祉学概論Ⅰ	2		講義	2				
	社会福祉学概論Ⅱ	2		講義	2				
	社会保障論Ⅰ		2	講義	2				
	社会保障論Ⅱ		2	講義	2				
	地域福祉論Ⅰ		2	講義		2			
	地域福祉論Ⅱ		2	講義			2		
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		講義	2				
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2		講義	2				
	ソーシャルワークの理論と方法A		2	講義		2			
	ソーシャルワークの理論と方法B		2	講義		2			
	ソーシャルワークの理論と方法C		2	講義		2			
	ソーシャルワークの理論と方法D		2	講義			2		
	社会福祉学演習	2		演習			2		
卒業論文	6		演習				6		
社会福祉専門科目	高齢者福祉論		2	講義		2			
	介護福祉論		2	講義		2			
	障害者福祉論		2	講義		2			
	子ども家庭福祉論A		2	講義		2			
	子ども家庭福祉論B		2	講義			2		
	公的扶助論		2	講義		2			
	社会福祉調査法		2	講義		2			
	ソーシャルワーク演習A		1	演習	1				
	ソーシャルワーク演習B		2	演習		2			
	ソーシャルワーク演習C		1	演習			1		
	ソーシャルワーク演習D		1	演習			1		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		2	演習		2			
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		1	演習			1		
	ソーシャルワーク実習A		2	実習		2			
	ソーシャルワーク実習B		4	実習			4		
	福祉経営論		2	講義			2		
	保健医療論		2	講義		2			
	権利擁護と成年後見制度		2	講義			2		
	更生保護		2	講義			2		
	医療ソーシャルワーク論		2	講義			2		
	福祉住環境論		2	講義		2			
	介護技術演習		1	演習			1		
	手話		1	演習	1				
	医学概論		2	講義	2				
福祉専門職特講A		2	講義			2		メディア授業科目	
福祉専門職特講B		2	講義				2	メディア授業科目	
精神保健福祉専門科目	精神保健福祉の原理Ⅰ		2	講義		2			
	精神保健福祉の原理Ⅱ		2	講義		2			
	ソーシャルワークの理論と方法E		2	講義			2		
	ソーシャルワークの理論と方法F		2	講義			2		
	精神障害リハビリテーション論		2	講義			2		
	精神保健福祉制度論		2	講義			2		
	精神保健福祉援助演習		4	演習			4		3年前期～4年後期
	精神保健福祉援助実習指導		3	演習			3		3年前期～4年後期
	精神保健福祉援助実習		5	実習			5		3年後期～4年後期

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				備考
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
専（精神保健福祉） 専門科目		2	講義		2			人間形成学科の精神保健学と共通
		2	講義		2			
		2	講義			2		
		2	講義			2		
学校ソーシャルワーク 専門科目		2	講義			2		
		2	演習			2		3年後期～4年前期
		2	演習			2		3年後期～4年前期
		2	実習				2	
		2	講義	2				
		2	講義	2				
		2	講義			2		
		2	講義			2		
		2	講義				2	
		2	講義				2	
関連科目		2	講義		2			
		2	講義			2		
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義			2		
		2	講義	2				
		2	講義			2		
		2	講義			2		
		2	講義	2				
		2	講義			2		
		2	講義	2				
		1	演習			1		*
		1	演習			1		*
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義		2			
		2	講義	2				
		2	講義	2				
		2	講義		2			*
		1	演習		1			*
		2	講義		2			*
		2	講義		2			*
		2	講義		2			*
		2	講義		2			*
		1	演習		1			*
		1	演習			1		*
		2	講義			2		*
		2	講義			2		*
		1	演習		1			*
		2	講義		2			*
		2	講義			2		*
	2	講義			2		*	
	2	講義			2		*	
	2	講義			2		*	
	2	講義			2		*	

注1：*は総合人間社会コースの科目。

注2：メディア授業科目とは、福岡県立大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規則第2条に定める授業科目を指す。

人間形成学科「専門教育科目」

区分	授 業 科 目	単 位		授 業 方 法	開 講 時 期 (標 準 履 修 年 次)				備 考
		必 修	選 択		1年次	2年次	3年次	4年次	
基 幹 科 目 * 1	教育学概論A		2	講義	2				2科目いずれか選択必修 Aは保育士・幼免必修
	教育学概論B		2	講義	2				
	教育史	2		講義		2			
	生涯教育論	2		講義		2			
	発達心理学Ⅰ-A		2	講義	2				
	発達心理学Ⅰ-B		2	講義	2				保育士・幼免必修
	発達心理学Ⅱ	2		講義	2				公認心理師必修
	教育心理学概論(教育・学校心理学)		2	講義		2			公認心理師必修
	子どもの保健		2	講義	2				保育士必修
	臨床心理学概論		2	講義			2		公認心理師必修
	教育相談(教育・学校心理学)		2	講義				2	公認心理師必修
	教育相談(幼児教育)		2	講義				2	幼免必修
教育制度論(関係行政論)		2	講義			2		幼免・公認心理師必修	
展 開 科 目 (こどもコース)	保育者論		2	講義	2				
	保育学		2	講義		2			
	社会福祉Ⅰ		2	講義	2				
	社会福祉Ⅱ		2	講義				2	
	子ども家庭福祉		2	講義		2			
	子ども家庭支援論		2	講義		2			
	社会的養護Ⅰ		2	講義		2			
	子ども家庭支援の心理学		2	講義		2			
	幼児理解の理論と方法		2	☆演習			2		* 2
	子どもの食と栄養		2	演習			2		* 2
	造形Ⅰ		1	演習	1				* 2
	造形Ⅱ		1	演習	1				* 2
	音楽Ⅰ		2	演習	2				* 2
	音楽Ⅱ		1	演習		1			* 2
	音楽Ⅲ		1	演習		1			* 2
	体育Ⅰ		1	演習		1			
	体育Ⅱ		1	演習			1		
	保育カリキュラム論		2	講義		2			
	子どもの健康と安全		1	演習		1			* 2
	特別支援教育		1	演習		1			
	障害児保育		2	☆演習		2			
	乳児保育Ⅰ		2	講義		2			
	乳児保育Ⅱ		1	演習			1		* 2
	保育方法論		2	講義			2		
	社会的養護Ⅱ		1	演習			1		* 2
	子育て支援		1	演習				1	* 2
	保育内容総論		2	☆演習		2			
	幼児と健康		1	演習			1		* 2
	幼児と人間関係		1	演習			1		* 2
	幼児と環境		1	演習		1			* 2
幼児と言葉		1	演習		1			* 2	
幼児と表現A		1	演習		1			* 2	
幼児と表現B		1	演習			1		* 2	
保育内容の指導法・健康		1	演習			1		* 2	
保育内容の指導法・人間関係		1	演習			1		* 2	
保育内容の指導法・環境		1	演習		1			* 2	
保育内容の指導法・言葉		1	演習		1			* 2	

区分	授 業 科 目	単 位		授 業 方 法	開 講 時 期 (標 準 履 修 年 次)				備 考
		必 修	選 択		1年次	2年次	3年次	4年次	
(こどもコース)	保育内容の指導法・表現A		1	演習		1			* 2
	保育内容の指導法・表現B		1	演習			1		* 2
	保育内容演習		2	☆演習				2	* 2
	保育・教職実践演習(幼稚園)		2	☆演習				2	* 2
	幼稚園教育実習事前事後指導		1	実習			1		* 2
	幼稚園教育実習Ⅰ		2	実習			2		* 2
	幼稚園教育実習Ⅱ		2	実習			2		* 2
	保育実習指導Ⅰ		2	演習		2			* 2
	保育実習Ⅰ		4	実習			4		* 2
	保育実習指導Ⅱ-A		1	演習			1		* 2
	保育実習Ⅱ-A		2	実習			2		* 2
	保育実習指導Ⅱ-B		1	演習			1		* 2
	保育実習Ⅱ-B		2	実習			2		* 2
	展開科目 心理コース	学習心理学及び言語の習得(学習・言語心理学)		2	講義		2		
心身科学			2	講義		2			
比較心理学			2	講義		2			
生理心理学及び神経心理学(神経・生理心理学)			2	講義		2			
加齢基礎論			2	講義		2			
知覚心理学(知覚・認知心理学)			2	講義			2		
認知心理学(知覚・認知心理学)			2	講義			2		
対人心理学			2	講義	2				
社会心理学(社会・集団・家族心理学)			2	講義	2				公共社会学科・社会福祉学科の「社会心理学」と共通
産業・組織心理学			2	講義			2		
司法・犯罪心理学			2	講義		2			
老年心理学			2	講義			2		
家族心理学(社会・集団・家族心理学)			2	講義				2	
感情・人格心理学			2	講義	2				公共社会学科・社会福祉学科の「人格心理学」と共通
障害者・障害児心理学			2	講義		2			
健康・医療心理学			2	講義		2			
心理学的支援法			2	講義		2			* 3
心理演習			2	☆演習			2		* 3 演習時間：22.5時間
心理的アセスメント			2	☆演習			2		* 3
精神保健学			2	講義	2				社会福祉学科の精神保健学Ⅰと共通
福祉心理学			2	講義	2				
医学概論(人体の構造と機能及び疾病)			2	講義	2				社会福祉学科の「医学概論」と共通
精神医学Ⅰ(精神疾患とその治療Ⅰ)			2	講義			2		社会福祉学科の「精神医学Ⅰ」と共通
精神医学Ⅱ(精神疾患とその治療Ⅱ)			2	講義			2		社会福祉学科の「精神医学Ⅱ」と共通
心理学実験Ⅰ			2	☆演習		2			* 3
心理学実験Ⅱ			2	☆演習		2			* 3
心理学研究法			2	講義		2			
心理学統計法			2	講義		2			
心理実習Ⅰ			1	実習		1			* 3 実習時間：30時間
心理実習Ⅱ			1	実習			1		* 3 実習時間：30時間
心理実習Ⅲ			1	実習			1		* 3 実習時間：30時間
公認心理師の職責			2	講義		2			* 3
保健医療福祉の法と制度(関係行政論)		1	講義		1			看護学科の「保健医療福祉の法と制度」と共通	
更生保護(関係行政論)		2	講義			2		社会福祉学科の「更生保護」と共通	
人的資源管理論(関係行政論)		2	講義		2			* 4 総合人間社会コースの「人的資源管理論」と共通	
社会統計学Ⅰ		2	講義		2				
データ処理とデータ解析Ⅰ		1	演習			1		* 4	
データ処理とデータ解析Ⅱ		1	演習			1		* 4	

区分	授 業 科 目	単 位		授 業 方 法	開 講 時 期 (標 準 履 修 年 次)				備 考
		必 修	選 択		1年次	2年次	3年次	4年次	
関 連 科 目	社会教育論		2	講義		2			
	図書館情報学		2	講義			(2)	2	非開講
	国際教育文化交流論		2	講義			2		
	社会教育特講A		2	講義		2			非開講
	社会教育特講B		2	講義			2		
	社会教育特講C		2	講義			2		
	社会教育特講D		2	講義	2				
	社会教育特講E		2	講義		2			
	キャリア論		2	講義			2		* 4
	情報数学		2	講義		2			* 4
	Webデザイン演習		1	演習		1			* 4
	プログラミング概論		2	講義		2			* 4
	情報ネットワーク論		2	講義		2			* 4
	情報ネットワーク演習		1	演習		1			* 4
	データベース論		2	講義		2			* 4
	マルチメディア論		2	講義		2			* 4
	プログラミング演習		1	演習			1		* 4
	情報検索システム論		2	講義			2		* 4
	地理情報システム論		2	講義			2		* 4
	問題解決演習		1	演習		1			* 4
	組織マネジメント		2	講義			2		* 4
ビジネス倫理		2	講義			2		* 4	
個人情報法制		2	講義			2		* 4	
	演習	2		演習			2		
	卒業論文	6		演習				6	

- 注1：授業方法欄の「☆演習」は、毎週1回（90分）で半期、原則として15回の授業となる。
- 2：「* 1」の基幹科目は必修科目6単位および選択必修科目2単位を含み、合計18単位の修得を卒業要件とする。
- 3：「* 2」はこどもコース、「* 3」は心理コースの学生のみ履修できる科目。
- 4：「* 4」は総合人間社会コースの科目。

看護学部「専門基礎科目」

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条件
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
人間の 見方と 健康	遺伝学		2	講義	2			
	栄養学	2		講義	2			
	疫学		2	講義		2		
	保健統計学	2		講義		2		
	保健社会調査論		2	演習			2	
	健康科学		2	講義		2		
	臨床心理学		2	講義			2	
	精神保健学		2	講義		2		
	東洋医学概論		1	講義		1		
医療・ 人間と 保健	保健社会学	1		講義	1			
	保健医療福祉の法と制度	1		講義	1			
	保健医療福祉行政論		2	講義				2
	公衆衛生学	2		講義	2			

看護学部「専門科目」

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条件・授業方法
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
実験 看護学	生態機能看護学Ⅰ	2		講義	2			
	生態機能看護学Ⅱ	2		講義	2			
	生態機能看護学Ⅲ		1	演習			1	
	看護生化学	2		講義	2			
	病態看護学Ⅰ	2		講義		2		
	病態看護学Ⅱ	2		講義		2		
	看護薬理学	2		講義		2		
	感染・免疫看護学演習	1		演習	1			
	生態・病態看護学実験	1		実験		1		
基礎 看護学	基礎看護学概論	2		講義	2			
	人間のライフステージと看護	1		講義	1			
	健康レベルと看護	1		講義	1			
	環境への適応と看護	1		講義	1			
	基礎看護技術論	2		演習	2			
	対人関係と看護	1		演習	1			
	ケアリング論	1		講義			1	
	家族看護学	1		講義		1		
	シンプトンマネジメント論	1		演習		1		
	フィジカルアセスメント論	2		演習		2		
	看護過程	1		演習		1		
	看護倫理学	1		演習		1		
地域・ 在宅 看護	暮らしと保健福祉・看護	2		講義	2			
	地域・在宅看護論	2		講義		2		
	地域・在宅看護論演習	2		演習			2	
成人・ 老年 看護学	成人老年看護学Ⅰ（急性期）	2		講義		2		
	成人老年看護学Ⅱ（回復期・慢性期）	2		講義		2		
	成人老年看護学Ⅲ（終末期）	2		講義		2		
	クリティカルケア・周術期看護演習	2		演習			2	
	セルフケア支援演習	2		演習			2	

授業科目の区分と科目名		単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				条件・授業方法
		必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	
看護学 小児	小児看護学	2		講義		2			
	小児看護学演習	2		演習			2		
看護学 リプロダクティブヘルス	リプロダクティブヘルス看護学	2		講義		2			
	リプロダクティブヘルス看護学演習	2		演習			2		
看護学 精神	精神看護学	2		講義		2			
	精神看護学演習	2		演習			2		
看護の統合と実践	チーム医療論	1		講義	1				
	災害看護学	1		講義		1			メディア授業科目
	国際看護学		1	講義		1			
	医療安全	1		講義		1			
	看護管理論	1		講義				1	
	看護教育学		1	講義			1		
	統合実践演習	1		演習				1	
	看護情報学		1	演習		1			
	キャリア像確立講義Ⅰ		1	講義	1				メディア授業科目
	キャリア像確立講義Ⅱ		1	講義			1		メディア授業科目
	ケアリング・ナーシング演習		1	演習	1				
	看護研究	2		講義		2			
	専門看護学ゼミ	2		演習			2		
卒業研究	2		演習				2		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		実習	1				
	基礎看護学実習Ⅱ	2		実習		2			基礎看護技術論、看護過程を履修している。
	暮らしを知る実習	1		実習	1				
	暮らしの中の看護を知る実習	1		実習		1			
	在宅看護支援実習	2		実習			2		地域・在宅看護論演習を履修している。
	地域包括支援実習	1		実習				1	
	成人老年急性期看護学実習	3		実習			3		クリティカルケア・周術期看護演習を履修している。
	成人老年慢性期看護学実習	3		実習			3		セルフケア支援演習を履修している。
	小児看護学実習	2		実習			2		小児看護学演習を履修している。
	リプロダクティブヘルス看護学実習	2		実習			2		リプロダクティブヘルス看護学演習を履修している。
	精神看護学実習	2		実習			2		精神看護学演習を履修している。
統合実習	3		実習				3		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅰ		2	講義		2			
	公衆衛生看護学Ⅱ		2	講義				2	
	公衆衛生看護学Ⅲ		1	講義				1	
	公衆衛生看護技術論Ⅰ		2	演習				2	
	公衆衛生看護技術論Ⅱ		2	演習				2	
	ハイリスク支援論		2	講義				2	
	組織協働活動論		2	講義				2	
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ		2	演習			2		
	公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ		2	演習				2	
	公衆衛生看護管理論		2	講義				2	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ		1	実習				1	公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術論Ⅰ・Ⅱを履修している。
公衆衛生看護学実習Ⅱ		4	実習				4		
学校保健	養護概説		2	講義		2			
	学校保健学		1	講義			1		
	教職実践演習（養護教諭）		2	演習				2	養護実習を履修している。
	養護実習事前事後指導		1	実習				1	
	健康教育論		2	講義			2		
	養護実習		4	実習				4	養護実習事前事後指導を履修している。

注1：履修とは、単位を修得するために履修登録をし、第28条第1項に定める出席をしたことを指す。

注2：メディア授業科目とは、福岡県立大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する規則第2条に定める授業科目を示す。

(3) 卒業必要科目及び単位数

区 分			人 間 社 会 学 部									看護学部			
			公共社会学科			社会福祉学科			人間形成学科			看護学科			
			必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	必修	選択	自由 選択	
基 盤 教 育 科 目	教 養 科 目	人文科学	4	12	12	4	12	4	12	4	12		6	8	
		社会科学	4			4		4							
		自然科学	4			4		4							
		複合領域	4			4		4		2					
	基 礎 科 目	必須外国語	英語	6		6		6		6		6			
		選択外国語	英語、 コリア 語、中 国語、 仏語、 独語他		6		6		6		6		2		
		情報処理		2		2		2		2		1			
		健康科学	講義		2		2			2					
			実習		2		2		2						
		基礎ゼミ		1		1		1		1		1			
	発展ゼミ														
	全学横断型科目														
	専門基礎科目(看護学部)											8			
専門科目(看護学部)											91				
専門教育科目(人間社会学部)			24	45		16	53		14	55					
教科及び教職に関する科目															
養護及び教職に関する科目															
合計(卒業必要最低単位数)			128			128			128			125			

注1：上表の「選択」には「選択必修」も含まれる。

2：人間社会学部における「専門教育科目」、看護学部における「専門科目」には、卒業論文又は卒業研究が含まれる。

3：「自由選択」の履修方法

他学部・他学科の開設科目を含み、「基盤教育科目」「全学横断型科目」「専門基礎科目」「専門科目」「専門教育科目」及び「教科及び教職に関する科目」から自由に選択履修することができる。ただし、自分の所属する学部・学科の開設科目は自由に選択できるが、他学部・他学科の開設科目の場合は、当該学部・学科が指定した科目の中から選択し、あらかじめその履修を届け出なければならない。

なお、看護学部においては、「教科及び教職に関する科目」並びに「養護及び教職に関する科目」(看護学部の「専門基礎科目」及び「専門科目」並びに他学部が自由選択として定める科目を除く)は、自由選択の修得単位としない。

(4) 全学横断型科目

授業科目の区分と科目名	単位		授業方法	開設時期（標準履修年次）				卒業要件	
	必修	選択		1年次	2年次	3年次	4年次	人間社会学部	看護学部
不登校・ひきこもり援助論		2	講義	2				各学科とも自由選択の12単位に含めることができる	自由選択の8単位に含めることができる
子供学習支援論		1	講義	1					
プレ・インターンシップ		1	実習	1					
※データベース論		2	講義		2				
※情報ネットワーク論		2	講義		2				
※問題解決演習		1	演習		1				
日本語ライティング		1	演習		1				

※人間社会学部においては各学科の定めるところにより、専門教育科目の単位に含めることができる。

(5) 講義・演習・実習の開講科目数

(単位：科目数)

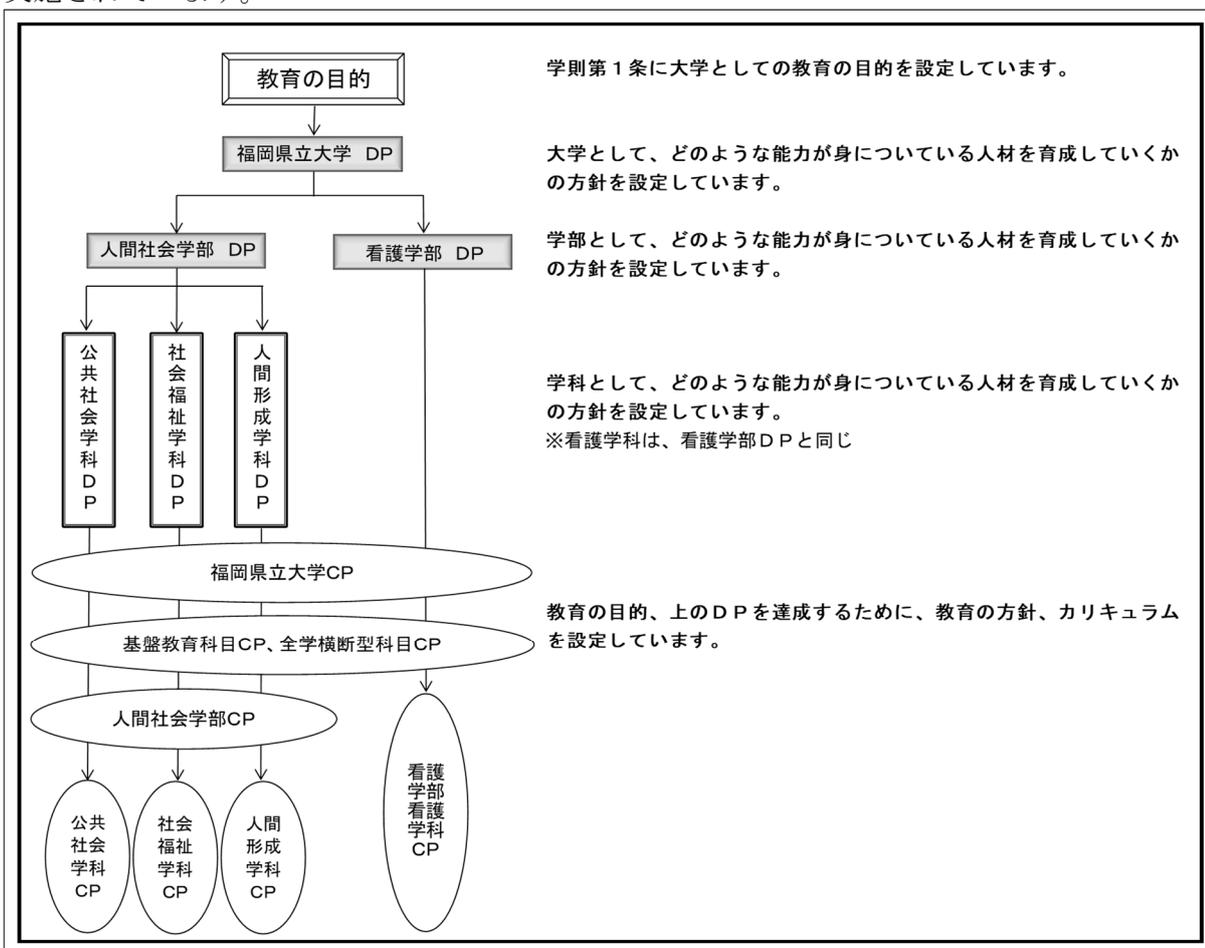
学 部	講義科目	演習科目	実習科目	合計
全学共通科目（教養）	31	0	0	31
全学共通科目（基礎）	2	50	2	54
全学横断型科目	4	2	1	7
公共社会学科専門科目	80	8	2	90
福祉社会学科専門科目	94	28	5	127
人間形成学科専門科目	70	45	9	124
看護学科専門科目	50	37	22	109

2. 大学院

(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー（DP）とは、修了認定・学位授与に関する基本的な方針のことを言い、本学を修了することでどのような能力が身についているかを保証するものです。学則第1条に掲げている教育の目的を前提に、大学院、各研究科、各専攻のDPを別表第Iから別表第VIのとおり定めています。

また、カリキュラム・ポリシー（CP）とは教育課程編成・実施方針のことを言い、教育の目的、DPを達成するために各専攻がそれぞれ教育課程の方針、カリキュラムを設定しています。なお、アドミッション・ポリシー（AP）は、各研究科のDPに基づいて策定され、入学試験が実施されています。



別表第I. 福岡県立大学大学院の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

領域	ポリシー	
知識・技能	DP1	□保健・医療・福祉分野の増進および地域の発展に寄与できる指導的人材として必要な専門的知識を有している。
	DP2	□保健・医療・福祉分野の諸課題を学術的にとらえるための手法を身につけている。
思考・判断・表現	DP3	□専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	DP4	□専門的な立場から、保健・医療・福祉分野の諸課題について主体性を持って取り組むことができる。
		□多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

第Ⅱ. 人間社会学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

領域	ポリシー	
知識・技能	D P 1	<input type="checkbox"/> 高度な福祉社会の実現に関わる専門的知識を有している。
	D P 2	<input type="checkbox"/> 高度な福祉社会の実現のための課題を学術的にとらえるための手法を身につけている。
思考・判断・表現	D P 3	<input type="checkbox"/> 専門的知識に基づいて高度な福祉社会を実現するための諸課題について検討できる。 <input type="checkbox"/> 学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	D P 4	<input type="checkbox"/> 専門的な立場から、高度な福祉社会を実現するための諸課題について主体性を持って取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

第Ⅲ. 看護学研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

領域	ポリシー	
知識・技能	D P 1	<input type="checkbox"/> 職業人として倫理に関わる知識を有している。 <input type="checkbox"/> 看護学に関わる専門的知識を有している。
	D P 2	<input type="checkbox"/> 看護に関する課題に取り組むための問題解決技法を身につけている。
思考・判断・表現	D P 3	<input type="checkbox"/> 看護現象を科学的及び学際的視点から捉え、看護実践の場に還元できる解決方法を見出すことができる。 <input type="checkbox"/> 専門性のある学術的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	D P 4	<input type="checkbox"/> 看護学に関する課題について主体的に探究することができる。 <input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉の将来を見据え、看護学に関する専門的知識に基づいて、さまざまな人々とともに看護活動ができる。

第Ⅳ. 人間社会学研究科社会福祉専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

領域	ポリシー	
知識・技能	D P 1	<input type="checkbox"/> 児童、障害者、高齢者を中心として、地域において様々な生活課題を抱える人々の支援に必要な知識を理解している。
	D P 2	<input type="checkbox"/> 社会福祉に関する問題を客観的に捉えるための手法を身につけている。
思考・判断・表現	D P 3	<input type="checkbox"/> 社会福祉の価値をベースとし、生活課題を抱える人々の実情に応じた支援方法を検討できる。 <input type="checkbox"/> 社会福祉学的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	D P 4	<input type="checkbox"/> 高度に専門的な立場に立って、社会福祉に関する問題に主体性をもって取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

第Ⅴ. 人間社会学研究科心理臨床専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

領域	ポリシー	
知識・技能	D P 1	<input type="checkbox"/> 心理学及び心理臨床に関わる専門的知識を有している。
	D P 2	<input type="checkbox"/> 心理的諸問題に関する課題に取り組むための実践能力および学術的手法を身につけている。
思考・判断・表現	D P 3	<input type="checkbox"/> 心理学に関する専門的知識をもとに心理的課題を検討できる。 <input type="checkbox"/> 心理学的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	D P 4	<input type="checkbox"/> 高度に専門的な立場から、心理的諸問題に主体性を持って取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

第Ⅵ. 人間社会学研究科子ども教育専攻の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：D P）

領域	ポリシー	
知識・技能	D P 1	<input type="checkbox"/> 子ども教育（保育・幼児教育及び小学校段階を中心とする学校教育）に関わる専門的知識を有している。
	D P 2	<input type="checkbox"/> 子ども教育に関する今日的・地域的課題に取り組むための実践能力および学術的手法を身につけている。
思考・判断・表現	D P 3	<input type="checkbox"/> 子ども教育に関する専門的知識をもとに、今日的・地域的教育課題を検討できる。 <input type="checkbox"/> 教育学的手法を用いて導き出した自分の考えを適切に表現できる。
主体性・多様性・協働性	D P 4	<input type="checkbox"/> 高度に専門的な立場から、子どもの育ちに関する諸問題に主体性を持って取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 多様な人々の立場やものの見方について理解し、協働する力を身につけている。

● 福岡県立大学 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

福岡県立大学大学院には、広い視野に立って専攻分野に関する専門的学術を教育研究し、学術文化の進展に寄与するとともに、社会的な場でその高度な専門的知識を活用し得る指導的人材を養成することを目的として、人間社会学研究科と看護学研究科が設置され、各研究科とその中の専攻ごとに修了に必要な単位数が設定されています。いずれの研究科・専攻においても、ディプロマ・ポリシーと対応する教育課程が編成され、論文作成を行う特別研究（または課題研究）、すべての学生が共通に学修する必修科目群とニーズに応じて学修する選択科目で構成されています。

また、保健福祉系大学院としての特性を活かして、他専攻で開講されている専門科目を履修することが可能であり、各専攻が定める範囲内で修了要件として単位認定できます。

● 人間社会学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

人間社会学研究科には、21世紀における少子・高齢化、地方分権及び自己実現要求の高まりを踏まえ、高度福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を行うとともに、職業人のリカレント教育（学習）の要求に応えることを目的として、社会福祉・心理臨床・子ども教育の3専攻が設置されています。

全ての専攻の教育課程はDPと対応し、修士論文の作成を指導する「特別研究」を中心とする必修科目群と、ニーズに応じて学修する選択科目から構成されています。

【社会福祉専攻】

社会福祉専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。

社会福祉専攻の教育課程は、高度で実践的な社会福祉専門職を養成するために、「コア科目」と「専門科目」の科目群から構成され、修了には必修科目14単位を含めて、合計30単位以上を修得する必要があります。

「コア科目」群は、社会福祉に関する問題を客観的に捉えるための手法を身につける「研究法に関する科目」（「社会福祉研究法」、「量的研究法」、「質的研究法」）、ならびに社会福祉専門職としての実践性を高める「フィールドワーク」（実習）や、さらに修士論文の作成を総合的に支援する「特別研究Ⅰ・Ⅱ」により編成されています。

「専門科目」群は、専門知識を身につけるとともに、論理的思考力・表現力・探求力を身につけるための多様な専門科目で構成されています。専門性の基盤となる「社会福祉研究A」「ソーシャルワーク研究A」を必修科目とし、その他の選択科目では、児童、障害者、高齢者を中心として、地域における種々の生活課題を抱える人々の支援に必要な知識を学修します。また「専門科目」群の科目はすべて演習形式で授業を行い、社会福祉の価値をベースとして、生活課題を抱える人々の実情に応じた支援方法を検討できること、さらに社会福祉の学術的手法を用いて抽出された諸問題について、自分の考えを適切に表現できることを目指します。

なお、他の専攻の科目又は学部の授業科目から4単位まで修了要件として単位認定できます。

【心理臨床専攻】

心理臨床専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。専攻の修了要件として、必修単位18単位を含む合計30単位以上を修得する必要があります。なお、このカリキュラムには、臨床心理士および公認心理師（大学院）を受験するために必要科目が含まれています。

心理臨床専攻では、心理学全般の領域を関連付けながら、心理臨床に関する知識技能を深め、心理的支援を必要とする人に対するカウンセリングなどの実践能力を身につけ、さらに他職種とも連携する能力をもつ高度な専門職業人を養成することを目的としています。

そのために、本専攻の教育課程は、「心理臨床基礎科目」「心理学専門科目」「実践展開科目」により編成します。

「心理臨床基礎科目」は、心理臨床に関わる専門的知識を身につけるために、臨床心理学に関わる基礎的・基本的な科目群、ならびに学内実習施設と学外実習機関で行う実習科目群で構成されています。〔心理学専門科目〕は、A群は心理学の研究法に関する科目群、B群は発達や認知などの基礎的な心理学に関する科目群、C群は社会関係に関する科目群、D群は医療や障害に関する科目群、E群はより応用的な臨床心理学に関する科目群から構成されています。「実践展開科目」は、以上に含まれていない公認心理師になるために必要な科目から構成されています。さらに修士論文の作成を総合的に支援する「特別研究Ⅰ・Ⅱ」があります。

なお、他の専攻の科目又は学部の授業科目から4単位まで修了要件として単位認定できます。

【子ども教育専攻】

子ども教育専攻では、教育目標を達成するために、以下の方針に基づき、教育課程を編成し実施します。専攻の修了要件として、必修科目16単位を含めて30単位以上を習得する必要があります。

子ども教育専攻は、保育・幼児教育分野及び小学校段階を中心とする学校教育分野における専門的職業人の養成を目指しており、保育学・教育学・児童福祉学および関係諸科学に関わる科目で構成されています。本専攻の教育課程は「子ども教育コア科目」（必修科目）と「子ども教育専門科目」（選択科目）で編成されています。子ども教育コア科目（必修科目）は、子ども教育全体を俯瞰するための基礎的・基本的な科目である「教育課題研究A」「教育課題研究B」、ならびに実践的課題の研究を行う「地域教育課題演習」「子ども教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」、さらに修士論文の作成を総合的に支援する「特別研究Ⅰ・Ⅱ」から編成されています。また、子ども教育専門科目（選択科目）は、子ども教育に関して主に専門的知識を身につけるための「研究」科目群と、論理的思考力・探求力を身につける「演習」科目群で構成されています。

子ども教育に関わる「研究」科目群は、保育所・幼稚園及び小学校の保育・教育課程、保育計画、教育制度、乳・幼児及び児童の心理、保育内容・教科（造形表現・音楽表現・身体教育、健康教育）、学校教育、児童福祉および社会学に関する専門的知識について学修します。また、「演習」科目群では、「研究」科目群の内容の演習としての展開に加え（ただし、特別支援教育は「演習」のみ）、論理的思考力・探求力を身につけることを目指します。

なお、他の専攻の科目又は学部の授業科目から4単位まで修了要件として単位認定できます。

● 看護学研究科 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

社会のニーズに柔軟に対応し、看護の質向上に貢献する看護職者を育成するために、体系的なカリキュラムを編成しております。専攻する研究分野の高度な専門性を深めるとともに、他の研究分野の学修を通して学際的な視野を広げることができるよう教育課程を編成されております。

社会のニーズに柔軟に対応し、看護の質向上に貢献する看護職者を育成するために、体系的なカリキュラムを編成する。

専攻する研究分野の高度な専門性を深めるとともに、他の研究分野の学修を通して学際的な視野を広げることができるよう教育課程を編成する。

1. カリキュラムは、専門必修科目から6単位、共通選択科目から8単位、看護学分野専門科目から16単位以上（特別研究8単位を含む）で編成される。看護学専門科目16単位のうち、他の分野から4単位以上を受講することで、幅広い知識を習得できる構成としている。
2. 専門必修科目では、看護の基盤となる理論と高い倫理観を培う科目、様々な看護現象を科学的・学際的観点から捉え、問題解決技法を養う科目を配置している。→DP1 DP2

3. 共通選択科目では、研究を遂行するために基礎となる知識を修得し、看護実践に応用できる能力を養う科目を、学生の専門性に基づいて選択して学習できるように配置している。→DP3 DP4
4. 看護分野の専門科目では、専門分野の独自性と専門性を学習し学識を深めるとともに、問題解決技法を身につけ多様性と協働性をもって看護活動ができる能力を培うために特論と演習を配置している。
→DP1 DP2 DP4
5. 様々な看護現象を科学的・学術的視点からとらえ主体的に探求する能力を身につけるため、特別研究および課題研究の科目を配置している。これまでに獲得した知識や技法を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげていく能力や態度を修得するために修士論文を課している。→DP3 DP4

(2) 教育課程及び履修基準

人間社会学研究科

専攻	科目区分	授業科目	標準開講年次と単位数				授業方法	備考
			年次	必修	選択	自由		
社会福祉専攻	コア科目	特別研究Ⅰ*	1	4			履修方法及び修了要件 1. 修士課程の修了には、各自の研究分野に従い、指導教員の下に、所定の30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査と最終試験に合格しなければならない。 2. 社会福祉専攻は、専攻から必修科目14単位を含めて、合計30単位以上を修得すること。ただし、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目から4単位まで、修了要件として単位認定できる。	
		特別研究Ⅱ*	2	4				
	社会福祉研究法*	1	2					
	フィールドワーク	1		2				
		量的研究法*	1・2		1			
		質的研究法*	1・2		1			
	専門科目	社会福祉研究A	1・2	2				
		社会福祉研究B	1・2		2			
		ソーシャルワーク研究A	1・2	2				
		ソーシャルワーク研究B	1・2		2			
		高齢者福祉研究A	1・2		2			
		高齢者福祉研究B	1・2		2			
		障害者福祉研究A	1・2		2			
		障害者福祉研究B	1・2		2			
		地域福祉研究A	1・2		2			
		地域福祉研究B	1・2		2			
		子ども家庭福祉研究A	1・2		2			
		子ども家庭福祉研究B	1・2		2			
		精神保健福祉研究A	1・2		2			
		精神保健福祉研究B	1・2		2			
		福祉制度比較研究	1・2		2			
		社会保障制度研究A	1・2		2			
	社会保障制度研究B	1・2		2				
	地域問題研究A	1・2		2				
	地域問題研究B	1・2		2				
	教養科目	研究倫理	1		1		メディア	
		Postgraduate presentation skills Development in English	1・2		1			
		計		14	40			

※ *がついている科目は、認定社会福祉士の資格取得に必要な研修単位（「その他科目」の単位）とすることができる科目です。これらの科目の単位を用いて認定社会福祉士の認定申請を行う場合は、事前に専攻の教員もしくは教務入試班にご相談ください。

※ 「授業方法」に「メディア」と記載された科目は、全コマ数の半数以上（全15回授業の場合は8回以上）の「メディア」授業が設定された科目です。「メディア」授業回は、学外からメディアを用いて履修することができます。また、他の授業と同様に学内で履修することも可能です。

専攻	科目区分	授業科目	標準開講年次と単位数				授業方法	備考
			年次	必修	選択	自由		
心理臨床専攻	コア科目	特別研究Ⅰ	1	4			3. 心理臨床専攻は、専攻から必修科目18単位を含めて、合計30単位以上を修得すること。ただし、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目から4単位まで、修了要件として単位認定できる。 4. 心理臨床専攻の心理臨床基礎科目及び選択科目E群については、他専攻の学生は受講できない。	
		特別研究Ⅱ	2	4				
	心理臨床基礎科目	臨床心理学特論	1・2	4				
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1・2	2				
		臨床心理面接特論Ⅱ	1・2	2				
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1・2		2			
		臨床心理査定演習Ⅱ	1・2		2			
		臨床心理基礎実習A	1	1				
		臨床心理基礎実習B	1	1				
		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）	1～2		10			
	臨床心理実習Ⅱ	2		1				
	心理実践実習B	1～2		2				
	心理学専門科目	A群	心理統計法特論	1・2		2		
			心理学研究法特論	1・2		2		
		B群	発達心理学特論	1・2		2		
認知心理学特論			1・2		2			
C群		社会心理学特論	1・2		2			
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2 1・2		2 2				
D群	神経生理学特論	1・2		2				
	老年心理学特論	1・2		2				
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1・2		2				
E群	投映法特論 心理療法特論	1・2 2		2 2				
実践科目	展開科目	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2		2			
		教育分野に関する理論と支援の展開	1・2		2			
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2		2			
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2		2			
教養科目		研究倫理	1		1	メディア		
		Postgraduate presentation skills Development in English	1・2		1			
計				18	51			

※ 「授業方法」に「メディア」と記載された科目は、全コマ数の半数以上（全15回授業の場合は8回以上）の「メディア」授業が設定された科目です。「メディア」授業回は、学外からメディアを用いて履修することができます。また、他の授業と同様に学内で履修することも可能です。

専攻	科目区分	授業科目	標準開講年次と単位数				授業方法	備考
			年次	必修	選択	自由		
子ども教育専攻	コア科目	教育課題研究 A	1	2			メディア	5. 子ども教育専攻は、所属する専攻から必修科目 16 単位を含めて、合計 30 単位以上を修得すること。 ただし、他の専攻の授業科目又は学部の授業科目から 4 単位まで修了要件として単位認定できる。
		教育課題研究 B	1	2			メディア	
		地域教育課題演習	2	2			メディア	
		子ども教育実践実習 I	1	1				
		子ども教育実践実習 II	2	1				
		特別研究 I	1	4			メディア	
	特別研究 II	2	4			メディア		
	専門科目	子ども教育研究法	1・2		2		メディア	
		子ども教育カリキュラム研究	1・2		2		メディア	
		子ども教育制度研究	1・2		2		メディア	
		子どもの心理研究	1・2		2		メディア	
		子ども音楽表現研究	1・2		2		メディア	
		子ども造形表現研究	1・2		2		メディア	
		子ども身体教育研究	1・2		2		メディア	
		子どもの福祉研究	1・2		2		メディア	
		学校教育研究	1・2		2		メディア	
		統計学演習	1・2		2		メディア	
		子ども教育カリキュラム演習	1・2		2		メディア	
		子ども教育制度演習	1・2		2		メディア	
		子どもの心理演習	1・2		2		メディア	
子ども音楽表現演習		1・2		2		メディア		
子ども造形表現演習	1・2		2		メディア			
子ども身体教育演習	1・2		2		メディア			
子どもの福祉演習	1・2		2		メディア			
学校教育演習	1・2		2		メディア			
子育ての社会学演習	1・2		2		メディア			
教養科目	研究倫理	1		1		メディア		
	Postgraduate presentation skills Development in English	1・2		1				
計				16	40			

※ 「授業方法」に「メディア」と記載された科目は、全コマ数の半数以上（全 15 回授業の場合は 8 回以上）の「メディア」授業が設定された科目です。「メディア」授業回は、学外からメディアを用いて履修することができます。また、他の授業と同様に学内で履修することも可能です。

看護学研究科

コース	領域	専門	科目区分	授業科目	標準開講年次・時期・単位数						
					年次	開講時期	必修	選択	自由		
全コース	全領域	全学	専門必修	看護理論	1	前期	2				
				看護倫理	1	前期	2				
				看護研究法	1	前期	2				
			小計						6		
			共通選択	コンサルテーション論	1	前期		2			
				看護教育学	1	後期		2			
				英語文献講読特論	1	前期		2			
				看護政策論	1	通年		2			
				Advanced生理学・病態生理学	1	前期		2			
				Advancedフィジカルアセスメント	1	後期		2			
				Advanced臨床薬理学	1	通年		2			
				看護管理学	1	後期		2			
				嗜癲行動学特論	1	後期		2			
				ヘルスプロモーション科学	1	後期		2			
				哲学の人間学	1	後期		2			
データ解析特論	1	前期			2						
データ解析演習	1	後期		2							
ウイメンズヘルステ論	1	前期		1							
ウイメンズヘルス演習	1	後期		1							
小計							28				
コース	領域	専門	科目区分	授業科目	標準開講年次・時期・単位数						
					年次	開講時期	必修	選択	自由		
研究コース	全領域	看護学	基礎	専門科目	基礎看護学特論	1	前期		2		
					基礎看護学演習	1	後期		2		
					看護心理学特論	1	前期		2		
					看護心理学演習	1	後期		2		
					看護教育学特論	1	前期		2		
					看護教育学演習	1	後期		2		
			実験	専門科目	実験看護学特論	1	前期		2		
					実験看護学演習	1	後期		2		
					共通	基礎看護学特別研究	1~2	通年		8	
			小計							24	
			ヘルスプロモーション看護学	専門科目	地域	地域看護学特論	1	前期		2	
					地域看護学演習	1	後期		2		
					ヘルプロ	思春期ヘルスプロモーション特論	1	前期		2	
					思春期ヘルスプロモーション演習	1	後期		2		
					在宅	在宅看護学特論	1	前期		2	
在宅看護学演習	1	後期		2							
共通	ヘルスプロモーション看護学特別研究	1~2	通年		8						
小計							20				
臨床看護学	専門科目	小児	小児看護学特論	1	前期		2				
		小児看護学演習	1	後期		2					
		成人	成人看護学特論	1	前期		2				
		成人看護学演習	1	後期		2					
		老年	老年看護学特論	1	前期		2				
		老年看護学演習	1	後期		2					
精神	専門科目	精神看護学特論	1	前期		2					
		精神看護学演習	1	後期		2					
共通	臨床看護学特別研究	1~2	通年		8						
小計							24				

※専門看護師コース開講科目 募集停止中

コース	領域	専門	科目区分	授業科目	標準開講年次・時期・単位数				
					年次	開講時期	必修	選択	自由
専門看護師コース (※募集停止中)	臨床看護学	老年看護	専門科目	老年看護学特論	1	前期		2	
				高齢者健康生活アセスメント論	1	前期		2	
				老年病診断治療学	1	前期		1	
				老年病診断治療学演習	1	前期		1	
				高齢者看護方法論	1	前期		2	
				高齢者地域・家族看護方法論	1	後期		1	
				高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論	1	後期		2	
				終末期高齢者看護論	1	後期		2	
				認知症高齢者看護論	1~2	前期		2	
				終末期老年看護実習Ⅰ	1	後期		2	
				終末期老年看護実習Ⅱ	1	後期		3	
				認知症老年看護実習Ⅰ	1~2	前期		2	
				認知症老年看護実習Ⅱ	1~2	前期		3	
				精神看護	専門科目	精神看護学特論	1	前期	
		精神看護関連法規・制度・政策論	1			通年		2	
		精神看護論	1			通年		2	
		精神看護アセスメント論	1			通年		2	
		精神看護セラピーⅠ	1			通年		2	
		精神看護セラピーⅡ	1			通年		2	
		リエゾン精神看護論	1			通年		2	
		精神障がい者地域移行・地域定着看護論	1			通年		2	
		精神看護専門看護師直接ケア実習	1			通年		2	
		精神看護専門看護師役割実習	1			通年		2	
		共通	専門科目	精神科診断治療実習	2	通年		2	
				Advanced精神看護専門看護師直接ケア実習	2	通年		2	
				Advanced精神看護専門看護師役割実習	2	通年		2	
				課題研究	1~2	通年		4	
小計							55		

	領域	専門	科目区分	授業科目	標準開講年次・時期・単位数					
					年次	開講時期	必修	選択	自由	
研究・助産実践形成コース	助産学	助産	専門科目	基礎助産学特論	1	前期		2		
				基礎助産学演習	1	通年		2		
				助産学特論	1	前期		2		
				助産学演習	1	後期		2		
				ホリスティック助産学特論	1	前期		1		
				ホリスティック助産学演習	1	後期		2		
				助産実践学Ⅰ（妊娠期）	1	前期		2		
				助産実践学Ⅱ（分娩期）	1	通年		4		
				助産実践学Ⅲ（産褥・新生児期）	1	前期		2		
				助産実践学Ⅳ（ハイリスクケア）	1	後期		2		
				マネジメント助産学特論	2	後期		2		
				コミュニティ助産学特論	1	後期		2		
				コミュニティ助産学演習	1	後期		1		
				助産学実習Ⅰ（助産所実習）	1	前期		1		
				助産学実習Ⅱ（周産期ケア実習）	1	後期		8		
				助産学実習Ⅲ（継続ケア実習）	2	通年		3		
				助産学実習Ⅳ（ハイリスクケア実習）	2	前期		1		
				助産学実習Ⅴ（健康教育実習）	2	通年		2		
		研究	助産学特別研究	1～2	通年		8			
		実践共通	助産学課題研究	1～2	通年		4			
小計									53	

注1. 専門必修科目6単位、共通選択科目8単位、看護学分野の専門科目16単位以上を修得することが必要です。

注2. 「特別研究」と「課題研究」は、修士論文作成指導であり、通常1年次前期から履修しますが、長期履修の場合は2年次前期からの履修もあり得ます。

(3) 講義・演習・実習の開講科目数

(単位：科目数)

研究科	講義科目	演習科目	実習科目	合計
社会福祉専攻科目	3	21	1	25
心理臨床専攻科目	19	4	5	28
子ども教育専攻	11	14	2	26
看護学専攻科目	32	22	5	59

3. 学生の単位修得状況

(1) 成績評価及び単位認定（学部・研究科）

単位の修得の認定は、試験の成績および平素の学習状況・出席状況等の総合的な評価によって行われるものであり、単位の修得はこれによって決定される。単位修得の認定を受けるためには、試験の有無にかかわらず、原則として授業実施回数（補講も含む）の3分の2以上の出席が必要となる。本学の試験の成績評価は、100点を満点とする次の5段階の評価点で行い、各段階に以下の成績評語及びGP（グレード・ポイント）を当て、60点以上を合格として単位を修得したものと認定する。ただし、大学院はGPを導入していない。

2018年度までの入学者

評価点	成績評価	GP	単位の認定
90～100	A	4.0	認定する (合格)
80～89	B	3.0	
70～79	C	2.0	
60～69	D	1.0	
0～59	不可	0.0	認定しない (不合格)
—	未受験	0.0	
—	無資格	0.0	

2019年度以降入学者

評価点	成績評価	GP	単位の認定
90～100	S	4.0	認定する (合格)
80～89	A	3.0	
70～79	B	2.0	
60～69	C	1.0	
0～59	不可	0.0	認定しない (不合格)
—	未受験	0.0	
—	無資格	0.0	

※未受験：出席は満たしているが、試験を受けなかったこと。

※無資格：出席を満たしていないこと。

学期ごとに、成績評語及び以下の計算式によって獲得GP、GPA及び累積GPAを算出。

獲得GP = (履修登録科目の単位数) × (成績評語に対応するGP)

当該学期の履修登録科目の獲得GPの総和

$$GPA = \frac{\text{当該学期の履修登録科目の獲得GPの総和}}{\text{当該学期の履修登録科目の総単位数}}$$

前学期までの獲得GPの総和 + 当該学期の獲得GPの総和

$$\text{累積GPA} = \frac{\text{前学期までの獲得GPの総和} + \text{当該学期の獲得GPの総和}}{\text{当該学期までの履修登録科目の総単位数}}$$

(GPA、累積GPA：小数点第3位以下切り捨て)

(2) 学部単位修得状況（学科ごとの成績評価とGPA平均値）

（単位：件数）

R3年度以前入学者	人間社会学部			看護学部	R5年度入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
S	191	323	357	979	S	508	841	672	832
A	324	253	224	1,527	A	763	909	893	1,695
B	177	100	77	417	B	486	487	528	1,210
C	99	27	77	68	C	362	178	290	522
不可	18	8	22	0	不可	109	44	76	25
未受験	6	0	2	0	未受験	1	2	3	14
無資格	60	13	110	9	無資格	82	19	115	44
GPA平均値	2.50	3.15	2.68	3.13	GPA平均値	2.45	2.92	2.60	2.62

R4年度入学者	人間社会学部			看護学部	R6年度入学者	人間社会学部			看護学部
	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
S	396	654	637	802	S	570	653	872	688
A	481	518	817	1,421	A	1,069	1,162	1,446	2,296
B	336	270	342	374	B	798	700	652	1,561
C	154	107	175	142	C	404	348	236	698
不可	18	22	9	2	不可	44	37	40	30
未受験	8	5	3	3	未受験	3	4	1	2
無資格	50	69	24	65	無資格	41	30	41	31
GPA平均値	2.67	2.93	2.92	2.98	GPA平均値	2.56	2.67	2.85	2.54

(3) 大学院単位修得状況（成績評価）

（単位：件数）

R5年度以前入学者	人間社会学研究科	看護学研究科
S	336	27
A	106	86
B	8	21
C	4	5
不可	2	0
未受験	1	0
無資格	14	0

R6年度入学者	人間社会学研究科	看護学研究科
S	198	42
A	41	105
B	0	32
C	0	2
不可	0	0
未受験	0	0
無資格	1	1

(4) 学修証明書取得者数

(単位：人数)

R 6 年度取得者	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
データサイエンス (基礎)	40	40	33	22
データサイエンス (応用)	11	8	9	31
データサイエンス (リテラシー)	-	-	114	91
キャリアマネジメント (基礎)	4	7	6	3
キャリアマネジメント (応用)	0	0	0	1

4. 教員免許状取得数 (高校公民・中学社会・幼稚園教諭・養護教諭)

	H 3 0 年度	H 3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
高校公民	13	4	6	9	5	7	12
中学社会	9	4	4	6	5	7	8
幼稚園教諭	32	33	18	16	21	12	13
養護教諭	8	8	10	11	10	13	7

5. 保育士資格取得者数

	H 3 0 年度	H 3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
保育士	33	34	19	15	21	12	13

6. スクールソーシャルワーカー教育課程修了者数

	H 3 0 年度	H 3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
修了者数	9 (4)	5 (3)	10 (6)	6 (3)	6 (6)	5 (5)	3 (3)

()内は、社会福祉国家試験合格の後、課程修了証を交付された者の人数

※R6年度の課程修了証交付予定者は、令和7年11月に手続きを行うため確定人数ではない。

7. 社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験合格者数

社会福祉士

	福岡県立大学 (現役)			全国 (現役)		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H 3 0 年度	50	39	78.0%	41,639	12,456	29.9%
H 3 1 年度	57	45	78.9%	39,629	11,612	29.3%
R 2 年度	52	35	67.3%	35,287	10,333	29.3%
R 3 年度	45	33	73.3%	34,563	10,742	31.1%
R 4 年度	46	43	93.5%	36,974	16,338	44.2%
R 5 年度	45	40	88.9%	34,539	20,050	58.1%
R 6 年度	48	38	79.2%	27,616	15,561	56.3%

精神保健福祉士

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H 3 0 年度	12	11	91.7%	6,772	4,251	62.8%
H 3 1 年度	15	14	93.3%	6,633	4,119	62.1%
R 2 年度	10	10	100.0%	6,165	3,955	64.2%
R 3 年度	11	10	90.9%	6,502	4,267	65.6%
R 4 年度	14	14	100.0%	7,024	4,996	71.1%
R 5 年度	6	6	100.0%	6,978	4,911	70.4%
R 6 年度	17	17	100.0%	6,642	4,694	70.7%

8. 看護師・保健師・助産師 国家試験合格者数

看護師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H 3 0 年度	86	84	97.7%	58,308	55,216	94.7%
H 3 1 年度	95	95	100.0%	59,320	56,175	94.7%
R 2 年度	99	98	99.0%	59,593	56,868	95.4%
R 3 年度	93	92	98.9%	59,148	57,057	96.5%
R 4 年度	89	83	93.3%	58,911	56,276	95.5%
R 5 年度	93	92	98.9%	57,860	53,903	93.2%
R 6 年度	95	93	97.9%	56,035	53,718	95.9%

保健師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H 3 0 年度	13	13	100.0%	7,456	6,567	88.1%
H 3 1 年度	12	12	100.0%	7,318	7,050	96.3%
R 2 年度	13	13	100.0%	7,281	7,094	97.4%
R 3 年度	10	9	90.0%	7,504	6,975	93.0%
R 4 年度	15	15	100.0%	7,477	7,235	96.8%
R 5 年度	14	14	100.0%	7,387	7,218	97.7%
R 6 年度	15	15	100.0%	7,308	7,045	96.4%

助産師

	福岡県立大学（現役）			全国（現役）		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
H30年度	4	4	100.0%	2,079	2,076	99.9%
H31年度	6	6	100.0%	2,098	2,088	99.5%
R2年度	6	6	100.0%	2,097	2,091	99.7%
R3年度	5	5	100.0%	2,078	2,071	99.7%
R4年度	6	4	66.7%	2,055	1,971	95.9%
R5年度	5	5	100.0%	2,063	2,049	99.3%
R6年度	4	4	100.0%	2,024	2,009	99.3%

9. 社会調査士資格取得者数

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
社会調査士	21	29	26	30	13	17	27

10. 上級情報処理士資格取得者

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
上級情報処理士	38	43	44	26	18	33	35

11. 認定心理士資格取得者数

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
認定心理士	1	0	0	0	0	0	0

12. 臨床心理士資格取得者数

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
臨床心理士	11	7	7	3	4	3	6

13. 臨床心理士資格取得者数学位プログラムDPレビュー

2024年度 公共社会学科

1. 現状の説明

① 授業実施評価レポート

成績評価アンケートは、全体的に良好な結果であり、本学科のDPに沿った授業が実施されていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な回答結果であることと、人数はごく少数だが他学年に比べ2年生で「透明性」「客観性」「妥当性」「公平性」が不足している科目があったという割合が1割弱確認されたという指摘があった。成績分布については、科目全体で一定のバランスが取れており、成績に「不可」が極端に多い科目もなかった。教務・共通教育部会からは、受講者数10名を超える科目において成績Sが受講者の3分の2を超えていた3科目と、受講者数が5名未満であった5科目について、指摘があり、検討を求められた。これらへの対応方策については後述のとおりである。

② DPアンケート

DPアンケートの結果は、5点満点での平均値が全ての項目で4以上であった。全13項目の平均値も4.3であることから、4年間の学習成果について学生から一定以上の評価が得られており、学科DPに沿った教育が行われていると評価できる。教務・共通教育部会からは、全体的に良好な結果が得られていること、地域課題や社会問題、異なる文化や価値観への理解、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識に関する項目が高い値となっている点が評価された。一方で、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたと思うようになった」の項目(4.1)など、表現、主体性、協働性に関する項目で若干ではあるが、他項目よりは相対的に低い値であると指摘があった。この点への対応方策は後述のとおりである。

③ 進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路では、47名の卒業生のうちの44名の就職希望者について就職率100.0%となっている。就職先の内訳は「民間企業・団体等」が28名(63.6%)、「官公庁等」が11名(25.0%)、「教員」が5名(11.4%)であった。このほか大学院・専門学校等の進学者が1名いる。資格について、公共社会学科では中学校教諭一種免許状(社会)取得者が7名、高等学校教諭一種免許状(公民)取得者は7名、社会調査士資格取得者は15名、上級情報処理士資格取得者は33名であった。昨年度に続き、近年の傾向として「官公庁等」の就職者比率が高く、今年度については「教員」が多いのが特徴的であった。この点は、民間企業への就職とあわせ、「現代社会の多様な課題に対応するため、地域社会と国際共生に焦点をあて、公共性に根ざした社会問題解決能力に秀でた人材を育成する」という学科の教育研究上の目的と一致していると考えられる。

留年生は1名と昨年度4名からは減少した。退学者は4年次(留年者含む)2名と昨年度1名から増えたが、過去4年間から大きな変化はなかった。進路生活部会からは、学科ではなく大学全体に対して、不本意な退学を避けるための支援を行っていく必要性が指摘されている。この点への対応方策については後述する。

2. 2023年度対応プランの結果

①の成績評価については昨年度に引き続き、1年生に対しオリエンテーションや授業の中で、大学での成績評価のあり方や目的に関して丁寧の説明を行った。また、コース会議で成績分布及び受講者数について情報共有と点検を行い、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を行った。専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を行った。結果、前述のように成績評価アンケートで良好な回答結果を得られた。成績分布についてはS評価が多い科目について科目担当者に確認をとり問題のないことを確認するなどした。受講者数の少ない科目については、設定可能な範囲で時間割上の配置を工夫し、オリエンテーションなどで科目の内容紹介と履修奨励を行った。それにより当該科目については一定の改善がみられたものの、他方で当該年度は当該科目に限らず非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向があるという課題が確認できた。

②のDPアンケートについては、全体的に良好な評価を得ていたが、地域課題や社会問題への背景や対応策に関し説明することや主体的に取り組むことには課題もみられた。そこで、地域課題や社会問題に関する教育について、教員間で情報共有を図り、各科目で適宜改善に向けた取組を進めた。結果、全体的に高い評価を得ることができた一方、「地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたいと思うようになった」をはじめ、表現、主体性、協働性に関する項目では改善の余地がある結果となった。

③の卒業生の進路については、全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを継続して運営してきており、一定の成果が現れていると言えよう。留年、退学の状況については、GPAが低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行ってきた。

3. 今回の課題と対応プラン

①のうち、成績評価では、全体的に良好な結果が得られていることから、引き続きコースで全体的な成績分布や受講者数の情報共有と点検を継続して行う。また、コース担当教員を中心に各自のシラバスや成績評価方針の点検を継続して行う。また、専門科目の履修が増える2年生を中心に各科目やオリエンテーションにて、大学の成績評価の方法や目的についての説明を入念に行う。受講者数が少ない科目については非常勤講師による担当講義の受講者数が少ない傾向があるという課題が確認できたため、履修登録期間に各学年に適切な履修登録を促すとともに、非常勤講師による担当講義の紹介をオリエンテーションとメールで行い、

履修を勧める。また、今後の学部カリキュラムの見直しを行う過程で、専門教育科目の改廃についても併せて検討する。

②のDPアンケートでは、全体的に良好な結果が得られており、DPにそった教育を継続するとともに、地域課題や社会問題に主体的に取り組む能力や意欲を高める教育を行うため、教員間で情報共有を図り、個々の科目で改善に向けた取組を進める。具体的には地域課題や社会問題に対する対応策の事例紹介やそれらに関し学生が考察、説明や活動を行う機会を増やすことなどが考えられる。

③の進路、資格試験については、学科のDPに沿った成果が現れていると考えられる。全学的な就職支援の整備とあわせ、学科においても就職支援に関する複数のプログラムを引き続き運営する。留年、退学の状況については、GPAが低い学生に対する面談や必修科目の授業参加が滞っている学生への連絡を継続して行い、不本意な留年、退学を避けるための支援を行っていく。

4. DP達成状況のまとめ

以上、本学位について、成績評価、学生による評価、進路の状況から判断すると、DP全体について一定以上の達成状況にあると考えられる。「表現、主体性、協働性」の項目においては改善点も見出されるため、この項目についての教育の強化も視野に入れながら、学位プログラムの運営に継続して努める。

2024年度 社会福祉学科

1. 現状の説明

① 授業実施評価レポート

成績評価の4つの視点（透明性・客観性・妥当性・公平性）が不足する科目について、ほとんどの学生が「なかった」と回答しており、全体的には良好であった。その一方、透明性について1年生1名から「いくつもあった」と回答があったほか、1～3年生では各項目に数名ずつ「一つ二つあった」と回答があった。また自由記述では、1科目について出席確認を確実に行ってほしいと指摘された。これらについて教務・共通教育部会での検討・指摘を踏まえて、学生への成績評価方法の周知を引き続き丁寧に行うこととした。

成績分布について、成績Sが受講生の3分の2を超えていた2科目は、受講者の能力を考慮して主に試験の難易度を見直すことにした。成績「不可」の受講生が多い科目はなかった。受講者数が5名以下だった3科目はすべて学校ソーシャルワーク関連科目であるが、例年の受講者数の変動範囲内（概ね5～10名程度）と考えられることからカリキュラム自体に大きな問題はないと判断した。

② DPアンケート

DPアンケートの結果については、全項目平均値が4.5（5段階評価）であったことから卒業時までの学修到達度は十分であると判断した。全項目の学修到達度を比較すると、ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）における先行研究の収集や分析、研究課題の主体的な設定や研究成果の論理的な表現がやや低めの値（4.3～4.4）を示しているため、授業における指導方法・内容を工夫することが今後の課題であると考えられる。

③ 進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生48名のうち就職希望者45名の就職率は100%であり、進路状況は良好である。就職先としては、社会福祉施設等19名、病院・医療施設8名、官公庁等11名（うち福祉職9名）、民間企業7名となっており、実践力のあるソーシャルワーカー養成や高度福祉社会を担う人材の輩出という社会福祉学科の設置目的と一致した進路を選択している。

資格試験については、卒業生（現役）における合格率が社会福祉士87.0%（全国平均58.1%）、精神保健福祉士100%（全国平均70.4%）であり、全国平均を大きく上回る良好な結果となった。

留年・退学については、退学が4名、留年が3名であった。退学者4名のうち3名は2020年度入学生であり、これにより2020年度入学生の退学は計8名となった。不本意入学や成績不良など様々な原因が複合して退学に至っているのが実態ではあるが、そのなかでもCOVID-19の影響は大きかったと思われる。留年者のうち2名は、心身の不調が理由で卒業に必要な単位が揃わなかった者であるが、2023年度に卒業している。残りの1名は学習意欲が低下して休学するなどしており、大学に来ることができておらず連絡も取れない状況であるが、引き続き連絡をとり接触を試みることにしている。

2. 2023年度対応プランの結果

成績評価・成績分布については、①学生への成績評価方法の周知をこれまでより丁寧に行うこと、②成績提出締切を厳守するよう教員（常勤・非常勤）に周知すること、の2点について取り組んだ。①については、

成績評価アンケートの結果から十分な成果をあげていることがわかる。②については、学生への成績掲示が遅れることはなかったため、目的を達したといえる。

ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）における指導の工夫については、5ポイント中の4.3～4.4ポイントとなっていて十分な成果をあげているが、他の項目（4.5～4.7ポイント）と比較してみると工夫の余地がまだあるともいえる。

進路・資格試験については、就職率100%であることや、ほとんどの学生が国家試験に合格しており全国平均合格率と比較しても良好な結果が得られていることから、社会福祉学科における専門教育やキャリア支援の成果がみられる。

留年・退学については、例年から大きく増えても減ってもいない状況である。しかし、その多くが心身の不調や生活リズムの乱れ、学修意欲の低下など学生自身の要因を背景として退学や留年となっていることから、引き続き学生に対して丁寧な支援を行うことが重要であると認識している。

3. 今回の課題と対応プラン

成績評価・成績分布について、特に改善を急ぐ課題はなかったが、学生への成績評価方法の周知をより丁寧に行うことについて引き続き留意していきたい。

DPアンケートからみる4年間の学修到達度に関しては、特に大きな問題は見られないが、学生がより適切に学修を進められるよう、ゼミにおいて先行研究等の収集と分析、研究課題の主体的な設定や研究成果の論理的な表現に関する指導の工夫を検討していくことが重要と考える。

進路・資格試験については良好な結果が得られていることから、進路相談や学修支援に関するこれまでの取り組みを継続していくことが重要である。また、留年・退学について、数はそれほど多くないものの毎年数名が留年・退学となっているため、履修指導や学修支援、学生相談を引き続き実施していきたい。

4. DP達成状況のまとめ

成績評価・成績分布については、昨年度の課題が改善されている。DPアンケートも全体として高い値の結果が得られ、十分な学修到達度であることが確認できた。進路・資格試験・留年・退学の状況についても、全体として良好な結果であり、大きな問題は見られない。以上の結果から、本学位プログラムの実施状況は良好であるといえる。

2024年度 人間形成学科

1. 現状の説明

1) 授業実施評価レポート

成績評価アンケートの結果について学科内で検討を行った。殆どの学生が各項目で「なかった」と回答しており、概ね良好な結果であった。全体として成績評価の透明性・客観性・妥当性・公平性は確保されていると考えられるが、各項目に数名ずつ「一つ二つあった」という回答が見られた。自由記述では、評価方法に対するもの、評価方法に関する説明不足が推測されるもの、講義内容に関するものなどの指摘があった。その内容を科目担当者に伝えた結果、適切に評価方法の説明を行っており、主として学生の提出課題の質が充分でなかったことに起因する等の回答があった。一方で、提出課題に対するフィードバックを充実させるなど、次年度に向けた教育内容の改善の提案もあった。

成績分布について、受講者数が5名以下の科目について検討した結果、科目の必要性・妥当性について必要に応じて検討を行うこととなった。成績「不可」が多い科目は特に見られなかった。受講者数10名を超える科目で、S評価が受講者数の3分の2を超えていた科目については、2024年度に担当者変更となった科目も含まれている。2024年度以降の成績評価の確認を行い、成績基準の設定が適切かどうか推移を見守ることとした。

2) DPアンケート

全項目の平均値が4.6（5段階評価）であり、4年間での学習到達度は十分であると判断した。習得した専門的知識を踏まえて適切な対応プランを検討する力量（項目4）や、文献研究や調査・実験における技能と表現力（項目5）に関しては、やや低めの到達度（4.4）を示していたため、その指導方法・内容を工夫することが必要と考えられる。

3) 進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生49名のうち、就職希望者36名の就職率は94.4%であった。就職先は、民間企業17名、社会福祉施設等6名、官公庁等5名、公立保育所5名、私立認定こども園1名であった。また、進学者は12名おり、国公立大学大学院に10名、私立大学大学院に2名進学した。保育・幼児教育または生涯にわたる心理臨床な

どに携わる専門的人材の輩出という、人間形成学科の教育目的と合致した進路を選択した卒業生が多く、良好な結果となったと考えられる。

留年・退学状況は、退学者数は4名、留年者数は4名であった。退学者4名のうち1年次の退学者は0名であったが、2年次以上には退学者が1名以上いた。また、留年者数については、2022年度は1名だったが、2023年度は4名に増加した。GPAに基づく学生支援を通して、履修状況等に課題のある学生を早めに把握し、教務部会員や学年担任、ゼミ教員等による支援を行う必要がある。

2. 2023年度対応プランの結果

2023年度は、(1)すべての科目で成績評価方法に関する説明を丁寧に実施すること、(2)シラバス通りの授業内容を実施することに加えて教員の指示内容に一貫性を持たせること、という2点を実施した。(1)に関しては成績評価アンケート結果より、学生からの成績評価に関する信用は全体として維持されたことが確認できた。(2)を実施した結果、自由記述において関連する意見は特に見られなかったため、目標を達成することができたと考えられる。

DPアンケートの結果については、平均値は4.6であり十分な学習到達度であったと考えられるが、専門的知識を活用する技能や表現力に関しては、やや低めの到達度(4.4)だった。そのため、指導方法・内容について工夫する必要があると考えられる。

進路に関しては、民間企業に加えて、公立保育所や社会福祉施設等に就職したり、臨床心理士・公認心理師資格取得を目指すために大学院に進学したりするなど、人間形成学科の教育目的と合致した進路を選択した卒業生が多く、本学科の教育成果が表れていると考えられる。

留年・退学状況については、留年者数は2022年度と比較すると2023年度は増加したため、GPAに基づく学生支援を通して、履修状況等に課題のある学生を早めに把握し、教務部会員や学年担任、ゼミ教員等による支援を行う必要がある。

3. 今回の課題と対応プラン

成績評価に関しては、すべての学年に対して、より丁寧に成績評価に関する説明や確認を行うこととする。成績分布については受講者数を踏まえ、科目の必要性・妥当性について必要に応じて検討を行う。

DPアンケートからは、専門的知識を活用する技能や表現力に関する課題があると思われるため、その指導内容・方法について検討する必要がある。

進路については概ね良好な結果を得られていたため、この状況を継続できるように学修支援・キャリア支援に取り組む必要がある。

4. DP達成状況のまとめ

成績評価・成績分布の結果より、学生からの成績評価に対する信用は全体として維持されたこと、DPアンケートからは、全項目の平均値から学習到達度は十分であることが確認できた。進路・資格試験・留年・退学状況も概ね良好な結果であった。以上の結果から、本学位プログラムの実施状況は良好であるといえる。

2024年度 看護学部

1. 現状の説明

① 授業実施評価レポート

成績評価アンケートの結果は、約85%の学生が透明性、客観性、妥当性、公平性において「不足する科目はない」と回答しており、概ね良好であった。少数ではあるが成績評価に疑問を持つ学生がおり、特に低学年である1、2年生では「不足を感じる科目がある」と回答した学生が1割程度いた。また、自由記述の記載が7件あり、評価基準や方法に関する記載が多かった。検討の結果、全体的には良好な結果であり大きな問題はないと判断された。しかし成績評価の方法や内容に関して一部の学生に十分な理解が得られていない可能性があると考えられたことから、シラバスや授業内、オリエンテーション等で詳細な説明を行うこととした。

成績分布では、専門基礎科目及び専門科目の全体で見ると、学科全体として一定のバランスがとれており、大きな問題はなかった。また、S評価が0人の科目が8科目あり、これらの科目は、受講者数が少ないことや学修不足等が原因と考えられたことから成績評価は問題ないと考えられたが、評価基準の見直しを行うこととなった。学修が不足している学生が多かったこと受講者数が0名の科目は5科目、受講者が9名以下の科目は2科目であり、そのうち6科目は2021年、2022年と同様の傾向であった。検討した結果、看護学部は必修科目が多く、実習期間が長いことにより、これらの選択科目を受講する余裕がない、希望があっても受講できない、科目受講の必要性を感じにくいことなどが原因として考えられた。2022年度より新カリキュラムが開始となり、単位数や科目の編成や内容の変更を行っていることから新カリキュラムへの完全移行となる2025年度まで経年的に確認し判断することとした。

② DPアンケート

看護学部におけるDPアンケートの結果は、全項目で平均値が4.5以上であり、全9項目の平均値も4.6で、2022年度と同様に比較的高い傾向が示された。学生は4年間を通して必要な能力を身につけたことを実感し、看護学部のDPを満たすことができおり、学修の成果について一定の評価が得られた。

③ 進路・資格試験・留年・退学状況

卒業生の進路としては、就職・進学率100%であり良好であると言える。就職先の内訳は医療施設64.5%、教育（養護教諭等）12.9%、官公庁（保健師等）10.8%、民間企業・団体1.0%、進学10.8%であった。学生は希望した施設に就職・進学できており、「社会や対象が抱えている健康上の問題に対して、多職種と協働し、諸課題に対して適切な看護が選択できる看護専門職者を育成する」という学科の教育目標と一致しており、また、多様な場で働く看護職を育成することにつながったと言える。資格試験の合格率は看護師98.9%であり、全国平均（新卒）の93.2%を上回った。保健師は100%であり、全国平均（新卒）97.7%を上回った。留年生は11名であり前年度とほぼ同数であった。そのうち4名は、留学や養護教諭コースへの進路変更に伴う科目履修などが理由であり、7名は健康上の理由、進路検討・経済的理由などであった。退学者1名は4年生（留年生）であった。

2. 対応プランの結果

2023年度は以下の点について計画し、対応した。

①成績評価については学生への理解を深めるために、丁寧な説明と理解を得ることが必要であったため、2022年度から引き続き、担当教員に対して、シラバスの中でディプロマ・ポリシーに基づいた到達目標や評価基準を詳細に記載するように求めた。また、授業の初回時に、シラバスを用いて評価方法等についての説明と授業内や最終回に定期試験範囲、出題方法を伝え、質問を受け付けること、新年度オリエンテーションでの評価方法等についての説明などを行った。概ね良好な結果であったことは、これらの対応により学生への理解が促された結果であると思われる。しかし2022年度と比較すると、透明性、客観性、妥当性、公平性に不足する科目が無いと回答している割合が低下しており、また低学年に成績評価に疑問を持っている学生が多い傾向であったことから、今後はさらに上記対応を充実させることとなった。成績分布では、前年度に引き続き各担当教員に対して、シラバス作成時に科目の特性や目的及び到達目標を鑑み、評価方法について再確認し現状維持できるよう依頼した。その結果、学科全体の成績分布は一定のバランスがとれているとともに、不可や無資格の学生が少ない結果となった。受講生の少ない科目は、2022年度と同様に可能な範囲での時間割の見直しや、年度初めのオリエンテーションで学生に対して科目の説明を行ったが受講者の増加には至らなかった。新カリキュラムで科目の再編や授業内容等の変更を行っていることから新カリキュラムへの移行が完了する2025年度まで継続的に確認していくこととした。

②学修上課題がある学生や精神面での支援が必要な学生のために、アドバイザー制度やメンター制度を活用し、学生への対応を行った。留年生は昨年度とほぼ同数であり、理由が留学や養護教諭への進路変更に伴う科目履修、健康上の理由が多く、不本意な理由によるものは1名あったことから、アドバイザー制度やメンター制度の活用がみられていると考える。しかし、留年者がいることや退学者が4年生であり進路変更などの理由もあったことから、アドバイザーやメンター制度をさらに強化し、教員が連携しながらより細やかなフォローを行っていく必要がある。また、新カリキュラム科目の中で看護職の魅力ややりがいなどを1年次の早い段階から見出せるよう時間割を変更したことや科目の内容についても見直したことから、新カリキュラム導入学年である1年生の留年・退学状況も継続的に確認していくこととする。資格試験では、進路・生活支援部会が中心に支援を行い、成績低迷の学生への支援体制を整えた。しかし、支援に参加しない学生や支援対象外の学生が、看護師国家試験が不合格となったため、早期より学生への意識づけを行うとともに、学修支援が必要な学生についてはアドバイザーと進路・生活支援部会が情報共有しながら早期より支援を行っていく必要がある。保健師国家試験では、担当教員がきめ細やかな支援を行ったことが、100%の合格率に繋がった。

3. 今回の課題と対応プラン

①成績評価の方法については、少人数ではあるが、一部学生に十分な理解を得られていない可能性があることから引き続き、シラバスへの評価方法についての詳細な記載と授業時の説明に加え、新年度オリエンテーションでの内容や方法を見直し、学生にわかりやすいよう丁寧な説明を行う。成績分布では、大きな問題は認められなかったため、今後も各担当教員に対してシラバス作成時に科目の特性や目的、到達目標を踏まえ評価方法を再検討し、現状維持できるよう依頼していく。S評価が0人であった科目は、経年的な状況を確認し、同様の状況が続く場合は、授業内容と成績評価の整合性等について検討するよう依頼していく。受講生の少ない科目については、6科目が3年間連続して同様の傾向が続いている。科目内容としては時代のニーズに即しており、看護職を目指す学生が学修することによって得られる視点も大きいことから、引き続き学生への科目概要の説明を行う事が必要である。また、2022年度からの新カリキュラムにおいては、必修

科目の単位数や卒業要件単位数を見直し、学生が科目を選択しやすい状況に整えたことと、科目内容や時間割の調整を順次行っていることなどから、新カリキュラムへ完全移行する 2025 年度までは上記対策を引き続き行いながら、受講者数の推移を見て科目の必要性等の検討を行っていくこととする。

②留年生や退学者で進路検討や進路変更などの学生が複数いた。進路変更は学生にとって必ずしも悪い選択肢となるわけではないが、学修上の課題や精神的な問題による不本意な留年や退学とならないよう、アドバイザー制度やメンター制度をより充実させ、教務部会や進路・生活支援部会などとも連携しながら、支援が必要な学生には早期より対応できるよう関わっていく必要がある。また、D P アンケートの自由回答の中に、国家試験対策に関する記載もあったことから、進路・生活支援部会やアドバイザーを中心に、早い段階から学修環境を整え、看護学部全体で支援していく必要がある。

4. D P 達成状況のまとめ

以上、本学位についてD Pは4年間を通して看護の専門職者として必要な能力を身につけ卒業していることから、概ね順調であると言える。しかし、退学者や留年者が一定数いることなどから、学部全体として学修環境を充実させ、支援が必要な学生には、アドバイザー、メンター教員、教務部会、進路・生活支援部会を中心となり、体制を整え関わる必要がある。2022 年度より新カリキュラム導入開始となったため、看護学部が掲げる看護専門職者の育成に過不足はないか、教育内容や方法を点検し、必要に応じて調整していく必要がある。

V. 教育の質の向上及び改善の取組

1.FD 活動（学部・研究科）

	テーマ	日時	参加人数
第1回FDセミナー	大学改革セミナー	令和5年12月20日（水）	68人
第2回FDセミナー	Eラーニング講習会	令和6年2月27日（火）	34人
第3回FDセミナー	アクティブラーニング研修会	令和6年3月4日（月）	51人
第4回FDセミナー	GPS-Academic 報告会	令和6年3月6日（水）	46人
第5回FDセミナー	「DXワーキング」（看護学部対象）	令和6年3月14日（木）	22人

2. 教員個人業績評価結果

(1) 趣旨

各教員が自己の一年の活動を再確認し、教育・研究・社会貢献・管理運営活動への貢献を高めること、並びに本学の教育・研究活動等の活性化を通じた本学の使命の高揚を図ること。

(2) 評価の対象分野・ウエイト等

対象分野は、①教育、②研究、③社会貢献及び④管理運営とする。対象分野ごとのウエイトは、①教育（60%以上）、②研究（10%～30%）、③社会貢献（5%～10%）、④管理運営（5%～25%）とし、各教員は、4分野を合計して100%とするウエイト申告（個人業績評価申告書・様式01）をするものとする。その場合のウエイトは、5%単位とする。

(3) 教員個人業績評価

5段階の「評価基準」

A	B	C	D	E
100～91	90～76	75～51	50～31	30以下

評価結果

評価区分	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
A	1	1	9	1	0	1
B	87	87	82	81	85	83
C	7	7	2	10	11	7
D						
E	1	2	1			

3. 授業評価アンケート

学部

これは、令和5（2023）年度に福岡県立大学で開講された授業について学生による授業アンケートの結果である。人間社会学部と看護学部において開講された授業評価を明らかにするとともに、教員の授業改善に役立てることを目的とした。前期科目は2023年6月・8月、後期科目は2023年11月・2024年2月に実施した。のべ15,674名分を回収した結果である。

	質問項目	評価（平均）
1	この授業は、あなたの知的好奇心や学習意欲を高める授業ですか。	3.6
2	あなたは、この授業へ積極的に取り組んでいますか。	3.6
3	担当教員とのコミュニケーションは取りやすいですか。	3.5
4	この授業は、授業到達目標が達成できる学習効果の高い授業ですか。	3.6
5	この授業は、現段階で総合的に満足できるものですか。	3.6
6	この授業は、アクティブラーニングを活用した授業ですか。	3.3
7	あなたは、この授業に関して1週間に平均してどのくらいの時間学習を行っていますか。	3.6

評価は1, 2, 3, 4からなる4段階

大学院

これは、令和5（2023）年度に福岡県立大学大学院で開講された授業について大学院生による授業評価の結果である。下記の項目別の実数は、高い、普通、低いの3段階で、普通以上と回答した人数である。全回答者数は27人であった。なお、パーセンテージ算定上無回答者は母数から除いている。

質問項目	質問内容	5年度	
		実数	%
大学院のカリキュラム	履修して良かったと思う科目 (多い 普通 少ない 無回答)	28	100
シラバス (履修の手引き)	① シラバスは授業選択や学習の参考になったか (なった ややなった ならなかった 無回答)	28	100
	② 成績評価基準が明確に示されていたか (いる どちらともいえない 示されていない)	27	96
授業（講義・演習）	① 授業方法の満足度 (高い 普通 低い)	28	100
	② 授業内での配布資料に関する満足度 (高い 普通 低い)	28	100
	③ 授業課題に対する満足度 (高い 普通 低い)	27	96
	④ 授業内での対話・議論に関する満足度 (高い 普通 低い)	28	100
	⑤ 授業内容の満足度 (高い 普通 低い 無回答)	28	100
実習 (選択者のみ回答)	① 実習時期・期間の満足度 (高い 普通 低い)	18	95
	② 実習前の指導への満足度 (高い 普通 低い)	18	95
	③ 実習指導・支援体制の満足度 (高い 普通 低い)	19	100
	④ 実習後の指導への満足度 (高い 普通 低い)	19	100

	⑤ 実習評価方法の満足度 (高い 普通 低い)	19	100
修士論文作成・研究	① 指導体制の満足度 (高い 普通 低い)	27	100
	② 指導方法・内容の満足度 (高い 普通 低い)	27	100
	③ 研究計画発表会での助言への満足度 (高い 普通 低い)	24	96
大学院の雰囲気	① 入学前後でのイメージの違い	13	46
	② 院生間のつながり (同学年・上下の学年)	28	100
総合評価	満足度 (高い 普通 低い)	29	94

4. 卒業時学修到達度調査

1. 全学共通科目（教養科目・基礎科目）での学びについて

質問内容	回答選択肢	人間社会学部			看護学部
		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
問1-1. 入学時に比べて、今後の社会人生活に役立つ知識やスキルを身につけることができた。	そう思う	19 (46.3%)	16 (59.3%)	11 (64.7%)	17 (65.4%)
	ややそう思う	18 (43.9%)	10 (37.0%)	5 (29.4%)	6 (23.1%)
	どちらともいえない	2 (4.9%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)
	あまりそう思わない	2 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	1 (3.8%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	41 (100.0%)	27 (100.0%)	17 (100.0%)	26 (100.0%)
問1-2. 入学時に比べて、社会の諸問題についての必要な情報を収集、分析、表現する力を身につけることができた。	そう思う	18 (43.9%)	16 (59.3%)	11 (64.7%)	17 (65.4%)
	ややそう思う	19 (46.3%)	10 (37.0%)	5 (29.4%)	5 (19.2%)
	どちらともいえない	2 (4.9%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	3 (11.5%)
	あまりそう思わない	2 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	1 (3.8%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	41 (100.0%)	27 (100.0%)	17 (100.0%)	26 (100.0%)
問1-3. 入学時に比べて、異なる文化や価値観を尊重しながら他者と共に生きていく姿勢を身につけることができた。	そう思う	19 (46.3%)	15 (55.6%)	10 (58.8%)	17 (65.4%)
	ややそう思う	19 (46.3%)	11 (40.7%)	6 (35.3%)	5 (19.2%)
	どちらともいえない	2 (4.9%)	1 (3.7%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)
	あまりそう思わない	1 (2.4%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	2 (7.7%)
	そう思わない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	計	41 (100.0%)	27 (100.0%)	17 (100.0%)	26 (100.0%)

2. 学科の専門教育での学びにおいて

人間社会学部公共社会学科

質問内容	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	計
問2-1. 社会学を中心とする社会科学の専門知識が身についた。	19 (46%)	19 (46%)	0 (0%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-2. 異なる文化や価値観を、客観的に理解できるようになった。	23 (56%)	18 (44%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-3. 地域課題や社会問題を、その歴史的背景や現状の多様性をふまえて理解できるようになった。	20 (49%)	20 (49%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-4. 人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識が身についた。	20 (49%)	19 (46%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-5. 物事について、根拠をふまえて意見する力がついた。	18 (44%)	19 (46%)	4 (10%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-6. 物事について、公共性の観点をふまえて考えることができるようになった。	21 (51%)	17 (41%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	1 (2%)	41 (100%)
問2-7. 自分の考え・気持ちを、他者に伝わるよう適切に説明できるようになった。	14 (34%)	22 (54%)	3 (7%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-8. 地域課題や社会問題の背景を論理的に説明し、それへの対応策を説明できるようになった。	14 (34%)	20 (49%)	5 (12%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-9. 目標に向けて自分で考え、主体的に活動できるようになった。	17 (41%)	19 (46%)	2 (5%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-10. 様々な地域課題や社会問題、または異なる文化・価値観に対して関心をもつようになった。	23 (56%)	17 (41%)	1 (2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-11. 地域課題、または社会問題に対して、自ら何か働きかけたと思うようになった。	15 (37%)	20 (49%)	4 (10%)	1 (2%)	1 (2%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-12. 資料やデータを収集する技法が身についた。	22 (54%)	12 (29%)	4 (10%)	3 (7%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)
問2-13. 調査研究を行う際に、適切な方法により分析することができるようになった。	18 (44%)	20 (49%)	1 (2%)	2 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	41 (100%)

人間社会学部社会福祉学科

質問内容	そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	計
問2-1. 社会福祉の原点となる人間の自由と尊厳、人権、社会正義に関する知識が増えた。	20 (74%)	7 (26%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-2. 社会学や心理学などの人間と社会に関する隣接諸科学の知識が増えた。	18 (67%)	8 (30%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-3. 社会福祉学科専門科目の講義をとおして、社会保障・社会福祉の制度・政策およびソーシャルワークに関する専門知識を理解することができた。	16 (59%)	10 (37%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-4. 社会福祉学科専門科目を受講したことにより、社会福祉およびそれに関連する諸問題を文献や資料などの根拠に基づいて考察できるようになった。	13 (48%)	13 (48%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-5. ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）をとおして社会福祉に関する諸問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し分析できるようになった。	10 (37%)	17 (63%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-6. ゼミ（「社会福祉学演習」「卒業論文」）をとおして、社会福祉およびそれに関連する問題に対して自分なりの問を立て、考えを整理し、発表することに意欲的に取り組めた。	13 (48%)	12 (44%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (4%)	27 (100%)
問2-7. 「卒業論文」をとおして自らが主体的に設定した社会福祉に関わる課題について探求し、その成果を論理的に表現することができた。	12 (44%)	12 (44%)	2 (7%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-8. 各実習（相談援助実習、精神保健福祉援助実習、学校ソーシャルワーク実習）に対して、社会福祉およびそれに関連する諸問題に関心を持ちながら、意欲的な態度で取り組めた。	14 (52%)	12 (44%)	0 (0%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-9. 各実習（相談援助実習、精神保健福祉援助実習、学校ソーシャルワーク実習）を通して、基本的なソーシャルワーク・スキルを修得できた。	13 (48%)	13 (48%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)
問2-10. 卒業後もソーシャルワークの専門性を継続的に高めていこうと思っている。	16 (59%)	10 (37%)	1 (4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	27 (100%)

人間社会学部人間形成学科

質問内容	そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	計
問2-1. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理学に関する専門的知識が増えた。	15 (88%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-2. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理学における援助について理解できるようになった。	12 (71%)	4 (24%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-3. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理学に関する最近の話題（現代的課題）について自分なりに考えることができるようになった。	11 (65%)	6 (35%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-4. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理に関する諸問題に対して適切な対応プランを考えることができるようになった。	9 (53%)	6 (35%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-5. 入学時に比べて、文献を調べたり、調査・実験などを行ったりして自分の考えを適切に表現することができるようになった。	8 (47%)	7 (41%)	1 (6%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-6. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理に関する課題をみつけ、検討することができるようになった。	8 (47%)	8 (47%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-7. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理学について学んだことを社会に話かしたいと思うようになった。	11 (65%)	5 (29%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-8. 入学時に比べて、保育・幼児教育的または心理的援助の場面で倫理を意識して行動することができるようになった。	10 (59%)	6 (35%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-9. 入学時に比べて、保育・幼児教育または心理に関する諸問題を検討するための方法を身につけることができた。	9 (53%)	7 (41%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)
問2-10. 入学時に比べて、様々な立場にある人々に対する心理的または保育・幼児教育的な援助のスキルを身につけることができた。	9 (53%)	7 (41%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	17 (100%)

看護学部看護学科

質問内容	そう思う	ややそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答	計
問2-1. 看護学部での学びで、対象を支援するために必要な専門知識が身についた。	21 (80.8%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-2. 看護学部での学びで、科学的根拠に基づいて対応できる問題解決能力が身についた。	18 (69.2%)	8 (30.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-3. 看護学部での学びで、対象にあわせて、根拠に基づいた適切な看護を選択する力が身についた。	19 (73.1%)	7 (26.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-4. 看護学部での学びで、対象にあわせて、安全で適切な専門的看護技術を有している。	15 (57.7%)	10 (38.5%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-5. 看護学部での学びで、柔軟な思考を持ち、他者との違いを理解した上で、自分の意見を伝えることができるようになった。	14 (53.8%)	12 (46.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-6. 看護学部での学びで、他者に対して関心を持ち、人間関係をつくる態度が身についた。	16 (61.5%)	10 (38.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-7. 看護学部での学びで、看護の役割を自覚し、健康に関する諸問題を主体的に探究することができるようになった。	15 (57.7%)	10 (38.5%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-8. 看護学部での学びで、対象の問題を解決するために多職種と連携する意欲と態度が身についた。	16 (61.5%)	9 (34.6%)	1 (3.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)
問2-9. 看護学部での学びで、看護者として異なる価値観や文化を理解・尊重する倫理観や責任感が身についた。	17 (65.4%)	9 (34.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	26 (100.0%)

VI. 入試

1. 学部別入学者受入方針 アドミッション・ポリシー

人間社会学部

(1) 求める学生像

1. 高等学校等で履修した教科・科目について、基礎的な知識・技能を有している。
2. 情報をもとに分析する技能を身につけている。
3. 論理的に思考し、判断することができる。
4. 自らの考えを適切に表現することができる。
5. 様々な課題について主体的に取り組む姿勢がある。
6. 多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。

(2) 入学者選抜の基本方針（公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科）

人間社会学部の入学者選抜には、①一般選抜（前期日程、後期日程）、②学校推薦型選抜、③社会人特別選抜、④国外就学経験者（帰国生）特別選抜、⑤留学生特別選抜、⑥転・編入学試験があります。多様な人材を受け入れるため、複数の選抜方式を採用しています。

① 一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入学共通テストによって、高等学校等における教科・科目の学習達成度を評価します。

個別学力試験（小論文）によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

調査書によって、学力を多面的に評価します。

② 学校推薦型選抜：

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

英語試験によって、3技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。

調査書、推薦書によって、学力を多面的に評価します。

③ 社会人特別選抜：

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

英語試験によって、3技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

④ 国外就学経験者（帰国生）特別選抜、⑤ 留学生特別選抜：

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

⑥ 転・編入学試験：

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。

英語試験によって、3技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。

口頭試問によって、出願時の提出書類を参考に、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

看護学部

(1) 求める学生像

1. 高等学校等で履修した教科・科目について、基礎的な知識・技能を有している。
2. 情報をもとに分析する技能を身につけている。
3. 論理的に思考し、判断することができる。
4. 自らの考えを適切に表現することができる。
5. 様々な課題について主体的に取り組む姿勢がある。
6. 多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。

(2) 入学者選抜の基本方針

看護学部の入学者選抜には、①一般選抜（前期日程、後期日程）、②学校推薦型選抜、③社会人特別選抜、④全国児童養護施設等推薦特別選抜があります。多様な人材を受け入れるため、複数の選抜方式を採用しています。

① 一般選抜（前期日程、後期日程）

大学入学共通テストによって、高等学校等における教科・科目の学習達成度を評価します。
小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。
調査書によって、学力を多面的に評価します。

② 学校推薦型選抜

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。
英語試験によって、3 技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。
調査書、推薦書、英語の資格・検定試験により、学力を多面的に評価します。

③ 社会人特別選抜

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。
英語試験によって、3 技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。
面接及び自己推薦書によって、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

④ 全国児童養護施設等推薦特別選抜

小論文によって、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価します。
英語試験によって、3 技能（リーディング、リスニング、ライティング）を評価します。
調査書、推薦書、英語の資格・検定試験により、学力を多面的に評価します。
面接によって、志望動機・専門分野への関心及び理解力・表現力等を評価します。

2. 研究科別入学者受入方針 アドミッション・ポリシー

人間社会学研究科

(1) 求める学生像

1. 専門分野及び専門分野を学ぶための大学卒業程度の知識を有している。
2. 専門分野に関する諸問題に取り組むための大学卒業程度の技能を有している。
3. 専門分野の知識をもとに研究の見通しを立てることができる。
4. 専門分野の知識をもとに自らの考えを適切に表現することができる。
5. 専門分野における諸問題について主体的に取り組む姿勢がある。
6. 高度福祉社会の実現のために、多様性を尊重し、多様な人々と協働して取り組むことに意欲がある。

(2) 入学者選抜の基本方針

1. 大学卒業程度の基礎的能力と適性を備えた学生を選抜するために入学者選抜を行う。
2. 外国語（英語）では、専門分野を学ぶための知識を評価する。大学卒業後の経験を一定以上有する、社会福祉コースまたは心理臨床コースの受験者は、外国語（英語）の代わりに小論文での受験も可能となる場合がある。
3. 小論文では、専門分野を学ぶための知識を評価する。
4. 専門科目では、専門分野の知識、技能及び表現力を評価する。
5. 口頭試問では、専門分野の知識、思考力・判断力及び表現力、主体性及び多様性・協調性を評価する。
6. 大学卒業後の経験を一定以上有する受験者は、外国語（英語）の代わりに小論文での受験も可能とし、その場合も外国語（英語）と同様、専門分野を学ぶための知識を評価する。

看護学研究科

(1) 求める学生像

1. 看護学を研究するための基本的知識・技法を有している。

- (1) 看護学の基礎的知識を有している。
- (2) 専門分野に関心と問題意識を有している。
- (3) 専門分野の知識を基に研究の見通しを立てることができる。
- (4) 専門分野における国内外の論文の基礎的な読解力を有している。

2. 専門知識・技法を用いて、主体的に課題を解決し社会に貢献できる資質を有している。

- (1) 看護学に関する未知の課題を主体的に解決できる資質を有している。
- (2) 専門性を高め、社会に貢献したいという熱意と意欲を有している。

3. 学習を深めるための基礎的能力を有している。

- (1) 学習を深めるために必要な基礎的教養（学力）を有している。
- (2) 課題解決に必要な柔軟な発想と思考を備えディスカッションを深めることができる。
- (3) 専門知識を用いて自分の考えを論理的に説明できる。

(2) 入学者選抜の基本方針

- ・ 大学卒業程度の基礎的能力と適性を備えた学生を選抜するために入学者選抜を行う。
- ・ 面接では、専門分野を学ぶための知識、思考力・判断力及び表現力、主体性及び多様性・協調性を評価する。

3. 入学者選抜方法

(1) 学部別入学試験種別と試験科目

人間社会学部

○学校推薦型選抜概要

区 分		学校推薦型選抜	
募集人員	公共社会学科	10人(うち県内枠 6人、全国枠4人)	
	社会福祉学科	15人(うち県内枠10人、全国枠5人)	
	人間形成学科	15人(うち県内枠10人、全国枠5人)	
試験科目	試験科目等	小論文	200点
		英語(リスニング含む)	200点
		調査書	30点(全体の学習成績の状況) 10点(その他の記載事項)
		推薦書	10点
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着	
試験日		令和6年11月23日(土)	
合格発表		令和6年12月10日(火)	

○一般選抜概要

区 分		前期日程	後期日程
募集人員	公共社会学科	30人	10人
	社会福祉学科	25人	10人
	人間形成学科	25人	10人
試験科目	大学入学共通テスト	国語 数学(※1) 地理歴史、公民(※2)から1科目 "	前・後期200点 前・後期100点 前期100点 後期100点(社会福祉学科、人間形成学科)
		地理歴史、公民(※2)及び情報から1科目 外国語(「英語」リスニングを含む)	後期100点(公共社会学科) 200点(リーディング100点、リスニング100点)
	個別学力試験等	小論文 200点 調査書 10点(全体の学習成績の状況) 5点(その他の記載事項)	
出願期間		令和7年1月27日(月)～令和7年2月5日(水)消印有効	
試験日		令和7年2月25日(火)	令和7年3月12日(水)
合格発表		令和7年3月7日(金)	令和6年3月21日(金)

※1 『数学Ⅰ、数学Ⅱ』『数学Ⅲ、数学Ⅳ、数学Ⅴ』のいずれかを選択(※3)

※2 『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合／歴史総合／公共』(※3)

※3 新教育課程履修者以外の者は以下の科目も選択可能(詳細は入試要項参照)

数学：『旧数学Ⅰ・旧数学Ⅱ』『旧数学Ⅲ・旧数学Ⅳ』

地理歴史、公民：『旧世界史Ⅰ』『旧世界史Ⅱ』『旧日本史Ⅰ』『旧日本史Ⅱ』『旧地理Ⅰ』『旧地理Ⅱ』『旧現代社会』『旧倫理』『旧政治・経済』『旧倫理、旧政治・経済』

○社会人特別選抜概要

区 分		社会人	
募集人員	公共社会学科	若干名	
	社会福祉学科		
	人間形成学科		
試験科目	個別学力試験	小論文	200点
		英語(リスニング含む)	100点
		口頭試問	100点
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着	
試験日		令和6年11月23日(土)	
合格発表		令和6年12月10日(火)	

○国外就学経験者（帰国生）特別選抜概要

区 分		国外就学経験者(帰国生)
募集人員	公共社会学科	若干名
	社会福祉学科	
	人間形成学科	
試験科目	個別学力試験	小論文 200点 口頭試問 100点
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着
試験日		令和6年11月23日(土)
合格発表		令和6年12月10日(火)

○留学生特別選抜概要

区 分		留学生
募集人員	公共社会学科	若干名
	社会福祉学科	
	人間形成学科	
試験科目	個別学力試験	小論文 200点 口頭試問 100点
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着
試験日		令和6年11月23日(土)
合格発表		令和6年12月10日(火)

○転・編入試験概要

区 分		転・編入学	転・編入年次
募集人員	公共社会学科	若干名	第3年次
	社会福祉学科		
	人間形成学科		
試験科目	個別学力試験	小論文 200点 英語(リスニング含む) 200点 口頭試問 100点	
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着	
試験日		令和6年11月23日(土)	
合格発表		令和6年12月10日(火)	

看護学部

○学校推薦型選抜概要

区 分		学校推薦型選抜
募集人員	看護学部看護学科	30人(うち県内枠20人、全国枠10人)
試験科目	試験科目等	小論文 200点
		英語(リスニング含む) 200点
		調査書 30点(全体の学習成績の状況) 10点(その他の記載事項)
		推薦書 10点
		英語の資格・検定試験 5点(英語力国際指標 CEFR の定める B1レベル以上)
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着
試験日		令和6年11月23日(土)
合格発表		令和6年12月10日(火)

○一般選抜概要

区分		前期日程	後期日程
募集人員	看護学部看護学科	50人	10人
試験科目	大学入学共通テスト	国語 数学(※1) 理科(※2) 外国語(「英語」リスニングを含む)	前・後期100点 前・後期100点 前・後期100点 前・後期200点(リーディング100点、リスニング100点)
	個別学力試験等	小論文 200点 調査書 10点(全体の学習成績の状況) 5点(その他の記載事項)	
出願期間		令和7年1月27日(月)～令和7年2月5日(水)消印有効	
試験日		令和7年2月25日(火)	令和7年2月25日(火)
合格発表		令和7年3月7日(金)	令和7年3月7日(金)

※1『数学Ⅰ, 数学A』『数学Ⅱ, 数学B, 数学C』のいずれかを選択(※3)

※2『物理基礎/化学基礎/生物基礎』『物理』『化学』『生物』から1科目を選択

※3 新教育課程履修者以外の者は『旧数学Ⅰ・旧数学A』『旧数学Ⅱ・旧数学B』も選択可能

○社会人特別選抜概要

区分		社会人
募集人員	看護学部看護学科	若干名
試験科目	個別学力試験	小論文 200点
		英語(リスニング含む) 100点
		面接 50点
		自己推薦書 10点
出願期間		令和6年11月1日(金)～令和6年11月11日(月)17時必着
試験日		令和6年11月23日(土)
合格発表		令和6年12月10日(火)

○全国児童養護施設等推薦特別選抜概要

区分		全国児童養護施設等推薦特別選抜
募集人員	看護学部看護学科	若干名
試験科目	試験科目等	小論文 200点
		英語(リスニング含む) 200点
		調査書 30点(全体の学習成績の状況) 10点(その他の記載事項)
		推薦書 10点
		英語の資格・検定試験 5点(英語力国際指標 CEFR の定める B1レベル以上)
		面接 50点
		出願期間
試験日	令和6年11月23日(土)	
合格発表	令和6年12月10日(火)	

(2) 研究科別入試選抜試験種別と試験科目

人間社会学研究科

○募集要項

募集人員	人間社会学専攻	社会福祉コース 子ども教育コース 心理臨床コース	15名(注1)	
	試験科目	外国語(注2)		英語【社会福祉コース、心理臨床コース】
		小論文		研究科に関するもの【子ども教育コース】
専門科目		各コースに関するもの【全コース】		
口頭試問		あらかじめ提出した研究計画書に基づく【全コース】		
出願期間	令和6年9月9日(月)～令和6年9月17日(火)17時必着			
試験日	令和6年9月28日(土)			
合格発表	令和6年10月4日(金)			

注1 このうち、心理臨床コースの定員は6名。

注2 社会人受験者は英語の代わりに小論文を選択できる場合がある。

なお、募集人員を満たさなかったため、以下のとおり追加選抜を実施した。

募集 人員	人間 社会学	社会福祉コース	若干名
	専攻	子ども教育コース	
試験科目			小論文 : 研究科に関するもの【子ども教育コース】
			専門科目Ⅰ : コースに関するもの【社会福祉コース】
			専門科目Ⅱ : コースに関するもの【子ども教育コース】
			口頭試問 : あらかじめ提出した研究計画書に基づく【両コース】
出願期間			令和7年1月20日(月)～令和7年1月27日(月)17時必着
試験日			令和7年2月8日(土)
合格発表			令和7年2月17日(月)

看護学研究科

○募集要項

募集 人員	看護学 専攻	研究コース	12名(注1)
		助産コース	
試験科目			面接 : あらかじめ提出した自己推薦書、成績証明書に基づく
出願期間			令和6年6月17日(月)～令和6年6月24日(月)17時必着
試験日			令和6年7月6日(土)
合格発表			令和6年7月12日(金)

注1 このうち、助産コースの定員は5名。

なお、募集人員を満たさなかったため、以下のとおり追加選抜を実施した。

募集 人員	看護学 専攻	研究コース	2名
試験科目			面接 : あらかじめ提出した自己推薦書、成績証明書に基づく
出願期間			令和6年9月9日(月)～令和6年9月17日(火)17時必着
試験日			令和6年9月28日(土)
合格発表			令和6年10月4日(金)

4. 入試実績

(1) 2025 (令和7) 年度 学部入学試験状況

区分		定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)		志願倍率 (B) / (A)	実質倍率 (C) / (D)	定員充足率 (E) / (A)			
						男	女						
人間 社会 学部	学校 推薦型	県内	公共社会学科	6	12	12	6	6	5	1	2.0	2.0	1.0
			社会福祉学科	10	19	19	10	10	1	9	1.9	1.9	1.0
			人間形成学科	10	33	32	10	10	2	8	3.3	3.2	1.0
		小計	26	64	63	26	26	8	18	2.5	2.4	1.0	
		全国	公共社会学科	4	13	13	4	4	2	2	3.3	3.3	1.0
			社会福祉学科	5	12	12	5	5	0	5	2.4	2.4	1.0
			人間形成学科	5	28	28	5	5	0	5	5.6	5.6	1.0
		小計	14	53	53	14	14	2	12	3.8	3.8	1.0	
		特別	公共社会学科	若干名	1	1	0	0	0	0	—	—	—
			社会福祉学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	人間形成学科		若干名	1	1	0	0	0	0	—	—	—	
	小計		2	2	0	0	0	0	—	#DIV/0!	—		
	合計	40	119	118	40	40	10	30	3.0	3.0	1.0		
	一般 入試	前期	公共社会学科	30	69	67	47	39	15	24	2.3	1.4	1.3
			社会福祉学科	25	56	55	41	31	8	23	2.2	1.3	1.2
			人間形成学科	25	93	90	35	32	2	30	3.7	2.6	1.3
			小計	80	218	212	123	102	25	77	2.7	1.7	1.3
		後期	公共社会学科	10	82	21	10	4	1	3	8.2	2.1	0.4
			社会福祉学科	10	88	19	12	10	4	6	8.8	1.6	1.0
			人間形成学科	10	138	51	10	8	0	8	13.8	5.1	0.8
		小計	30	308	91	32	22	5	17	10.3	2.8	0.7	
		合計	110	526	303	155	124	30	94	4.8	2.0	1.1	
		社会人	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—
	社会福祉学科		若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—	
	人間形成学科		若干名	2	2	0	0	0	0	—	—	—	
	合計		2	2	0	0	0	0	—	—	—		
留学生 特別選抜	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		0	0	0	0	0	0	—	—	—			
転編入試験	公共社会学科	若干名	2	1	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	1	1	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	3	3	1	1	0	1	—	3.0	—		
合計		6	5	1	1	0	1	—	—	—			
海外修学経験者 (帰国生)	公共社会学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		0	0	0	0	0	0	—	—	—			
追試	公共社会学科	対象者	—	0	0	0	0	0	—	—	—		
	社会福祉学科	対象者	—	0	0	0	0	0	—	—	—		
	人間形成学科	対象者	—	0	0	0	0	0	—	—	—		
合計		—	0	0	0	0	0	—	—	—			
公共社会学科 計	50	179	115	67	53	23	30	3.6	1.7	1.1			
社会福祉学科 計	50	176	106	68	56	13	43	3.5	1.6	1.1			
人間形成学科 計	50	298	207	61	56	4	52	6.0	3.4	1.1			
人間社会学部 合計	150	653	428	196	165	40	125	4.4	2.2	1.1			
看護 学部	学校推薦型	県内	20	69	69	21	21	1	20	3.5	3.3	1.1	
		全国	10	54	54	12	12	0	12	5.4	4.5	1.2	
		合計	30	123	123	33	33	1	32	4.1	3.7	1.1	
	一般	前期	50	165	161	65	52	1	51	3.3	2.5	1.0	
		後期	10	121	44	11	6	0	6	12.1	4.0	0.6	
	合計	60	286	205	76	58	1	57	4.8	2.7	1.0		
	社会人	若干名	1	1	0	0	0	0	—	—	—		
	全国児童養護施設	若干名	0	0	0	0	0	0	—	—	—		
	追試	対象者	—	0	0	0	0	0	—	—	—		
	看護学部 合計	90	410	329	109	91	2	89	4.6	3.0	1.0		
両学部 合計	240	1,063	757	305	256	42	214	4.4	2.5	1.1			

(2) 2025（令和7）年度 学部出身地別入学者数

学部	人間社会学部	看護学部		人間社会学部	看護学部		人間社会学部	看護学部
北海道	2	0	石川県	0	0	岡山県	1	1
青森県	0	0	福井県	0	0	広島県	2	9
岩手県	0	0	山梨県	0	0	山口県	1	2
宮城県	0	0	長野県	0	1	徳島県	0	1
秋田県	0	0	岐阜県	0	0	香川県	1	3
山形県	0	0	静岡県	2	0	愛媛県	0	9
福島県	0	0	愛知県	0	2	高知県	0	0
茨城県	0	1	三重県	1	2	福岡県	17	104
栃木県	0	0	滋賀県	1	0	佐賀県	0	11
群馬県	0	0	京都府	1	1	長崎県	2	9
埼玉県	0	0	大阪府	0	2	熊本県	5	6
千葉県	0	1	兵庫県	1	3	大分県	2	10
東京都	0	0	奈良県	1	0	宮崎県	3	10
神奈川県	0	0	和歌山県	0	0	鹿児島県	2	16
新潟県	0	0	鳥取県	0	2	沖縄県	1	6
富山県	0	0	島根県	2	5			

(3) 2025（令和7）年度 大学院入学試験状況

区分	定員 (A)	志願者 (B)	受験者 (C)	合格者 (D)	入学者 (E)		志願倍率 (B) / (A)	実質倍率 (C) / (D)	定員充足率 (E) / (A)	
					男	女				
人間社会学研究科 人間社会学専攻	15	27	26	15	14	4	10	1.8	1.7	0.9
看護学研究科 看護学専攻	12	14	14	12	11	2	9	1.2	1.2	0.9
両研究科 合計	27	41	40	27	25	6	19	1.5	1.5	0.9

5. 入試広報

入試説明会・高校訪問・オープンキャンパス等 実績

区分	開催回数	参加人数	場所
高校訪問	35	982	香椎高校、田川高校、香住丘高校ほか
入試説明会	19	279	エルガーラホール、ソラリア西鉄ホテルほか
オープンキャンパス	1	1,996	本学（対面、Web）
出前講義	13	437	新宮高校、嘉徳高校ほか
高校訪問（来学）	3	86	光陵高校、舞鶴高校、田川高校
出前講義（来学）	1	41	下関南高校
意見交換会	0	0	
合計	72	3,821	

Ⅶ. 学生支援

1. 学生に対する経済面の援助

(1) 奨学金受給実績

	在学生数 (A)	学内制度		学外制度						合計 (B)	受給学生の 割合 (%) (B) / (A)		
		和田奨学 基金	真島・市場 特別奨学金	日本学生 支援機構 (給付)	日本学生 支援機構 (第1種)	日本学生 支援機構 (後払い)	日本学生 支援機構 (第2種)	福岡県 教育文化 奨学財団	その他 各自治体 奨学金			その他	
学部生	1,043	2	0	190	317		202				10	721	69.1%
大学院生	56				8	1					1	2	21.4%
合計	1,099	2	0	190	325	1	202	0		1	12	733	66.7%

(2) 授業料減免実績

区分		申請者数 (A)	基準該当者数	免除者数 (B)	割合 (%) (B) / (A)
前期	全額免除	196	89	89	45.4%
	2/3免除		45	45	23.0%
	1/3免除		25	25	12.8%
	1/4免除		11	11	5.6%
	半額免除		2	2	1.0%
後期	全額免除	195	86	86	44.1%
	2/3免除		41	41	21.0%
	1/3免除		26	26	13.3%
	1/4免除		12	12	6.2%
	半額免除		2	2	1.0%

(3) 授業料分割納付実績

区分	学部生	大学院生	合計
前期	19	1	20
後期	16	1	17

(4) 学生寮の整備状況及び利用実績

(令和6年5月1日現在)

区分	定員	利用者数	形態	使用料	雑費	共益費 (入寮時)	入寮期間
すずかけ寮	60	24 人	2 人部屋	4,300 円	11,700 円	30,000 円	原則 2 年
アザレア寮	99	92 人	個室	11,000 円	7,000 円	30,000 円	原則 1 年
男子寮	12	9 人	個室	5,300円～7,000円	8,000 円	30,000 円	原則 1 年

2. 学生に対する生活支援（生活、健康、就職等進路、各種ハラスメント等）

(1) 保健室利用実績

処置内容	件数	処置内容	件数
与薬	25	血圧測定	45
外科的応急処置	54	検尿	28
整形外科的応急処置	27	医療機関紹介	13
ベッド休養	109	病院移送	3
身体計測	59	学生相談紹介	22
アルコールパッチテスト	31	その他	167
合計	583	件	

(2) 学生相談室利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用回数	35	53	51	55	22	32	44	39	45	43	25	28	472

(3) GPA に基づいた学習支援対象者数

学部	前期	後期	合計
公共社会学科	36	36	72
社会福祉学科	25	15	40
人間形成学科	28	23	51
看護学科	15	22	48
合計	104	96	200

(4) 課外・サークル活動概要

ボランティア系：8

サークル名	活動概要	部員数
湯山荘ボランティアサークル	児童養護施設「湯山荘」において、小学5・6年生対象の学習ボランティアや3～8歳くらいまでの幼児さんたちと一緒に遊ぶ活動を行っています。	20
つくしんぼ（障がい児ボランティアサークル）	障害を持つ子供たちを大学に招いてゲームを楽しむ余暇支援活動を行っています。その他にも、地域の施設で開催される行事に参加しサポートするなど、様々な活動を行っています。	11
手話サークル ハンドポスト	手話啓発活動サークルです。聴覚障害のある方とのコミュニケーションを図ったり、イベントで『手話コース』を披露したりしています。	24
けんけつっち（献血推進サークル）	月に一度、所属している北九州ブロックの大学が集まり、赤十字社で定例会を行っています。そこで今後の方針を決め、夏・冬に行う街頭献血、学内献血、5月の博多どんたくに参加します。夏前には、県内所属大学全員で合宿を行い、若年層に向けて献血啓発活動を行っていくうえでの目標や知識を深めます。	45
福岡県立大学BBS	非行傾向にある子どもたちと関わりを持ち、一緒に活動しているボランティアサークルです。主な活動として、NPO法人「田川ふれ愛塾」への訪問ボランティアを行っています。	37
Sun Sun	病児とその家族への支援として、学習支援やイベントの計画・運営などを行っています。	18
福岡県立大学消防防災サークル	みんなで楽しく消防防災について学ぶサークルです。	12
まちづくりサークル たが輪	地域活動やボランティア、情報発信を行い、様々な人と連携しながら大学と田川の地域をより良くしていきます。	3

体育会系：17

サークル名	活 動 概 要	部員数
男子バスケットボール部	体育館における練習では、基本的な練習メニューから、試合に向けた応用練習まで、キャプテンを中心に皆で丸となって楽しく活動しています。また、地域の試合にも積極的に参加し、多くの方々と交流させてもらっています。	10
女子バスケットボール部	毎週火曜日の練習に加え、公式戦や練習試合などもあり、真面目に楽しく練習しています。	18
硬式テニス部	週4回、13時からヤル気のある部員たちが笑顔でコートを駆け回っています。 ”仲の良いサークルトップ5”には確実にランクインすると思います！	27
ソフトテニスサークル	週4回テニスコートで活動を行っています。	8
男子サッカー部	水曜・土曜の週2度の練習、練習試合、インカレやリーグ戦への出場に向けて頑張っています。笑いの絶えない、先輩・後輩の仲が良いサークルです。	30
女子サッカー部	毎週火曜日、週1回のペースで県立大学のグラウンドを利用して練習しています。初心者から経験者までいますが、初心者に合わせて練習を行い、楽しくサッカーの技術を身に付けて貰うことをモットーとしています。女子サッカー部は本当に個性豊かでみんな仲良く、楽しいサークルです。	9
男子バレーボール部	週3回（月・水・金）、充実した練習を行い、インカレやリーグ戦にも参加しています。	13
女子バレーボール部	毎週月・水・金曜日に体育館で活動しています。練習時間は4時間を男子バレー部と半分ずつ使ってやっています。初心者から経験者一緒に楽しくそして真剣に活動しています。	43
硬式野球部	キャッチボール、バッティング、ノック、ティー、ベーラン… リーグ戦に向け、一生懸命練習に取り組んでいます！	29
軟式野球部	男女問わず野球が好きの人が集まっているので、みんな仲良く、笑顔の絶えないサークルです。	27
バドミントン部	素敵な先輩・後輩に恵まれた素晴らしいサークルです。練習は基礎打ち、ノック、試合で互いのプレーを高めあっています。経験者も未経験者も関係なく、全員が楽しめるような雰囲気づくりに努めていきます。	50
フットサルサークル 英彦山FC	週に2回、初心者・経験者関係なく、楽しく大人気でフットサルをしています。	25
卓球サークル	卓球を通して、体力の向上、男女・学年・学科の隔てなく楽しく活動する。あいさつ、マナー、言葉遣いなど社会に出て通用する人格・習慣を身に付ける。学業・生活の悩みをみんなで解決し合う。	20
陸上部	みんな楽しく走ります！！	40
護身空手部	いざという時のために、実践的な護身に役立つ武道空手の技を修練しています。	7
剣道部	初心者から経験者まで幅広く、楽しみながらをモットーに活動をしています。	9
弓道サークル	ゴム弓、巻藁、立射、座射、審査の練習、筋トレ	5

文化系：17

サークル名	活 動 概 要	部員数
茶道部	お茶のお稽古（表千家）と着付けのお稽古を中心に毎週活動をしています。秋の大学祭では、外部のお客さまを呼んでお茶会を開きます。その他にも初釜や七夕茶会など、内輪で楽しむイベントも行っていますよ。茶道の免許を取ることもできます。お茶を始めてみませんか？初心者の方も大歓迎です。	9
文芸部	毎年大学祭で配布する『部誌』を完成させるために日々活動しています。週に1度、部員を集めて、持ち寄った創作物語を読み合っています。経験者も未経験者も気軽に入部できるサークルです。	18
二次研	アニメや漫画等を通して自由に話し合うサークルです。	16
aimit	週に1度、みんな集まって各個人でイラストを描いています。お互いにアドバイスし合い、画力の向上に努めています。和気あいあいとした雰囲気です。秋興祭では、自分たちのイラストを展示し、部誌の製作、配布を行っています。	23
ジャズ研	大学祭のステージ、新歓ライブ、クリスマスコンサートを通して、日頃の練習の成果を聴いて貰っています。Jazzは難しいジャンルですが奥が深く、たくさんの魅力があり、初心者から始めた人も楽しく活動しています。	12
軽音楽サークル 「万屋」	月に1回程度ライブしてます！イベントなどの音響手伝いもしてます！みなさん、ライブに遊びに来て下さい！	66
福岡県立大学吹奏楽団	毎週月・水・金曜日に音楽室にて練習しています。病院や小学校への慰問演奏や自主開催の演奏会、吹奏楽連盟主催の演奏会へ参加しています。団員の数も増え、活動の機会も広がってきたので、大学の広報も一環としても活動できたらと思います。	8
HIP HOP ダンスサークル	サークル内で各自チームを組み、ダンスイベントへの参加、大学祭のステージ参加をしています。毎週火・木に体育館2階のダンスフロアでイベントやショーに向け、練習しています。いつも元気に楽しく練習しているので、笑いの絶えないサークルです。	39
魔法のさんぼみち	月に1回活動する家庭科サークルです。ケーキ作りや雑貨作りなどを行っています。	11
写真部	学校周辺で写真を撮ったり休日に遠出をして撮影会を行ったりします。大学祭では写真展示をしています。	26
和太鼓サークル カットン	毎週火曜日に金曜日に集まって打ち方を教え合ったり、基礎打ちを練習したり、グループに分かれて曲を作ったりして活動します。和太鼓を通して、コミュニケーションと表現力を養います。	15
ジャグリングサークル	ボールジャグリングやバランス芸、シガーボックスなどでさまざまな道具に挑戦し技を習得します。秋興祭などで人にジャグリングを披露することを目標として日々練習していきます。ジャグリングサークルに入れば人をあっと驚かせる特技を習得できます。	4
笑好会	賞レース、学生演芸会等の出場、校内ライブ	2
エンタメサークル	歌を歌ったり、クイズ大会をしたりします。	4
ボードゲームサークル	ボードゲームを通して交流を深めます。	7
e-sportsサークル	毎週火曜日に金曜日に集まって、e-sportsをします。	7
福岡県立大学国際交流サークル	県大生と留学生の国際交流イベントを企画・運営しています。	1

(5) キャリア相談室利用人数実績

	人間社会学部	看護学部	合計
1年生	19	0	19
2年生	12	4	16
3年生	245	58	303
4年生	388	358	746
院生	1	12	13
既卒	0	0	0
合計	665	432	1,097

(6) プレ・インターンシップ

表1 インターンシップの実績

	プレ・インターンシップ	中長期・実践型 インターンシップ
学生数(実数)	13	0
受入企業(実数)	7	0

表2 研修会、報告会等の実績

研修会等	回数
プレ・インターンシップチラシ配布（入学式資料）	1
履修前ガイダンス	1
プレ・インターンシップ説明会	1
事前研修①：受入先のリサーチ 方法の指導と実践	1
事前研修②-1：自己能力チェックシートの作成、自己紹介書の作成指導と実践	1
事前研修②-2：自己紹介書添削	13
事前研修③：マナー研修1（敬語・書類送付・その他）	1
事前研修④：電話対応練習、電話入れ訪問アポイント取り、自己紹介実践と指導（先輩学生によるお話）	1
事前研修⑤：体験先事前訪問（各体験先にて 対面・リモート）	1
事前研修⑥：受入先へのインタビュー取材と報告	1
事前研修⑦：直前指導（先輩学生によるお話、質疑応答）	1
プレ・インターンシップ体験（1人5日間、13名現場体験）	65
受入先ヒアリング（中間）	7
事後研修①：体験報告書作成、スキルチェックシート作成	1
事後研修②：全体での振り返り、スキルチェック事前事後比較ディスカッション	1
3ヶ月後の振り返り	1
受入先ヒアリング、要望確認	7

表3 報告書等成果物について

成果物	発行数
マイキャリアハンドブック（インターンシップテキスト）電子版（改訂版）	1

(7) インターンシップ参加者数及び派遣企業・団体数

	参加者数	派遣企業・団体数	派遣先
H30年度	20	18	田川市役所、飯塚市役所など
H31年度	54	38	田川市役所、飯塚市役所など
R2年度	34	19	田川市役所、飯塚市役所など
R3年度	8	7	田川市役所、飯塚市役所など
R4年度	36	21	田川市役所、飯塚市役所など
R5年度	37	22	田川市役所、飯塚市役所など
R6年度	66	26	田川市役所、飯塚市役所など

(8) 支援を必要とする学生数

	人間社会学部	看護学部	人間社会学研究科	看護学研究科
障がいのある学生	29	3	0	0
留学生	0	0	0	0
社会人学生	0	0	21	7
合計	29	3	21	7

(9) 留学生ビジット状況

ホームビジット先	留学生の出身大学	人数	ホームビジット期間
個人宅（田川市）	威徳大学校・三育大学校・南京師範大学	5	2023年12月30日

(10) 留学生支援事業実施状況

実施日	行き先	事業内容
令和5年6月3日	田川市・飯塚市	ひよこ本舗吉野堂徳波工場と田川市石炭・歴史博物館見学、三井寺訪問
令和5年7月22日	北九州市	いのちのたび博物館、イオンモール八幡東、海響館見学
令和5年10月28日	朝倉市・東峰村	梨狩り、陶芸体験

(11) 社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験の受験対策実施状況

受験対策内容	回数	参加人数 (対面)	参加人数 (オンデマンド)
先輩との交流会	2	73	—
模試	2	74	—
受験対策講座	30	—	46

(12) 看護師・保健師国家試験の受験対策実施状況

受験対策内容	回数	参加延人数
補講	看護師6、保健師1	看護師390、保健師1
模試	看護師10、保健師5	看護師755、保健師75

(13) 公務員講座実施状況

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
授業回数	70回/110回	70回/110回	70回/110回	70回/110回	-/110回	-/110回	-/148回
登録者人数	41名/10名	27名/20名	28名/15名	17名/17名	-/12名	-/18名	-/20名

※R3年度までは対策<基礎>講座と対策講座の2コースを実施(対策<基礎>講座/対策講座)

※R4年度以降は対策講座のみを実施

(14) 就職対策講座実施状況

	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
回数	12回	5回	10回	34回	27回	35回	28回
参加者数	371名	105名	96名	812名	434名	679名	973名

VIII. 施設・設備

1. 講義室等の設置状況

区分	講義室	演習室	実験実習室	情報処理 学習施設	語学学習 施設	研究室	会議室	事務室	学長室
1号館	7	1	5			33		2	
2号館	1					1		0	
3号館	7	7	3	2	1	13	1	1	
4号館	2		5	1		17	1	1	
5号館	9	11	4			27	1	1	
その他	1					6	2	5	1
計	27	19	17	3	1	97	5	10	1

2. 施設・設備のバリアフリー化状況

	スロープ	階上階用 エレベーター	多目的トイレ	点字ブロック
1号館	設置	設置	4ヶ所	
2号館	設置			
3号館	設置	設置	2ヶ所	
4号館	設置	設置	4ヶ所	
5号館	設置	設置	4ヶ所	
管理棟・講堂・大講義室	設置	設置	5ヶ所	設置
図書館	設置	設置	2ヶ所	設置
体育館・プール	設置		1ヶ所	
福利厚生棟	設置		1ヶ所	
附属研究所	設置	設置	1ヶ所	
心理学実験棟				

3. 自主的な学習活動が可能な施設

施設一覧	
・ 1号館1階 自習室	・ 図書館（本館・分館（4号館1階））
・ 1号館1階 国家試験対策室（3室）	・ 3号館2階3211自習室
・ 5号館2階 自習室（4室）	

4. 自習室利用状況

時間帯	H31年度		R2年度		R3年度				
	8:45~17:00	17:00~21:00	8:45~17:00	17:00~21:00	~8:30	8:30~17:00	17:00~21:00		
年間延べ人数	563	304	808	179	524	1,674	190		
時間帯	R4年度			R5年度			R6年度		
	~8:30	8:30~17:00	17:00~21:00	~8:30	8:30~17:00	17:00~21:00	~8:30	8:30~17:00	17:00~21:00
年間延べ人数	451	1,548	211	300	1,490	367	544	1,628	436

5. ICT 環境（情報処理センター）

(1) 情報処理学習施設

区分	パソコン台数	利用曜日	時間
情報処理教室 1	74	月～金	8：30～20：00
情報処理教室 2	56	月～金	8：30～20：00
情報処理教室 3	16	月～金	8：30～18：00
附属図書館	40	月～土	8：45～20：00（月～金） 8：45～17：00（土）

(2) 無線 LAN アクセスポイント

建物設置箇所	建物設置箇所
1号館	1階 2箇所（キャンパススクール、学生談話室）
	2階 2箇所（公共社会学科学生研究室、1222 講義室）
	3階 6箇所（心理臨床大学院生研究室、研究室（2 部屋）、1314 講義室、1317 講義室、1318 講義室）
	4階 1箇所（1410 栄養実習室）
2号館	1階 1箇所（2101 講義室）
	2階 1箇所（ピアノ練習室前）
3号館	1階 5箇所（3102 演習室、3104 演習室、3107 非常勤講師室、3109 講義室、キャリアサポートセンター）
	2階 6箇所（3202 講義室、3203 講義室、3204 講義室、3207 講義室、3212 講義室、3211 自習室）
	3階 4箇所（3317（LL 教室）、3319 講義室、廊下 2 箇所）
	1階 2箇所（図書室）
4号館	2階 2箇所（4201 講義室、4202 講義室）
	3階 2箇所（4302（学生実験室）、廊下）
	4階 3箇所（会議室、廊下 2 箇所）
5号館	1階 2箇所（5101 講義室、5106 講義室）
	2階 4箇所（廊下）
	3階 4箇所（5301 実習室Ⅳ、5302 実習室Ⅲ、5303 実習室Ⅱ、5304 実習室Ⅰ）
	4階 5箇所（小会議室、廊下 4 箇所）
講堂管理棟	1階 2箇所（大講義室、廊下）
	2階 1箇所（廊下）
心理学実験棟	1階 1箇所（待合室）
附属図書館	1階 2箇所（自習室、閉架書庫）
	2階 2箇所（閲覧室、AV コーナー）
	3階 2箇所（閲覧室、総合資料研究室兼同和・人権資料室）
附属研究所	1階 2箇所（大セミナー室、廊下）
	2階 2箇所（廊下 2 箇所）
福利厚生棟	1階 2箇所（食堂）

6. 図書館

(1) 施設・職員・開館時間・開館日数

区分		本館		看護学部分館	
		開館	閉館	開館	閉館
通常期間 (下記を除く期間)	平日	8:45	20:00	8:45	21:00
	土曜日	8:45	17:00	8:45	17:00
	日曜日・祝日	休館	休館	9:00	17:00
1月4～9日 3月1～31日 8月11日～9月30日 12月24～29日	平日	8:45	17:00	8:45	17:00
	土曜日	休館	休館	9:00	17:00
	日曜日・祝日	休館	休館	9:00	17:00
休館日		<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始(12月29日～翌年1月3日) ・盆(8月13日～15日) ・大学及び大学院入学試験日 ・秋興祭 ・館内整理日 (毎月末日、末日が休日の場合は前日) ・館長が定める臨時閉館日 			
職員数		3(他:図書館事務1)人		2人	

(2) 貸出条件

○帯出冊数および日数			
利用者	種別	数	期間
1 1～3年生、聴講生、科目等履修生(学部)、一般学外者	図書	5冊以内	1週間以内
	雑誌	3冊以内	1週間以内
	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内
2 4年生、留学生、認定看護師、卒業生(学部)、研究生(学部)	図書	5冊以内	2週間以内
	雑誌	3冊以内	1週間以内
	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内
3 大学院生、大学院修了生、研究生(大学院)、科目等履修生(大学院)、教職員(非常勤の者を含む)	図書	10冊以内	30日間以内
	雑誌	5冊以内	1週間以内
	音楽CD・カセット	2タイトル以内	1週間以内
次の図書は帯出できません。			
① 図書(辞書、辞典、図鑑、年鑑、統計、地図、法令集及びこれらに準ずるもの)			
② 貴重図書			
③ 雑誌の最新号、新聞			
④ 機械可読資料(マイクロフィルム、CD-ROM等)			
⑤ 映像資料(DVD、ビデオテープ、ビデオディスク等)			
⑥ その他館長が館外利用を不相当と認めたもの			
○帯出更新			
貸出中の図書は予約者のないときに限り、貸出期間を更新することができます。			

(3) 蔵書数

(単位：冊)

区分	図書	学術雑誌		電子ジャーナル	
		(うち外国書)	(うち外国書)	(うち外国書)	(うち外国書)
本館	140,415	21,015	75,840	13,377	11
分館	31,104	1,878	35,367	8,351	6
合計	171,519	22,893	111,207	21,728	17

(4) 入館者状況

(単位：人)

区分	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
本館	11,672	11,631	5,007	8,879	9,128	9,205	8,538
分館	25,412	22,709	6,585	10,112	9,142	8,246	7,100
リポジトリ※		11,163	88,051	94,045	108,939	134,853	148,392
合計	37,084	45,503	99,643	113,036	127,209	152,304	164,030

※H31年度2月からデータの取得が可能となったもの

(5) 貸出状況 (学内・学外者)

(単位：人)

区分	H31年度			R2年度			R3年度		
	学内者	学外者		学内者	学外者		学内者	学外者	
本館	9,418	8,498	920	4,693	4,693	0	5,478	5,478	0
分館	9,046	7,072	1,974	3,715	3,715	0	4,591	4,591	0
小計	18,464	15,570	2,894	8,408	8,408	0	10,069	10,069	0
リポジトリ※	11,163	11,163 ※		88,051	88,051 ※		94,045	94,045 ※	
合計	18,464	15,570	2,894	96,459	96,459		104,114	104,114	
区分	R4年度			R5年度			R6年度		
	学内者	学外者		学内者	学外者		学内者	学外者	
本館	5,138	5,138	0	4,499	4,401	98	4,909	4,580	329
分館	3,759	3,759	0	3,078	2,920	158	2,656	2,259	397
小計	8,897	8,897	0	7,577	7,321	256	7,565	6,839	726
リポジトリ※	108,939	108,939 ※		134,853	134,853 ※		148,392	148,392 ※	
合計	117,836	117,836		142,430	142,430		155,957	155,957	

※H31年度2月からデータの取得が可能となった

7. 学生団体が課外活動に利用する施設の整備状況

サークル部屋・学生会館

施設一覧		
・グラウンド	・プール	・茶室
・体育館	・音楽室	・部室17部屋
・テニスコート	・スタジオ2部屋	

※上記以外に、講義室・演習室を使うサークルもある。

IX. 就職

1. 卒業後の状況

(1) 学科別就職率及び進学、就職希望者の就職率

学部 学科別	卒業生数 (A)	就職希望者数 (B)	就職決定者数 (C)	進学者数			その他	就職率 (%) (C) / (A)	就職希望者の就職率 (%) (C) / (B)
				大学院	その他 専修学校				
公共社会学科	55	50	50	1	1	0	0	90.9%	100.0%
社会福祉学科	51	49	48	1	1	0	1	94.1%	98.0%
人間形成学科	52	34	34	13	12	1	0	65.4%	100.0%
看護学科	95	82	82	10	7	3	0	86.3%	100.0%
合計	253	215	214	25	21	4	1	84.6%	99.5%

(2) 学科別所在地別就職先一覧

学部	公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科		公共社会学科	社会福祉学科	人間形成学科	看護学科
北海道					和歌山県				
青森県					滋賀県				
岩手県					奈良県		1		
秋田県					京都府			2	
宮城県					大阪府	1		3	1
山形県					兵庫県			1	4
福島県					岡山県		1		
茨城県					広島県	1	1		
栃木県					鳥取県				
群馬県					島根県	1			
埼玉県			1	1	山口県		1		
千葉県		1		3	香川県		1	1	
東京都	7	1	3	5	徳島県				
神奈川県		1	2	2	愛媛県				2
新潟県					高知県			1	
福井県					福岡県	32	31	14	55
石川県					佐賀県				1
富山県					長崎県		3		2
静岡県			1		大分県	3	1	1	2
山梨県					熊本県	1	1		2
長野県	1				宮崎県	1		1	2
愛知県	1		1		鹿児島県	1	2	2	
岐阜県					沖縄県				
三重県					その他				

(3) 学科別産業別就職先一覧

公共社会学科	種別	就職者数	割合
	公務	10	20.0%
	金融業・保険業	6	12.0%
	サービス業	6	12.0%
	卸売業・小売業	5	10.0%
	情報通信業	5	10.0%
	教員	5	10.0%
	不動産業	4	8.0%
	運輸業	2	4.0%
	医療・福祉	1	2.0%

社会福祉学科	種別	就職者数	割合
	医療・福祉	29	60.4%
	公務	7	14.6%
	サービス業	6	12.5%
	教育	2	4.2%
	宿泊業	1	2.1%

人間形成学科	種別	就職者数	割合
	幼稚園・保育園（官公庁）	5	14.7%
	幼稚園・保育園	1	2.9%
	福祉	6	17.6%
	公務	5	14.7%
	サービス業	5	14.7%
	建設業	4	11.8%
	金融業・保険業	3	8.8%
	製造業	2	5.9%
	情報通信業	1	2.9%
	卸売業	1	2.9%
	鉱業	1	2.9%

看護学科	種別	就職者数	割合
	病院・医療施設 （看護師・助産師等）	60	73.2%
	教員 （養護教諭含む）	12	14.6%
	官公庁 （看護師・保健師）	10	12.2%
	一般企業	1	1.2%

(4) 大学院課程修了生専攻別就職率及び進学、就職希望者の就職率

研究科 専攻別	修了者数 (A)	就職希望者数 (B)	就職決定者数 (C)	進学者数	その他	就職率 (%) (C) / (A)	就職希望者の就職率 (%) (C) / (B)
社会福祉専攻	4	0	0	0	4	0.0%	0.0%
心理臨床専攻	5	4	4	0	1	80.0%	100.0%
子ども教育専攻	0	0	0	0	0	-	-
看護学専攻	9	7	7	0	2	77.8%	100.0%
合計	18	11	11	0	7	61.1%	100.0%

(5) 大学院課程修了生専攻別産業別就職先一覧

社会福祉専攻	種別	就職者数	割合
	就職者なし	0	

子ども教育専攻	種別	就職者数	割合
	就職者なし	0	

心理臨床専攻	種別	就職者数	割合
	公務	3	75.0%
	医療・福祉	3	75.0%
教育	1	25.0%	

看護学専攻	種別	就職者数	割合
	医療	5	71.4%

X. 研究

1. 研究成果の発信

(1) 紀要等

		H31 年度	R2 年度	R3 年度	R3 年度
人間社会学部	発行回数	年 2 回	年 2 回	年 2 回	年 2 回
	発送部数 (発行部数)	1号 69 (200) 2号 69 (200)	1号 69 (200) 2号 70 (200)	1号 66 (200) 2号 65 (200)	1号 67 (200) 2号 66 (200)
看護学部	発行回数	年 1 回	年 1 回	年 1 回	年 1 回
	発送部数 (発行部数)	1号 225 (350)	1号 228 (350)	1号 226 (350)	1号 205 (350)
心理臨床研究	発行回数	年 1 回	年 1 回	年 1 回	年 1 回
	発送部数 (発行部数)	114 (150)	97 (150)	226 (350)	1号 119 (140)

		R5 年度	R6 年度	公開 URL
人間社会学部	発行回数	年 2 回	年 2 回	【機関リポジトリで公開】 https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=controlnumber
	発送部数 (発行部数)	1号 63 (200) 2号 60 (200)	1号 62 (200) 2号 62 (200)	
看護学部	発行回数	年 1 回	年 1 回	
	発送部数 (発行部数)	1号 207 (350)	1号 207 (350)	
心理臨床研究	発行回数	年 1 回	年 1 回	
	発送部数 (発行部数)	1号 102 (140)	1号 109 (140)	

(2) 附属研究所業務実績報告書等

発行元	出版物	公開 URL
不登校・ひきこもりサポートセンター	不登校・ひきこもりサポートセンター 2022 年度公開講座報告書	https://www.fukuoka-pu.ac.jp/openLecture/img/567bbfcd5c781ab1eba0147c50df39.pdf
附属研究所	2022 年度研究奨励交付金 研究成果 報告書	【機関リポジトリで公開】 https://fukuoka-pu.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=20&sort=controlnumber

(3) その他

	H31 年度		R2 年度		R3 年度	
	発行回数	発送部数 (発行部数)	発行回数	発送部数 (発行部数)	発行回数	発送部数 (発行部数)
社会調査実習報告書	年 1 回	40 (110)	年 1 回	50 (110)	年 1 回	20 (70)

	R4 年度		R5 年度		R6 年度	
	発行回数	発送部数 (発行部数)	発行回数	発送部数 (発行部数)	発行回数	発送部数 (発行部数)
社会調査実習報告書	年 1 回	45 (120)	年 1 回	7 (75)	年 1 回	12 (75)

2. 研究奨励交付金決定一覧

区分	R 1 年度		R 2 年度		R 3 年度		R 4 年度		R 5 年度		R 6 年度		
	件数	金額 (千円)											
プロジェクト研究	人間社会学部	5	2,994	1	416	2	1,439	3	2,345	2	1,304	4	3,300
	看護学部	1	317	2	891	1	996						
	附属研究所									1	920		
	計	6	3,310	3	1,307	3	2,435	3	2,345	3	2,224	4	3,300
全学横断型プログラム研究助成	人間社会学部	2	529	1	149	1	280	1	300	1	453	1	400
	看護学部			1	444								
	附属研究所												
	計	2	529	2	593	1	280			1	453	1	400
若手研究助成	人間社会学部			1	200	2	392	2	398	4	684	1	192
	看護学部	6	799	4	547	5	773	3	322	2	369	2	342
	附属研究所												
	計	6	799	5	747	7	1,165	5	720	6	1,053	3	534
附属研究所重点領域研究	人間社会学部	1	378	1	955	2	1,888	2	1,899	2	1,927		
	看護学部	2	1,582	1	974	1	997	1	997	1	987	2	1,875
	附属研究所												
	計	3	1,960	2	1,929	3	2,885	3	2,896	3	2,914	2	1,875
データサイエンス研究助成※1	人間社会学部			1	662	1	415	0	0	2	842	1	245
	看護学部			1	700	1	984	0	0	4	1,831		
	附属研究所												
	計	0	0	2	1,362	2	1,399	0	0	6	2,673	1	245
院生研究助成	人間社会学部	4	253	3	43	2	43	1	39	2	118	5	210
	看護学部	2	115										
	附属研究所												
	計	6	368	3	43	2	43	1	39	2	118	5	210
教員表彰者支援	人間社会学部	1	100			1	100	1	100			1	100
	看護学部			1	100					1	100		
	附属研究所												
	計	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100	1	100
科研申請支援	人間社会学部	3	300	1	100			3	180	4	320	4	300
	看護学部			3	200	3	250	3	300	2	160	5	300
	附属研究所												
	計	3	300	4	300	3	250	6	480	6	480	9	600
研究論文出版補助	人間社会学部	1	78	1	40					2	118		
	看護学部	1	100										
	附属研究所												
	計	2	178	1	40	0	0			2	118		
合計	人間社会学部	17	4,632	10	2,565	11	4,557	13	5,261	19	5,766	17	4,747
	看護学部	12	2,913	13	3,856	11	4,000	7	1,619	10	3,447	9	2,517
	附属研究所	0	0	0	0	0	0			1	920		
	計	29	7,545	23	6,421	22	8,557	20	6,880	30	10,133	26	7,264

※金額については予算配分額

※1: 令和2年度より採択開始

3. 外部資金等の獲得実績 (令和6年度受託研究等事業名) 一覧

(単位: 千円)

委託元		研究課題等	金額
新規	北九州市	「北九州市職員の心の健康づくりのための計画 (第四期)」評価及び「北九州市職員の健康づくりのための計画 (第一期)」に向けての調査と提言	500
新規	筑前町	不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業	3,500
新規	糸田町	不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業	3,000
新規	小竹町	不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業	3,000
計		4 件	10,000

4. 科学研究費補助金応募・獲得状況及び外部研究費受入額（各学部）

人間社会学部

		R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	
科学研究費補助金 (件数)	応募件数	39	45	43	39	40	48	
	うち新規応募件数	24	25	27	19	33	35	
	新規獲得件数	9	6	7	4	2	4	
	採択率	37.5%	24.0%	25.9%	21.1%	6.1%	11.4%	
	獲得件数	20	14	24	20	15	14	
外部研究資金 (受入額：千円)	科研費	23,270	25,090	25,220	18,330	14,300	14,950	
	分担金	3,419	6,254	3,294	2,752	3,543	2,028	
	その他	1,197	150	1,750	0	0	1,000	
	合計	27,886	31,494	30,264	21,082	17,843	17,978	
受託 研究等	受託研究	件数	1	0	0	0	0	1
		金額（千円）	500	0	0	0	0	500
	共同研究	件数		0	0	0	0	
		金額（千円）		0	0	0	0	
	上記以外	件数		0	0	0	0	
		金額（千円）		0	0	0	0	
合計（千円）		28,386	31,494	30,264	21,082	17,843	18,478	

		R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
科学研究費補助金 (件数)	応募件数	45	43	39	40	40	48
	教員数	50	50	47	49	49	49
	応募率（無資格者等除く）	70.6%	86.2%	86.0%	86.7%	83.3%	98.0%

看護学部

		H 3 0 年度	R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 5 年度	R 6 年度
科学研究費補助金 (件数)	応募件数	46	50	43	44	47	49
	うち新規応募件数	31	30	31	35	38	33
	新規獲得件数	7	3	1	4	6	5
	採択率	22.6%	10.0%	3.2%	11.4%	15.8%	15.2%
	獲得件数	18	14	14	9	15	16
外部研究資金 (受入額：千円)	科研費	17,940	14,300	10,400	13,260	16,510	17,550
	分担金	2,550	10,790	9,085	2,491	2,825	2,710
	その他	0	0	0	0	0	0
	合計		25,090	19,485	15,751	19,335	20,260
受託 研究等	受託研究	件数	3	1		0	3
		金額（千円）	7,890	650		0	9,500
	共同研究	件数	0			0	
		金額（千円）	0			0	
	上記以外	件数	1	1	1	1	0
		金額（千円）	990	990	990	10,000	0
合計（千円）		8,880	26,730	20,475	25,751	19,335	29,760

		R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
科学研究費補助金 (件数)	応募件数	46	50	43	43	47	49
	教員数	60	60	54	59	59	61
	応募率（無資格者等除く）	98.2%	88.6%	93.8%	79.6%	82.5%	86.0%

その他

		R 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
外部研究資金 (受入額：千円)	科研費	0	0	0	0	4,273	0
	分担金	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	4,273	0

5. 査読付学術書掲載論文数及び学会発表等（各学部）

項目	学部	H31年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
論文数 (査読、学術 書掲載分)	人間社会学部	24	25	19	31	28	28	18
	看護学部	32	17	76	26	22	22	21
	計	56	42	95	57	50	50	39
学会発表数 (招待講演、 シンポジスト招聘分)	人間社会学部	12	2	4	12	11	11	12
	看護学部	3	1	2	4	6	6	3
	計	15	3	6	16	17	17	15

6. 学術賞・論文等の受賞状況

実績なし

7. 国際学会招待研究等一覧

実績なし

8. 特許出願状況

学部		H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
人間社会学部	申請	0	0	0	0	0	0
	取得	0	0	0	0	0	0
看護学部	申請	0	0	0	0	0	0
	取得	0	1	0	0	0	0
合計	申請	0	0	0	0	0	0
	取得	0	1	0	0	0	0

XI. 国際交流

1. 学部・学年別・国籍別留学生数

	人間社会学部		看護学部	
	人数	国籍	人数	国籍
1年生	9	中国・韓国	該当者なし	
2年生	0			
3年生	0			
4年生	0			

2. 留学生の受入・派遣

(1) 交換留学（受入・派遣）

	南京師範大学	大邱韓医大学校	三育大学校	珠海科技学院	威徳大学校
受入学生数	3	0	2	0	4
派遣学生数	0	0	1	0	0

(2) 語学研修実績

	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	行き先
参加学生数	27	14	12	0	0	12	10	イギリス（バース・オックスフォード）

※R2・R3実施なし

※R4年度はオンラインで実施

(3) 短期派遣

	南京師範大学	大邱韓医大学校	三育大学校	珠海科技学院	威徳大学校
受入学生数	0	0	0	0	0
派遣学生数	0	5	0	0	7

(4) 留学における単位認定

		H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
南京師範大学	対象学生数	6	6	0	0	0	0	1
	認定単位数	81	48	0	0	0	0	25
大邱韓医大学校	対象学生数	4	3	0	0	0	3	1
	認定単位数	74	83	0	0	0	27	8
三育大学校	対象学生数	3	3	0	1	0	2	1
	認定単位数	102	80	0	12	0	21	25
吉林大学珠海学院	対象学生数	5	5	0	0	0	0	0
	認定単位数	111	193	0	0	0	0	0

3. 学術交流協定等締結校一覧

中国	南京師範大学
	北京中医薬大学
	珠海科技学院
韓国	大邱韓医大学校
	三育大学校
	威徳大学校

Ⅱ. 社会貢献

1. 公開講座等の実施状況

(1) 公開講座実施状況

	回数 (方法)	日 程	テーマ	講 師	参加者 (人)
公開講座Ⅰ	第1回 ライブ配信 (Zoom)	令和5年12月7日 10:00~12:00	不登校の子どもの笑顔を引き出すために～コツの伝授と学びの場づくりの実際～	渡邊 恵里 (川谷医院小児科医)	95
	第1回 VDO配信 (Vimeo)	～令和6年3月31日 まで			467
	第2回 ライブ配信 (Zoom)	令和6年1月30日 10:00~12:00	こどもソーシャルワークセンターのほっとる一む物語	幸重 忠孝 (こどもソーシャルワークセンター長/滋賀県SSW)	38
	第2回 VDO配信 (Vimeo)	～令和6年3月31日 まで			127
公開講座Ⅱ	対面式	令和6年2月17日 13:30~15:00	満洲から博多・佐世保港に引き揚げてきたこどもたち～二人の体験談を交えて～シンポジウム	鬼塚 香 (駒澤大学文学部准教授、COC研究協力者) 松本 幸治 (長崎県児童養護施設 大村子供の家 施設長)	60
	対面式	令和6年2月17日 15:15~16:15	満洲から博多・佐世保港に引き揚げてきたこどもたち～二人の体験談を交えて～座談会	内山 大樹 (同胞援護婦人連盟・学習塾オリーブみらい塾長)	24
合計					811

(2) 科目等履修生、聴講生、研究生の受入状況

区分	H30年度		H31年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
科目等履修生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	0	1
科目等履修生(大学院)	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	2	0
聴講生	4	3	4	1	0	1	1	1	3	3	4	2	5	2
聴講生(大学院)	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

(3) 出前講義の実施状況

区分	開催回数	参加人数	場所
出前講義	13	437	新宮高校、嘉穂高校ほか
高校訪問(来学)	3	86	光陵高校、舞鶴高校、田川高校
出前講義(来学)	1	41	下関南高校

出前講義アンケート

	参加人数	回収人数	とても わかりやすい	わかりやすい	わかりにくい	とても わかりにくい
出前講義	437	360	265	86	3	6
高校訪問（来学）	86	86	56	27	1	2
出前講義（来学）	41	41	26	15	0	0

令和6年度 出前講義テーマ一覧

人間社会学部	看護学部
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉学入門 ・ 社会学入門 ・ 甘いチョコレートのほろ苦いお話 ・ 社会福祉士（ソーシャルワーカー）の仕事 ・ 精神保健福祉士の仕事 ・ 子どもと遊び ・ 「占い」はなぜ「あたる」のか 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 心の中の安全空間 ・ あなたの勇気が命を救う！やってみよう救命処置 ・ 生活習慣と病気 ・ 看護におけるコミュニケーションで磨きをかける！ ・ 看護の「技」について ・ 地域の人々に対する看護活動 ・ からだのリズム ～体温～ 等

2. 地域貢献活動

(1) 不登校・ひきこもりサポートセンター活動概要

リカレント教育事業

	対象	事業名	回数	人数
リカレント	小・中・高校教員、 一般	公開講座「メンタルヘルスと不登校」	1	第1部:502(VOD) 第2部:260(VOD)
		フォーラム「メンタルヘルスと不登校」	1	24(対面) 76(Zoom)
		教員対象研修事業	75	3,183

地域貢献事業

	対象	事業名	回数	人数
地域貢献	小学生～20歳程度	県大子どもサポートセンター派遣	251(名)	3,356
	小・中・高校生	キャンパススクール	25(名)	1,755
	小学生～20歳程度	相談件数	2,011	5,512
	親	家族交流会	12	33

(2) 社会貢献・ボランティア支援センター活動概要

(外部団体の登録状況と学生の活動状況)

領域	登録団体件数	依頼申請件数	学生参加件数	学生参加人数
高齢者福祉に関する団体・施設	22	11	1	17
障害者福祉に関する団体・施設（障害児を含む）	76	39	12	62
児童福祉に関する団体・施設	48	38	25	749
社会福祉協議会	18	9	5	21
その他	92	33	8	95
合計	256	130	51	944

(3) 看護実践教育センター活動概要

リカレント教育事業

実施年度	対象	事業名	人数(名)
平成 29 年度	看護職	第 5 回糖尿病看護実践力開発セミナー	244
平成 30 年度	看護職	第 6 回糖尿病看護実践力開発セミナー	250
令和元年度	看護職	第 7 回糖尿病看護実践力開発セミナー	224
令和 2 年度	看護職	コロナ禍の影響の為開催できず	
令和 3 年度	看護職	第 8 回糖尿病看護実践力開発セミナー	250
令和 4 年度	主:看護師	第 9 回糖尿病看護実践力開発セミナー	269
	認定看護師教育課程修了生	2022 年度 認定看護師教育課程修了生フォローアップ研修	22
	特定行為研修修了生・受講者	2022 年度 特定看護師フォローアップ研修	13
令和 5 年度	主:看護師	第 10 回糖尿病看護実践力開発セミナー	277
	認定看護師教育課程修了生	2023 年度 認定看護師教育課程修了生フォローアップ研修	17
	特定行為研修修了生・受講者	2023 年度 特定看護師フォローアップ研修	21
令和 6 年度	主:看護師	第 11 回糖尿病看護実践力開発セミナー	277
	一般	「健診ひろめ隊」養成講座（1～3回）	41
	認定看護師教育課程修了生	2024 年度 認定看護師教育課程修了生フォローアップ研修	7
	特定行為研修修了生・受講者	2024 年度 特定看護師フォローアップ研修	21

(4) 心理教育相談室実績

事業名	面接件数
心理教育相談	1,028

3. 学外講義・講演

講師等（行政・小中学校・教育委員会）

（単位：件）

福岡県	田川市郡	福岡県内市町村	他縣市町村	計
23	5	32	10	70

講師等（その他団体）

（単位：件）

福岡県内		他県	計
田川地区	その他		
6	105	42	153

4. 審議会・委員会等への参画状況

委員会（その他の団体）

（単位：件）

福岡県内		他県	計
田川地区	その他		
68	84	17	169

XIII. 財務

1. 資産と負債の状況

(単位：千円)

科目	H31年度 (A)	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 (B)	増減 (B-A)
資産 (①)	7,355,321	7,342,335	7,212,903	7,128,398	6,862,897	6,700,503	▲ 654,818
固定資産	7,016,134	6,922,122	6,711,524	6,564,842	6,311,019	6,138,037	▲ 878,097
流動資産	339,186	420,212	501,379	563,555	551,878	562,466	223,280
負債	1,471,456	1,595,534	1,628,494	1,745,761	537,089	653,064	▲ 818,392
固定負債	1,234,232	1,325,590	1,315,121	1,349,265	244,888	284,908	▲ 949,324
資産見返負債	1,224,591	1,277,574	1,267,179	1,273,655	202,525	261,653	▲ 962,938
長期リース債務	9,640	48,016	47,942	75,610	42,363	23,255	13,615
流動負債	237,224	269,943	313,373	396,495	292,200	368,156	130,932
リース債務	15,000	24,429	20,006	34,103	35,521	19,107	4,107
その他	222,224	245,514	293,367	362,392	256,679	349,049	126,825
純資産 (②) 資産-負債	5,883,864	5,966,442	5,584,409	5,382,636	6,325,808	6,047,439	163,575
自己資本比率 (②/①)	80%	81%	77%	76%	92%	90%	

※項目ごとに千円未満を切り捨てているため、合計額が一致しない場合がある。

(出典 貸借対照表)

2. 土地と建物の状況

(単位：㎡)

区分	法人設立時 (A)	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度 (B)	増減 (B-A)
土地	96,854	96,359	96,359	96,359	96,359	96,359	96,359	▲ 495
建物	35,750	37,074	37,074	37,074	37,074	37,074	37,074	1,324

3. 自己収入の状況

(単位：千円)

年度	学生納付金収入				雑益	計
	授業料	入学金	検定料	小計		
H 3 1 年度	588,299	107,494	20,191	715,984	33,932	749,916
R 2 年度	549,527	112,236	25,581	687,344	27,039	714,383
R 3 年度	542,114	108,066	19,739	669,919	45,748	715,667
R 4 年度	542,799	115,030	22,386	680,215	31,988	712,203
R 5 年度	573,317	122,380	23,904	719,601	28,408	748,009
R 6 年度	588,708	113,214	19,437	721,359	23,191	744,550

(出典 損益計算書)

4. 外部研究資金の獲得状況

(単位：千円)

年度	科学研究費補助金		受託研究・共同研究資金		その他補助金		計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
H 3 1 年度	38	41,210	4	9,379	4	1,197	42	41,180
R 2 年度	39	39,390	2	1,640	1	150	41	39,081
R 3 年度	38	36,341	1	990	2	1,750	30	41,590
R 4 年度	29	31,590	1	10,000	0	0	32	36,396
R 5 年度	31	35,083	1	1,313	0	0	32	36,396
R 6 年度	29	32,500	4	10,500	1	1,000	34	44,000

5. 収支状況

(単位：千円)

区分	H 3 1 年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度
経常費用	1,820,011	1,843,779	1,856,140	2,006,604	1,990,069	1,934,726
経常収益	1,833,394	1,901,332	1,888,365	1,999,144	1,989,630	1,978,972
経常利益	13,383	57,552	32,225	△ 7,460	△ 439	44,245
臨時損失	0	0	0	0	0	59,184
臨時利益	0	0	0	0	0	0
目的積立金取崩額	0	6,440	6,897	54,687	0	12,816
当期総利益	13,383	63,993	39,122	47,227	1,138,232	△ 2,122

(出典 損益計算書)

6. 教育研究経費の状況

(単位：千円)

区分	教育経費	研究経費				教育研究 支援経費	合計
		学部研究費	研究奨励交付金	その他	計		
H 3 1 年度	179,549	35,985	15,423	28,718	80,126	48,346	308,021
R 2 年度	250,829	32,387	13,881	20,858	67,126	48,568	366,523
R 3 年度	250,624	32,387	13,881	18,468	64,736	48,288	363,648
R 4 年度	279,740	32,387	13,881	20,734	67,002	50,514	397,256
R 5 年度	248,251	27,691	11,868	18,483	58,042	43,189	349,482
R 6 年度	332,057	27,691	11,868	21,325	60,884	45,375	438,316

(出典 収支計画予算)

<付録>

1. 令和5年度における主な取組

(1) 教育

- ・福祉分野の教育職を目指す学生のために、社会福祉学科のカリキュラムを改編し、高校福祉の免許取得を可能にするための新たな教職課程を令和5年度末に文部科学省に申請した。さらに、人間形成学科のカリキュラムを改編し、幼稚園教諭免許を基礎免許として特別支援学校教諭（二種）免許の取得を可能にするための教職課程を策定し、「特定分野に強みや専門性を持つ学科等の特例」として申請を行った（文科省による申請期日が、年度末から変更になったため実際の申請日は令和6年5月15日）。
- ・人間社会学部の学校推薦型選抜における「社会的養護を必要とする者（特別枠）」に1名が合格した。

(2) 地域貢献

- ・特定行為研修については、令和5年度から受講生が所属する医療機関で実習を行う「自施設実習」を整備し、10名中6名が所属施設での実習を行った。
- ・福岡県肢体不自由児協会主催の療育キャンプに本学学生13名が参加した（最多数の大学であった）。

(3) 業務運営の改善及び効率化

- ・令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練に看護学部1年生全員(当日90名)がトリアージ対象の要救助者役として参加した。

(4) その他

- ・個別施設計画に基づき、令和5年度は4・5号館外壁改修、トイレ排水管更新等の大規模な施設改修工事を実施し、建物等の長寿命化を図った。

2. 沿革

昭和 20 年 4 月	福岡県立保健婦学校設置
昭和 27 年 7 月	福岡県立保育専門学院設置
昭和 27 年 9 月	福岡県立保健婦学校を福岡県立保健婦養成所に再編
昭和 29 年 4 月	福岡県立保母養成所と改称する。(県直営となる。)
昭和 37 年 4 月	福岡県立保健婦養成所を福岡県立公衆衛生看護学校と改称
昭和 42 年 4 月	県下に分散していた福岡教育大学(国立)が昭和 41 年に宗像市に統合されたことにより、同大学田川分校跡地に、上記保母養成所を発展的に解消し、福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)を開学
昭和 46 年 4 月	福岡県立公衆衛生看護学校を福岡県立看護専門学校(看護婦科(進学課程)、保健婦・助産婦科)に再編
昭和 53 年 4 月	上記短期大学に附属幼稚園を開園
昭和 56 年 4 月	短期大学校舎の全面改築(昭和 59 年 3 月)
昭和 58 年 11 月	すずかけ寮完成(30 室)
昭和 63 年 1 月	「福岡県社会保育短期大学問題協議会」を設置。同年 12 月、同短大の四年制への移行について「社会福祉の新しい動向に対応しうる人材養成及び地域振興に資するため、新しい構想のもとに四年制大学を設置すること」との答申を発表(昭和 63 年 12 月)
平成 2 年 4 月	福岡県総務部私学学事振興局内に「四年制大学移行準備室」を設置
平成 2 年 5 月	「四年制大学移行準備委員会」を設置し、新大学の基本構想・カリキュラム・教員組織等につき検討開始
平成 3 年 6 月	文部省に対して、福岡県立大学(人間社会学部)の設置認可を申請
平成 3 年 12 月	文部省により、福岡県立大学の設置許可を受ける
平成 4 年 4 月	福岡県立大学(人間社会学部)開学 福岡県社会保育短期大学附属幼稚園を福岡県立大学附属幼稚園に改称
平成 5 年 3 月	福岡県社会保育短期大学閉学
平成 6 年 4 月	福岡県立大学附属図書館、新築開館
平成 6 年 11 月	中国南京師範大学との学術・教育交流に関する協定の締結
平成 7 年 3 月	心理学実験棟完成
平成 8 年 2 月	中国南京師範大学と短期留学生(1 年)交流開始
平成 8 年 3 月	第 2 キャンパス(運動場)完成
平成 8 年 6 月	文部省に対し、福岡県立大学大学院(人間社会学研究科・修士課程)の設置認可を申請
平成 8 年 12 月	文部省より、福岡県立大学大学院の設置許可を受ける。
平成 9 年 4 月	福岡県立大学大学院人間社会学研究科(人間社会学研究科・修士課程)開設
平成 9 年 6 月	「福岡県看護教育高度化検討委員会」設置。同年 11 月、報告書を知事に提出
平成 9 年 12 月	「県立看護大学(学部)設立準備委員会」設置
平成 10 年 3 月	福岡県立大学附属幼稚園を廃園
平成 10 年 4 月	福岡県立大学生涯福祉研究センター(学内組織)を設置
平成 10 年 7 月	「県立看護大学(学部)設立準備委員会専門部会」設置
平成 11 年 2 月	「福岡県立大学看護学部(仮称)基本計画」策定
平成 11 年 4 月	福岡県総務部私学学事振興局内に「看護学部開設準備室」設置
平成 12 年 3 月	「福岡県立大学看護学部施設整備基本計画」策定

平成 14 年 4 月	文部科学省に対し、福岡県立大学看護学部の設置認可を申請
平成 14 年 9 月	文部科学省に対し、福岡県立大学看護学部の看護師・保健師・助産師学校指定を申請。また、養護教諭 1 種免許状授与の所要資格を得させるための課程認定を申請。
平成 14 年 12 月	文部科学省より、福岡県立大学看護学部の設置許可を受ける。
平成 14 年 12 月	アザレア寮完成(100 室)
平成 15 年 3 月	看護学部棟、講堂・管理棟、大講義室、福利厚生棟完成
平成 15 年 3 月	福岡県立看護専門学校閉校
平成 15 年 4 月	福岡県立大学看護学部開設
平成 18 年 4 月	公立大学法人福岡県立大学へ移行
平成 18 年 4 月	福岡県立大学附属研究所を設置
平成 18 年 4 月	福岡県立大学附属研究所内にヘルスプロモーション実践研究センターを設置
平成 18 年 6 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院（看護学研究科・修士課程）の設置認可を申請
平成 18 年 9 月	韓国大邱韓医大学校との学術交流に関する協定の締結
平成 18 年 9 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院（人間社会学研究科・修士課程）の再編届出
平成 18 年 11 月	韓国大邱韓医大学校との学生交流に関する協定の締結
平成 18 年 11 月	文部科学省が、福岡県立大学大学院（人間社会学研究科）の再編届出を受理
平成 18 年 11 月	文部科学省より、福岡県立大学（看護学研究科）の設置許可を受ける。
平成 19 年 4 月	福岡県立大学大学院看護学研究科（看護学研究科・修士課程）開設
平成 19 年 4 月	福岡県立大学大学院人間社会学研究科の再編
平成 19 年 9 月	福岡県立大学附属研究所内に不登校・ひきこもりサポートセンターを設置
平成 19 年 10 月	生涯福祉研究センター内に心理教育相談室を設置
平成 20 年 11 月	福岡県立大学看護実践教育センターを設置
平成 21 年 4 月	福岡県立大学生涯福祉研究センターの心理教育相談室を教育機関の実習施設に位置づけるため福岡県立大学大学院の施設に変更
平成 21 年 4 月	人間社会学部「社会学科」を「公共社会学科」へ名称変更
平成 21 年 11 月	タイ国コンケン大学との国際的な学術協力に関する覚書の締結
平成 21 年 11 月	北京中医薬大学との学術・教育・文化交流に関する協定の締結
平成 21 年 12 月	福岡県立大学附属研究所内に社会貢献・ボランティア支援センターを設置
平成 22 年 5 月	韓国・三育大学校との学術・教育・文化交流に関する協定の締結
平成 22 年 10 月	田川市との包括的連携に関する協定締結
平成 23 年 3 月	福岡県立大学と田川市が申請した生涯福祉研究センター管理の山本作兵衛日記・雑記帳（66 点）絵画（4 点）が日本初のユネスコ世界記憶遺産に登録
平成 23 年 7 月	看護学部編入学募集停止を決定
平成 23 年 10 月	看護学部における助産師養成課程の廃止、同課程の大学院への移行及び保健師養成課程選択制移行を決定
平成 23 年 12 月	第 1 期公立大学法人職員採用を決定
平成 24 年 3 月	附属研究所棟完成
平成 24 年 3 月	福岡県立大学創立 20 周年記念式典開催
平成 25 年 5 月	田川市郡 1 市 6 町 1 村との包括連携に関する協定締結

平成 26 年 5 月	文部科学省に対して、福岡県立大学大学院看護学研究科の課程変更（助産師課程の開設）を申請
平成 26 年 8 月	文部科学省より福岡県立大学大学院看護学研究科の課程変更（助産師課程の開設）の承認を受ける
平成 27 年 4 月	福岡県立大学大学院看護学研究科助産師課程を開設
平成 27 年 7 月	大学院人間社会学研究科地域教育支援専攻の募集停止を決定
平成 27 年 11 月	韓国威徳大学との学術・教育交流に関する覚書を締結
平成 28 年 4 月	文部科学省に対し、大学院人間社会学研究科地域教育支援専攻の廃止を届出
平成 28 年 4 月	中国吉林大学珠海学院との学術・教育交流に関する覚書を締結
平成 28 年 6 月	附属研究所の改組（研究推進部の設置、社会貢献・ボランティア支援センターの独立組織化）
平成 28 年 9 月	文部科学省に対し、大学院人間社会学研究科子ども教育専攻の設置届出を届出
平成 28 年 11 月	文部科学省が、大学院人間社会学研究科子ども教育専攻の設置届出を受理
平成 30 年 3 月	国際交流寮（男子学生寮）完成（12室）
平成 30 年 4 月	人間社会学部人間形成学科および大学院人間社会学研究科心理臨床専攻に公認心理師養成課程を開設
平成 31 年 4 月	附属研究所の改組（不登校・ひきこもりサポートセンターの独立組織化）
令和 2 年 3 月	ヘルプロモーション実践センターの廃止
令和 2 年 4 月	学生総合支援センターを設置
令和 3 年 3 月	生涯福祉研究センターの廃止
令和 3 年 4 月	看護実践教育センターにおいて看護師特定行為研修を開講

3. 歴代学長及び名誉教授一覧

歴代学長

福岡県立大学

代	氏 名	在 職 期 間
初代	安藤 延男	平成 4 年 4 月 1 日～平成 10 年 3 月 31 日
第 2 代	保田井 進	平成 10 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日
第 3 代	橋口 捷久	平成 14 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日

公立大学法人 福岡県立大学

代	氏 名	在 職 期 間
初代	名和田 新	平成 18 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
第 2 代	柴田 洋三郎	平成 24 年 4 月 1 日～

名誉教授

授与番号	職 名	氏 名	退職年月日	称号授与日
第 1 号	教 授	荒卷 正憲	平成 8 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 2 号	教 授	清水 正照	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 3 号	教 授	中川 哲也	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 4 号	教 授	安部 博純	平成 9 年 3 月 31 日	平成 9 年 5 月 8 日
第 5 号	学 長	安藤 延男	平成 10 年 3 月 31 日	平成 10 年 6 月 11 日
第 6 号	教 授	武内 勝彦	平成 10 年 3 月 31 日	平成 10 年 6 月 11 日
第 7 号	教 授	阿部 洋	平成 12 年 3 月 31 日	平成 12 年 6 月 14 日
第 8 号	教 授	杉田 峰康	平成 13 年 3 月 31 日	平成 13 年 5 月 30 日
第 9 号	教 授	奥村 幸夫	平成 19 年 3 月 31 日	平成 20 年 4 月 4 日
第 10 号	教 授	宮崎 昭夫	平成 20 年 3 月 31 日	平成 21 年 4 月 17 日
第 11 号	学 長	橋口 捷久	平成 19 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 21 日
第 12 号	教 授	清田 勝彦	平成 22 年 3 月 31 日	平成 22 年 4 月 21 日
第 13 号	教 授	西岡 健治	平成 23 年 3 月 31 日	平成 23 年 10 月 25 日
第 14 号	教 授	小松 啓子	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 15 号	教 授	久永 明	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 16 号	教 授	古橋 啓介	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 17 号	教 授	茂木 豊	平成 26 年 3 月 31 日	平成 26 年 6 月 24 日
第 18 号	学 長	名和田 新	平成 24 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日
第 19 号	教 授	森山 沾一	平成 24 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日

第20号	教授	鬼崎 信好	平成24年3月31日	平成28年3月31日
第21号	教授	文屋 俊子	平成28年3月31日	平成28年4月1日
第22号	教授	秦 和彦	平成28年3月31日	平成28年4月1日
第23号	教授	甲斐 彰	平成23年3月31日	平成28年11月1日
第24号	教授	藤山 正二郎	平成24年3月31日	平成28年11月1日
第25号	教授	平野 泰朗	平成22年3月31日	平成28年11月1日
第26号	教授	田中 哲也	平成30年3月31日	平成30年4月1日
第27号	教授	福田 恭介	平成31年3月31日	平成31年4月1日
第28号	教授	細井 勇	平成31年3月31日	平成31年4月1日

4. 学年暦

2024年度福岡県立大学 学年暦

Ver. 1

前期(4/1~9/29)、後期(9/30)

4月			5月			6月		
1	月	前期開始	1	水	4	1	土	
2	火		2	木	4	2	日	
3	水	入学式 特定行為研修開講式	3	金		3	月	7
4	木	入学オリエンテーション、英語クラス分けテスト、履修指導、web授業講習、健康診断等	4	土		4	火	8
5	金		5	日		5	水	8
6	土		6	月		6	木	9
7	日		7	火	4	7	金	8
8	月	新入生フォーラム 履修登録締切 (新入生を除く)	8	水	※	8	土	※
9	火	オリエンテーション等	9	木	5	9	日	補講日
10	水	1 授業開始	10	金	4	10	月	8
11	木	1 履修登録締切(新入生)	11	土	※	11	火	9
12	金	1	12	日		12	水	9
13	土		13	月	4	13	木	10
14	日		14	火	5	14	金	9
15	月	1	15	水	5	15	土	
16	火	1 履修登録修正締切	16	木	6	16	日	
17	水	2	17	金	5	17	月	9
18	木	2	18	土		18	火	10
19	金	2	19	日		19	水	10
20	土	※ 補講日	20	月	5	20	木	11
21	日		21	火	6	21	金	10
22	月	2	22	水	6	22	土	※ 補講日
23	火	2	23	木	7	23	日	
24	水	3	24	金	6	24	月	10
25	木	3	25	土	※	25	火	11
26	金	3	26	日		26	水	11
27	土		27	月	6	27	木	12
28	日		28	火	7	28	金	11
29	月		29	水	7	29	土	
30	火	3	30	木	8	30	日	
			31	金	7			

7月			8月			9月		
1	月	11	1	木		1	日	
2	火	12	2	金	前期試験期間	2	月	
3	水	12	3	土	オープンキャンパス	3	火	
4	木	13	4	日		4	水	前期卒業判定(予定)
5	金	12	5	月	前期試験期間	5	木	追再試成績提出締切日
6	土	大学院入試	6	火		6	金	
7	日		7	水		7	土	
8	月	12	8	木		8	日	
9	火	13	9	金		9	月	
10	水	13	10	土		10	火	
11	木	14	11	日		11	水	前期成績表交付
12	金	13	12	月		12	木	成績質問期間
13	土	※ 補講日	13	火	成績提出締切日	13	金	
14	日		14	水		14	土	停電点検・全学停電
15	月		15	木		15	日	停電点検予備日
16	火	14	16	金	成績揭示日(合否のみ) 再試験願提出期間	16	月	【敬老の日】
17	水	14	17	土		17	火	
18	木	※ 月曜授業13回目	18	日		18	水	基礎看護学実習Ⅱ 9/2~13 または9/9~20
19	金	14	19	月	集中講義	19	木	
20	土		20	火		20	金	
21	日		21	水		21	土	
22	月	14	22	木	再試験期間	22	日	【秋分の日】
23	火	15	23	金	①	23	月	【振替】
24	水	15	24	土		24	火	
25	木	15	25	日		25	水	
26	金	15	26	月	集中講義	26	木	後期履修登録締切
27	土	※ 補講日	27	火		27	金	
28	日		28	水		28	土	大学院入試
29	月	15	29	木		29	日	前期終了
30	火	※ 特別補講日	30	金	②	30	月	1 後期開始
31	水	前期試験期間	31	土				

2024年度福岡県立大学 学年暦

Ver. 1

後期(9/30~3/31)

10月			11月			12月		
1	火	1	1	金	5	1	日	
2	水	1	2	土	※	2	月	9
3	木	1	3	日		3	火	9
4	金	1	4	月		4	水	9
5	土		5	火	※	5	木	9
6	日		6	水	6	6	金	10
7	月	2	7	木	※	7	土	※
8	火	2	8	金	／	8	日	
9	水	2	9	土		9	月	10
10	木	2	10	日		10	火	10
11	金	2	11	月	6	11	水	10
12	土		12	火	6	12	木	10
13	日		13	水	7	13	金	11
14	月		14	木	6	14	土	
15	火	3	15	金	7	15	日	
16	水	3	16	土		16	月	11
17	木	3	17	日		17	火	11
18	金	3	18	月	7	18	水	11
19	土	※	19	火	7	19	木	11
20	日		20	水	※	20	金	12
21	月	3	21	木	7	21	土	※
22	火	4	22	金	／	22	日	
23	水	4	23	土		23	月	12
24	木	4	24	日		24	火	12
25	金	4	25	月	8	25	水	
26	土	※	26	火	8	26	木	
27	日		27	水	8	27	金	
28	月	4	28	木	8	28	土	
29	火	5	29	金	9	29	日	
30	水	5	30	土	※	30	月	
31	木	5				31	火	

1月			2月			3月		
1	水		1	土		1	土	
2	木		2	日		2	日	
3	金		3	月	※	3	月	
4	土		4	火		4	火	
5	日		5	水		5	水	
6	月	13	6	木		6	木	
7	火	13	7	金		7	金	
8	水	12	8	土		8	土	
9	木	12	9	日		9	日	
10	金	13	10	月		10	月	
11	土	※	11	火		11	火	
12	日		12	水		12	水	
13	月		13	木		13	木	
14	火	※	14	金		14	金	
15	水	13	15	土		15	土	
16	木	13	16	日		16	日	
17	金	／	17	月		17	月	
18	土		18	火		18	火	
19	日		19	水		19	水	
20	月	／	20	木		20	木	
21	火	14	21	金		21	金	
22	水	14	22	土		22	土	
23	木	14	23	日		23	日	
24	金	14	24	月		24	月	
25	土	※	25	火		25	火	
26	日		26	水		26	水	
27	月	15	27	木		27	木	
28	火	15	28	金		28	金	
29	水	15				29	土	
30	木	15				30	日	
31	金	15				31	月	

令和6年度時間割【後期】

学号	1期 8:50-10:20			2期 10:50-12:00			3期 12:50-14:20			4期 14:50-16:00			5期 16:10-17:40			メディア履修(オンデマンド)
	科目	担当	備考	科目	担当	備考	科目	担当	備考	科目	担当	備考	科目	担当	備考	
1000	(基)憲法	森脇	大講義室	1001 社会学概論	佐野	3319	1002 国際協力論	佐野	3109	0401 子育て支援論	松浦・高村・原田・小山・坂野	講義	1003 国際政治論	田本雅	1222	
				1004 社会学概論Ⅱ	河野	3212	1005 ソーシャルワーク演習A	本郷・河野・松浦・高村	別添	0402 (基)情報科学	石崎	3212	1006 発達心理学Ⅱ	池	3319	
										0403 (基)化学	宇川	大講義室	1007 発達心理学Ⅱ	池	3319	
													1008 看護学化学	宇川	大講義室	
1010	生涯教育論	重	3319	1011 マルチメディア論	柴田	情報1	1012 総合英語2初級	河本	情報1	1401 コミュニティ論	藤田	3202	1009 国際社会学論	佐野	3109	
1013	地域福祉論Ⅰ	村山	3212	1013 マルチメディア論	柴田	情報1	1013 総合英語2中級D	河本	情報1	1402 情報ネットワーク演習	柴田	情報1	1010 国際社会学論	データ入	3109	
1014	生涯教育論	重	3319				1014 総合英語2中級E	河本	情報1	1403 社会福祉論	森	3319				
1015	成人老年看護学Ⅱ(終末期)	福田・高村・坂野	5101	1015 シンポジウムマシメント論	藤野他	実習	1015 総合英語2初級	河本	情報1	1404 コミュニティ論	藤田	3202	1011 心理学の支援法	宮崎・吉岡	3212-3202	
1016	データ処理とデータ解析Ⅱ	石崎	情報1	1016 英語Ⅳ-(2)	ゲイル	LL	1016 総合英語2中級	ゲイル	LL	1405 公民権教育論Ⅰ	宇川	3203	1012 社会教育法Ⅱ	下地	3207	
							1017 総合英語2上級	河本	情報1	1406 公民権教育論Ⅱ	宇川	3203	1013 公共経済学	石井	3203	
							1018 総合英語2上級	ゲイル	LL	1407 総合英語2上級	宇川	3203	1014 文化人類学	永吉	3203	
							1019 総合英語2上級	ゲイル	LL	1408 総合英語2上級	宇川	3203	1015 Advanced English Achievement	ゲイル	LL	
							1020 総合英語2上級	ゲイル	LL	1409 総合英語2上級	宇川	3203	1016 福祉専門特講A	私設・寺園・村山・佐藤・高田・河野・山田	オンデマンド	
							1021 総合英語2上級	ゲイル	LL	1410 総合英語2上級	宇川	3203				
							1022 総合英語2上級	ゲイル	LL	1411 総合英語2上級	宇川	3203				
							1023 総合英語2上級	ゲイル	LL	1412 総合英語2上級	宇川	3203				
							1024 総合英語2上級	ゲイル	LL	1413 総合英語2上級	宇川	3203				
							1025 総合英語2上級	ゲイル	LL	1414 総合英語2上級	宇川	3203				
							1026 総合英語2上級	ゲイル	LL	1415 総合英語2上級	宇川	3203				
							1027 総合英語2上級	ゲイル	LL	1416 総合英語2上級	宇川	3203				
							1028 総合英語2上級	ゲイル	LL	1417 総合英語2上級	宇川	3203				
							1029 総合英語2上級	ゲイル	LL	1418 総合英語2上級	宇川	3203				
							1030 総合英語2上級	ゲイル	LL	1419 総合英語2上級	宇川	3203				
							1031 総合英語2上級	ゲイル	LL	1420 総合英語2上級	宇川	3203				
							1032 総合英語2上級	ゲイル	LL	1421 総合英語2上級	宇川	3203				
							1033 総合英語2上級	ゲイル	LL	1422 総合英語2上級	宇川	3203				
							1034 総合英語2上級	ゲイル	LL	1423 総合英語2上級	宇川	3203				
							1035 総合英語2上級	ゲイル	LL	1424 総合英語2上級	宇川	3203				
							1036 総合英語2上級	ゲイル	LL	1425 総合英語2上級	宇川	3203				
							1037 総合英語2上級	ゲイル	LL	1426 総合英語2上級	宇川	3203				
							1038 総合英語2上級	ゲイル	LL	1427 総合英語2上級	宇川	3203				
							1039 総合英語2上級	ゲイル	LL	1428 総合英語2上級	宇川	3203				
							1040 総合英語2上級	ゲイル	LL	1429 総合英語2上級	宇川	3203				
							1041 総合英語2上級	ゲイル	LL	1430 総合英語2上級	宇川	3203				
							1042 総合英語2上級	ゲイル	LL	1431 総合英語2上級	宇川	3203				
							1043 総合英語2上級	ゲイル	LL	1432 総合英語2上級	宇川	3203				
							1044 総合英語2上級	ゲイル	LL	1433 総合英語2上級	宇川	3203				
							1045 総合英語2上級	ゲイル	LL	1434 総合英語2上級	宇川	3203				
							1046 総合英語2上級	ゲイル	LL	1435 総合英語2上級	宇川	3203				
							1047 総合英語2上級	ゲイル	LL	1436 総合英語2上級	宇川	3203				
							1048 総合英語2上級	ゲイル	LL	1437 総合英語2上級	宇川	3203				
							1049 総合英語2上級	ゲイル	LL	1438 総合英語2上級	宇川	3203				
							1050 総合英語2上級	ゲイル	LL	1439 総合英語2上級	宇川	3203				
							1051 総合英語2上級	ゲイル	LL	1440 総合英語2上級	宇川	3203				
							1052 総合英語2上級	ゲイル	LL	1441 総合英語2上級	宇川	3203				
							1053 総合英語2上級	ゲイル	LL	1442 総合英語2上級	宇川	3203				
							1054 総合英語2上級	ゲイル	LL	1443 総合英語2上級	宇川	3203				
							1055 総合英語2上級	ゲイル	LL	1444 総合英語2上級	宇川	3203				
							1056 総合英語2上級	ゲイル	LL	1445 総合英語2上級	宇川	3203				
							1057 総合英語2上級	ゲイル	LL	1446 総合英語2上級	宇川	3203				
							1058 総合英語2上級	ゲイル	LL	1447 総合英語2上級	宇川	3203				
							1059 総合英語2上級	ゲイル	LL	1448 総合英語2上級	宇川	3203				
							1060 総合英語2上級	ゲイル	LL	1449 総合英語2上級	宇川	3203				
							1061 総合英語2上級	ゲイル	LL	1450 総合英語2上級	宇川	3203				
							1062 総合英語2上級	ゲイル	LL	1451 総合英語2上級	宇川	3203				
							1063 総合英語2上級	ゲイル	LL	1452 総合英語2上級	宇川	3203				
							1064 総合英語2上級	ゲイル	LL	1453 総合英語2上級	宇川	3203				
							1065 総合英語2上級	ゲイル	LL	1454 総合英語2上級	宇川	3203				
							1066 総合英語2上級	ゲイル	LL	1455 総合英語2上級	宇川	3203				
							1067 総合英語2上級	ゲイル	LL	1456 総合英語2上級	宇川	3203				
							1068 総合英語2上級	ゲイル	LL	1457 総合英語2上級	宇川	3203				
							1069 総合英語2上級	ゲイル	LL	1458 総合英語2上級	宇川	3203				
							1070 総合英語2上級	ゲイル	LL	1459 総合英語2上級	宇川	3203				
							1071 総合英語2上級	ゲイル	LL	1460 総合英語2上級	宇川	3203				
							1072 総合英語2上級	ゲイル	LL	1461 総合英語2上級	宇川	3203				
							1073 総合英語2上級	ゲイル	LL	1462 総合英語2上級	宇川	3203				
							1074 総合英語2上級	ゲイル	LL	1463 総合英語2上級	宇川	3203				
							1075 総合英語2上級	ゲイル	LL	1464 総合英語2上級	宇川	3203				
							1076 総合英語2上級	ゲイル	LL	1465 総合英語2上級	宇川	3203				
							1077 総合英語2上級	ゲイル	LL	1466 総合英語2上級	宇川	3203				
							1078 総合英語2上級	ゲイル	LL	1467 総合英語2上級	宇川	3203				
							1079 総合英語2上級	ゲイル	LL	1468 総合英語2上級	宇川	3203				
							1080 総合英語2上級	ゲイル	LL	1469 総合英語2上級	宇川	3203				
							1081 総合英語2上級	ゲイル	LL	1470 総合英語2上級	宇川	3203				
							1082 総合英語2上級	ゲイル	LL	1471 総合英語2上級	宇川	3203				
							1083 総合英語2上級	ゲイル	LL	1472 総合英語2上級	宇川	3203				
							1084 総合英語2上級	ゲイル	LL	1473 総合英語2上級	宇川	3203				
							1085 総合英語2上級	ゲイル	LL	1474 総合英語2上級	宇川	3203				
							1086 総合英語2上級	ゲイル	LL	1475 総合英語2上級	宇川	3203				
							1087 総合英語2上級	ゲイル	LL	1476 総合英語2上級	宇川	3203				
							1088 総合英語2上級	ゲイル	LL	1477 総合英語2上級	宇川	3203				
							1089 総合英語2上級	ゲイル	LL	1478 総合英語2上級	宇川	3203				
							1090 総合英語2上級	ゲイル	LL	1479 総合英語2上級	宇川	3203				
							1091 総合英語2上級	ゲイル	LL	1480 総合英語2上級	宇川	3203				
							1092 総合英語2上級	ゲイル	LL	1481 総合英語2上級	宇川	3203				
							1093 総合英語2上級	ゲイル	LL	1482 総合英語2上級	宇川	3203				
							1094 総合英語2上級	ゲイル	LL	1483 総合英語2上級	宇川	3203				
							1095 総合英語2上級	ゲイル	LL	1484 総合英語2上級	宇川	3203				
							1096 総合英語2上級	ゲイル	LL	1485 総合英語2上級	宇川	3203				
							1097 総合英語2上級	ゲイル	LL	1486 総合英語2上級	宇川	3203				
							1098 総合英語2上級	ゲイル	LL	1487 総合英語2上級	宇川	3203				
							1099 総合英語2上級									

福岡県立大学 アニュアルレポート

令和 8 年 2 月 1 日 発行

発行部署 福岡県立大学 I R 推進室

〒825-8585 福岡県田川市大字伊田4395番地

TEL (0947)42-2118 FAX (0947)42-6171

URL <http://www.fukuoka-pu.ac.jp>

